

三重縣公報(第百三十一號)明治三十四年三月三十一日第三種郵便物認可

# 三重縣公報 第百三十一號

大正二年十一月二十五日

火曜日

## ○告示

●三重縣告示第四百十五號

明治四十年三重縣令第五十四號第四條ニ依リ施行スヘキ清潔方法施行期間左ノ通定ム

大正二年十一月二十五日 三重縣知事 俵 孫 一

自大正二年十一月十五日

至 同三年三月三十一日

●三重縣告示第四百十六號

左記ノ者ヘ頭書ノ通小學校教員免許狀ヲ授與セリ

大正二年十一月二十五日 三重縣知事 俵 孫 一

小學校本科正教員 澁 谷 一 郎

●三重縣告示第四百十七號

度會郡内城田村大字葛原地内耕地整理換地處分ノ件大正二年十一月十九日認可セリ

大正二年十一月二十五日 三重縣知事 俵 孫 一

●三重縣告示第四百十八號

左記ノ者頭書ノ事故ニ依リ大正二年十一月十八日產婆名簿ノ登錄ヲ訂正セリ

大正二年十一月二十五日

三重縣知事 倭 孫 一

南牟婁郡鵜殿村三百二十二番地ノ  
一、轉住開業

南牟婁郡鵜殿村九十三番屋敷平民  
産婆 西 本 た み

明治十四年十二月一日生

○彙報

●町村長助役認可

十一月二十一日

度會郡神社町助役 鈴木米四郎

●曩ニ本縣實業視察員ヲ囑託シ廣島、岡山、滋賀ノ各縣ニ於ケル勸業、教育、衛生、自治ニ關スル事項ノ調査ヲ命シタル視察員藤田幸太郎、金杉啓次郎ヨリ提出セル復命書別冊ノ要

○褒賞

金貳圓 三重郡 榎濱尋常高等小學校 河原田 林 重太郎  
村 築費

金壹圓五拾錢	同	同郡 幸七三女
金壹圓	同	榎濱村 川喜田ゆう
金壹圓	同	勤七等 今村 金司
金壹圓	同	三重郡 さう賀養子
金壹圓	同	榎濱村 長谷川民雄
金壹圓	同	同 藤田増太郎
金壹圓	同	同 さう長女
金壹圓	同	同 長谷川せら
金壹圓	同	同 亮妹
金壹圓	同	同 加藤 あい
金壹圓	同	安濃郡 泰助三男
金壹圓	同	安東村 井上 長夫
金壹圓	同	河藝郡 伊藏長女
金壹圓	同	黒田村 鈴木とみる
瓦參百枚	同校々 舎改築 用	三重郡 河原田 中村伊之松

金參圓	三重郡 榎濱尋常高等小學校 坂倉 一雄
金壹圓	同郡小 雄治郎次男
同	山田村 鎌井 定雄
同	四日市 泗水昆虫研 究會代表者
同	市第六 尋常小 市 四日市 正八位
同	青物蔬菜標本 學校備 品 市 山内甚太郎
金五圓	北牟婁郡 尾鷲 三重縣 實也次男
同	同 尾鷲 士族 栗原 信
同	同 正敬長男
同	同 矢杉 正二
同	同 北牟婁鉄之助孫
同	同 郡尾鷲 内山 光鉄
同	同 準吉二男
同	同 宮井 謙平
同	同 角市二男
同	同 丙午

金五拾錢	同	計一弟 田村 託三
金五拾錢	同	同 彌三吉長男
金五拾錢	同	同 長野 泰一
金五拾錢	同	同 忠兵衛妹
金五拾錢	同	同 北村 美代
金五拾錢	同	同 健助五男
金五拾錢	同	同 石淵 五郎
金五拾錢	同	同 九太郎二男
金五拾錢	同	同 南 清十郎
金五拾錢	同	同 伊之助二男
金五拾錢	同	同 岩上 九一
金五拾錢	同	同 くに長男
金五拾錢	同	同 仲 隆男
金五拾錢	同	同 茂八二男
金五拾錢	同	同 平山 清
金五拾錢	同	同 飯南郡 鶴松長男
金五拾錢	同	同 川添村 龜井 鶴雄
金五拾錢	同	同 桑名郡 長太郎長男
金五拾錢	同	同 楠村 黒岩 清
金參拾錢	同	同 北牟婁 初太郎三女
金參拾錢	同	同 郡尾鷲 長尾喜代か







金拾錢	同	同	申之助二女 天満やすか	金拾錢	同	同	留吉五女 小倉 きん
金拾錢	同	同	榮太郎妹 湯淺やぐる	金拾錢	同	同	哲助長女 堀口よきる
金拾錢	同	同	常右衛門孫 内山つるる	金拾錢	同	同	米太郎二女 湯淺きまら
金拾錢	同	同	松島ふくる	金拾錢	同	同	敬一郎妹 奥村 三四
金拾錢	同	同	市松孫 二郷はつる	金拾錢	同	同	計一妹 田村 文惠
金拾錢	同	同	元助四女 垣内まさの	金拾錢	同	同	米助長女 津村 重枝
金拾錢	同	同	平造長女 太田ふじる	金拾錢	同	同	兼助長女 太田 りる
金拾錢	同	同	萬之助養子 世古よるほ	金拾錢	同	同	六兵衛二女 明慶 千喜
金拾錢	同	同	與四藏三女 東 ことよ	金拾錢	同	同	袖松三女 北村はるる
金拾錢	同	同	米太郎四女 莊司たづる	金拾錢	同	同	常松姪 湯淺 藤枝
金拾錢	同	同	清藏長女 小部 せき	金拾錢	同	同	楠藏長女 植田 千鶴
金拾錢	同	同	玉藏長女 小島としる	金拾錢	同	同	治助二女 山田まづる
金拾錢	同	同	周之助二女 鈴木みちか	金拾錢	同	同	

金拾錢	同	同	仲之助三女 高濱 まき	金拾錢	同	同	久助次男 吉澤 利一
金拾錢	同	同	勘松孫 小芝まづる	金拾錢	同	同	藤兵衛長男 黒 庄次郎
金拾錢	同	同	芳松三女 高芝 さい	金拾錢	同	同	兼太郎三女 岡 ちか
金拾錢	同	同	忠太郎二男 仲本 吉藏	金拾錢	同	同	長三郎長女 岡 みつる
金拾錢	同	同	清吉二男 東 仲助	金拾錢	同	同	武吉二男 東 安平
金拾錢	同	同	松太郎長男 森下兵次郎	金拾錢	同	同	百助藤子 柏谷 彌七
金拾錢	同	同	松次郎長女 野澤 はん	金拾錢	同	同	辰五郎二男 吉澤益次郎
金拾錢	同	同	政吉二女 仲 さか	金拾錢	同	同	世古 ちる
金拾錢	同	同	清吉長女 東 てる	金拾錢	同	同	惣治長女 東 さかゑ
金拾錢	同	同	和市長女 橋本 喜代	金拾錢	同	同	芳五郎長女 西 とみる
金拾錢	同	同	喜藏孫 北村 儀平	金拾錢	同	同	直太郎長男 東 徳藏
金拾錢	同	同	光太郎三女 東 きさみ	金拾錢	同	同	宇市二男 北村 仲一
金拾錢	同	同	忠次郎長男 岡藤 平	金拾錢	同	同	

金拾錢	同	同	春吉三男 樋口重次郎	金拾錢	同	同	與市二男 村田兼松
金拾錢	同	同	芳三郎長男 楠伊太郎	金拾錢	同	同	文之助長男 村田猶太郎
金拾錢	同	同	友助三男 福山久松	金拾錢	同	同	留五郎長男 湯淺彌吉
金拾錢	同	同	去げ三男 北村植太郎	金拾錢	同	同	米吉二男 大友義生
金拾錢	同	同	吉藏四男 山本芳一	金拾錢	同	同	由吉長男 稻垣平五郎
金拾錢	同	同	留助三女 中村ふさへ	金拾錢	同	同	己之助孫 山本峯一
金拾錢	同	同	いね長女 仲ごくゑ	金拾錢	同	同	熊吉二男 村田柳平
金拾錢	同	同	儀市長女 相賀ちよか	金拾錢	同	同	竹松三男 前川多三郎
金拾錢	同	同	又市二男 湯淺久一	金拾錢	同	同	よね二男 堀端良太郎
金拾錢	同	同	安太郎二男 東順之助	金拾錢	同	同	福太郎弟 小倉利平
金拾錢	同	同	新次郎五男 村田芳六	金拾錢	同	同	濱助長男 濱野林平
金拾錢	同	同	兼吉三男 花本彌九郎	金拾錢	同	同	初五郎孫 吉澤初市

金拾錢	同	同	九市長男 村田重平	金拾錢	同	同	熊吉養子 濱口國次郎
金拾錢	同	同	宇吉三男 東萬右衛門	金拾錢	同	同	齊五郎四男 北村徳男
金拾錢	同	同	春吉長男 藤田良平	金拾錢	同	同	仙助孫 太田堇作
金拾錢	同	同	彌五郎長男 中野只一	金拾錢	同	同	元吉五男 山口五治
金拾錢	同	同	鶴松二男 伊藤紋太郎	金拾錢	同	同	龜助二男 谷口捷平
金拾錢	同	同	二村文長	金拾錢	同	同	和吉孫 川端定一
金拾錢	同	同	丈太郎二男 大和勝次	金拾錢	同	同	重次郎長男 堀口則平
金拾錢	同	同	萬次郎長男 明慶楠太郎	金拾錢	同	同	彦三郎長男 内山光三
金拾錢	同	同	てる長男 山本貞一	金拾錢	同	同	忠次郎三男 高村壽明
金拾錢	同	同	岩太郎長男 伊藤繁市	金拾錢	同	同	抑三郎四男 濱田普五郎
金拾錢	同	同	増之助二男 仲國平	金拾錢	同	同	定吉二男 濱權太郎
金拾錢	同	同	正平長男 湯淺正一	金拾錢	同	同	芳助二男 澤吉政喜次

金拾錢	同	幸吉三男	福太郎長男
金拾錢	同	森田 正	覆本新太郎
金拾錢	同	延之助庶子	耕作長男
金拾錢	同	堀口 政男	垣内 暉男
金拾錢	同	四郎吉長男	米太郎四男
金拾錢	同	北村 清八	湯淺 勝馬
金拾錢	同	長次郎長男	庄吉長男
金拾錢	同	服部 長雄	山城 泰平
金拾錢	同	政雄三男	松太郎養子
金拾錢	同	宮澤 幸作	内山 駒一
金拾錢	同	熊五郎四男	太一二男
金拾錢	同	太田君三郎	中瀬 金市
金拾錢	同	勘松四男	七五六長男
金拾錢	同	内山 浦助	湯淺 芳一
金拾錢	同	亥之助孫	榮次郎長男
金拾錢	同	高山 數雄	鈴木千代次郎
金拾錢	同	直吉二男	仁市長男
金拾錢	同	竹本 唯雄	五十子良一
金拾錢	同	幸作三男	松太郎二男
金拾錢	同	長原 龜吉	山本 孝平
金拾錢	同	金藏長男	武助長男
金拾錢	同	前出 盛一	中村芳太郎
金拾錢	同	長次郎長男	龜吉孫
金拾錢	同	堀田 舜一	濱 玉太郎

金拾錢	同	大助二男	耕二次男
金拾錢	同	山本 金助	河口 晴男
金拾錢	同	太郎吉二男	濱助二男
金拾錢	同	井瀬 東	濱野 靜夫
金拾錢	同	友次郎長男	山本 勝平
金拾錢	同	高木藤太郎	荒之助甥
金拾錢	同	辰之助二男	田仲 智
金拾錢	同	太田 勝平	市太郎三男
金拾錢	同	米助三男	下村 光夫
金拾錢	同	津村 逸平	增吉二男
金拾錢	同	忠藏二男	谷口 末吉
金拾錢	同	嘉田 萬藏	喜市二男
金拾錢	同	官平長男	濱田 芳平
金拾錢	同	高芝 芳平	良吉孫
金拾錢	同	秀太郎長男	大倉 義夫
金拾錢	同	中村 辰平	圓吉二男
金拾錢	同	安太郎二男	吉田 勝次
金拾錢	同	大戶勝太郎	多吉長男
金拾錢	同	赤み孫	高濱 初男
金拾錢	同	沖中 敏市	大次郎四男
金拾錢	同	留吉二男	湧淺 秋夫
金拾錢	同	小倉 末市	たけ四男
金拾錢	同	新松四男	大阪 駒郎
金拾錢	同	小川四郎吉	

金拾錢	同	同	德松二男	金拾錢	同	同	庄三郎孫
金拾錢	同	同	小原 勝市	金拾錢	同	同	泉 政一
金拾錢	同	同	三之助六男	金拾錢	同	同	米三郎二男
金拾錢	同	同	橘山 勝三	金拾錢	同	同	今西 金三
金拾錢	同	同	道之助二男	金拾錢	同	同	周次郎長男
金拾錢	同	同	高木 勇	金拾錢	同	同	東 盛太郎
金拾錢	同	同	宗一弟	金拾錢	同	同	芳太郎長男
金拾錢	同	同	肥田 豪	金拾錢	同	同	下地 稔男
金拾錢	同	同	嘉藏長男	金拾錢	同	同	芳平長男
金拾錢	同	同	橋川 渡	金拾錢	同	同	田邊 正一
金拾錢	同	同	惠太郎三男	金拾錢	同	同	角之助長男
金拾錢	同	同	那良 辰藏	金拾錢	同	同	植野 鮑男
金拾錢	同	同	富次郎長男	金拾錢	同	同	源右衛門長男
金拾錢	同	同	湯淺 德平	金拾錢	同	同	南 好之助
金拾錢	同	同	宗市孫	金拾錢	同	同	ふみ四男
金拾錢	同	同	谷口 公生	金拾錢	同	同	藤本 卷三
金拾錢	同	同	徳五郎二男	金拾錢	同	同	角次郎三男
金拾錢	同	同	沖中 佐一	金拾錢	同	同	内山 清六
金拾錢	同	同	新三郎長男	金拾錢	同	同	村田 紀夫
金拾錢	同	同	阪口 磐門	金拾錢	同	同	喜市姪
金拾錢	同	同	治之助三男	金拾錢	同	同	黒 ほう
金拾錢	同	同	山城 治平	金拾錢	同	同	松太郎長男
金拾錢	同	同	藤太郎三男	金拾錢	同	同	山本 芳平
金拾錢	同	同	米倉 勇	金拾錢	同	同	

金拾錢	同	同	平之助姪	金拾錢	同	同	太郎兵衛孫
金拾錢	同	同	龜田ふじゑ	金拾錢	同	同	岩本あさよ
金拾錢	同	同	南 市江	金拾錢	同	同	儀八妹
金拾錢	同	同	定助長女	金拾錢	同	同	湯淺 ゑん
金拾錢	同	同	藤原とよう	金拾錢	同	同	鉄次郎長女
金拾錢	同	同	悦太郎養子	金拾錢	同	同	佐藤 一枝
金拾錢	同	同	大藤まげの	金拾錢	同	同	信次郎姪
金拾錢	同	同	兵市四女	金拾錢	同	同	北村 静枝
金拾錢	同	同	山城 たに	金拾錢	同	同	金之助長女
金拾錢	同	同	藤太郎妹	金拾錢	同	同	高濱ちをゑ
金拾錢	同	同	内山 めめ	金拾錢	同	同	福藏長女
金拾錢	同	同	藤太郎長女	金拾錢	同	同	小河 ふさ
金拾錢	同	同	神保 ふゑ	金拾錢	同	同	俊吉二男
金拾錢	同	同	久吉四女	金拾錢	同	同	東 勝平
金拾錢	同	同	内山 こめ	金拾錢	同	同	利太郎四男
金拾錢	同	同	高市三女	金拾錢	同	同	南 文平
金拾錢	同	同	高濱むつゑ	金拾錢	同	同	恒三郎長男
金拾錢	同	同	定太郎二女	金拾錢	同	同	山口 恒男
金拾錢	同	同	高村千代榮	金拾錢	同	同	房吉弟
金拾錢	同	同	勝之助長女	金拾錢	同	同	野村芳次郎
金拾錢	同	同	竹田 とも	金拾錢	同	同	注連松孫
金拾錢	同	同	倉吉妹	金拾錢	同	同	大矢 孫一
金拾錢	同	同	東 ため	金拾錢	同	同	忠次郎二男
				金拾錢	同	同	高村 嘉春

金拾錢	同	同	耕二長男
金拾錢	同	同	河口 公平
金拾錢	同	同	市松孫
金拾錢	同	同	岩本 福市
金拾錢	同	同	傳之助二男
金拾錢	同	同	濱端 周平
金拾錢	同	同	楠藏二男
金拾錢	同	同	植田 孝雄
金拾錢	同	同	豐松長男
金拾錢	同	同	西 勝一
金拾錢	同	同	新次郎二男
金拾錢	同	同	世口 仁平
金拾錢	同	同	善太郎二男
金拾錢	同	同	湯淺 切平
金拾錢	同	同	辨次郎四男
金拾錢	同	同	湯淺 準一
右頭書ノ通寄付候段奇特ニ候事			
大正二年十一月二十日			
三重縣知事從四位勳三等 侯 孫一			

大正二年十一月二十五日印刷發行

三重縣公報(第三種郵便物認可)

三重縣廳  
三重縣津市北町拾貳番屋敷  
印刷兼販賣所 遵法社 松田武兵衛

三重縣公報第百三十一號附錄

大正二年十一月二十五日

# 實業視察復命書

藤田 幸太郎  
金杉 啓次郎

復命書

一 視察員

縣會議員

藤田幸太郎

同

金杉啓次郎

一 視察事項

勸業 教育 衛生 自治

一 視察地方

廣島縣 岡山縣 滋賀縣

目次

(甲) 岡山縣

(一) 總說

(二) 花筵製織事業

(三) 兒島灣開墾事業

(四) 兒島郡八濱町ノ治績

(五) 備作惠濟會事業

(六) 岡山縣立農事試驗場

(七) 岡山縣戰勝紀念圖書館

(八) 倉敷町大原家獎農施設

(九) 岡山市汚物處分方法

(一〇) 私立中學閑谷蠻

(乙) 廣島縣

(一) 總說

(二) 廣島縣米穀検査並ニ米券倉庫

(三) 廣島縣青年團

(四) 同衛生展覽會

(五) 廣島縣立農事試驗場已斐分場

(六) 佐伯郡河内村自治狀態

(七) 廣島縣立職工學校

(丙) 滋賀縣

(一) 總說

(二) 琵琶湖

(三) 滋賀縣立水産試驗場

(四) 野州郡兵主村自治狀態

(五) 同 小津村自治狀態

(六) 琵琶湖水産物販賣購買組合

(七) 近江米同業組合

(丁) 總ハテニ就キテノ意見

(戊) 補遺

(甲) 岡山縣

(一) 總說

視察細目ニ入ルニ先タテ先ヅ其縣ノ輪廓ヲ畫カサルベカラズ

面積四百五十四方里九二

海岸線百三十里

現任戶數二十四萬二千八百戶

現任人口百二十五萬人

田畑十二萬五千七百町

十九郡一市三十四町三百六十六箇村

生産額金九千五百八拾五萬圓

内重ナルモノハ

農産物 金四千參百八拾參萬圓

工産物 金四千貳百五拾七萬圓

林産物 金參百五拾七萬圓

水産物 金貳百九拾四萬圓

大正元年度經常費金百貳拾八萬圓

内

教育費參拾壹萬圓 百分率二十四%強

小學教育ハ統計上ニ於テ皆良好ナリ其内容ニ至リテハ専門家ノ範疇ニ屬スレバ之ヲ省ク中等教育ニ至リテハ師範學校一、女子師範學校一、中學校四、工業學校一、商業學校一、高等女學校二、農學校一合計十一ノ縣立學校アリ其經常費合計金貳拾九萬九千五百圓之ニヨリ養成セル生徒數四千九百八十六人ナリ其内中學校四其經常費金八萬五千八百圓生徒數二千八百八十三人、高

等女學校二其經常費金參萬貳千圓生徒數九百八十四人ナリ  
 他ニ私立學校或ハ郡町立學校ノ重ナルモノ二十四校其經常費計金拾八萬八千四百八拾圓養成セ  
 ル生徒數六千六百十九人其中私立中學校六經常費計金八萬圓生徒數二千九十七人、市郡町立商  
 業學校四經常費計金貳萬壹千七百圓生徒數九百四十九人、町私立高等女學校七經常費計金五萬  
 六百四拾圓生徒數千六百十七人、町村立實科高等女學校三經常費計金壹萬千八百八拾圓生徒數四  
 百八十四人ナリ之ニ對スル縣費補助金計壹萬七千四百參拾圓、郡費補助金計七千貳圓五拾圓、  
 市町補助金計千五百圓、個人團體ノ補助金計四千七百七拾圓ナリ  
 之ヲ我三重縣ニ比較スルニ人口ニ於テ約十六萬人縣經常費ニ於テ約拾參萬圓生産價額ニ於テ五  
 百萬圓勝レルノミニシテ中等教育ノ生徒數ニ於テ約二倍ニ上リ内中學校ニ於テハ二倍二分高等  
 女學校ニ於テハ二倍四分商業學校ニ於テ三倍強ニ上ル其懸隔ノ甚シキ驚嘆ニ價スト謂フベシ思  
 フニ二百五十年前池田光政育英ニ腐心シ熊澤藩山津田永忠ヲシテ施設經營セシメシモノ大ニ士  
 庶向學ノ氣風ヲ興起セシメ其餘響今ニ至リテ猶衰ヘザルモノカ

勸業費約金參拾貳萬七千圓

此中ニテ各種ノ獎勵ニ約金六萬圓ヲ支出シ臨時費各種ノ補助ニ於テ亦金六萬圓ヲ支出ス蠶業上  
 ノ生産額ハ農産物總生産額ニ對スルニ二%六四ニ當リ我縣ノ背後ニアルモノニシテ桑園荒廢ノ救  
 濟ニツキテモ採リテ以テ參考ノ料トスルニ足ルモノナシ

農業改良實行成績ニツキテハ其實行セラル、割合米種子鹽水撰八四、麥班葉病及黑穗ノ豫防五  
 五、共同苗代一七、稻正條植九八%ニ當リ正條植ノ如キハ殆ンド普遍的ニ實行セラル

(二) 花莖製織事業

郡窪郡妹尾ハ民家多ク花莖疊表莫産ヲ織ル疊表莫産ハ別ニ大ナル工場ノ製造品ニ非ズシテ悉ク

農夫町家ノ子女ガ閑暇ヲ利用シテ副業トシテ製織セルモノナレドモ花莖ニ至リテハ資本主アリ  
 テ數十人ノ工女ヲ集メ幾十機臺ヲ並ベテ之ヲ織ラシム若キ女子ガ節面白ク歌フ聲ハ梭音ニ相和  
 シテ甚タ賑ハシ佐藤安兵衛ノ工場ニ入りテ之ヲ見ル製織セル工女二十人餘男工三四人アリ花莖  
 一本ハ二十間(四十ヤード)ニシテ工賃普通參圓ヨリ壹圓五拾錢ナリ巧ミナルモノハ一日七間ヲ  
 織ルモノアレドモ普通ハ四五間ナリト云フ需用供給ノ狀況ニヨリ又製織營業ニ關スル諸種ノ弊  
 害等ヨリシテ數年毎ニ頓挫スルヲ以テ既往ノ統計ハ其產額甚シキ波狀ヲ呈ス明治三十一年岡山  
 縣花莖同業組合ヲ設立シ地區ヲ二十一部ニ分チ各部ニ検査員ヲ置キ組合員ノ營業品ヲ検査シ諸  
 種ノ弊害ヲ矯正シ優良品ノ生産ニ努メ斯業一般ノ利益ヲ計ルコトトナレリ  
 今ヤ蘭草ハ各縣ニ栽培セラレ優良ナル製織品ヲ出スノミナラズ清國花莖ノ發達著シク米國モ亦  
 天産物ヲ利用シテ盛ニ製莖ニ從事スルニ至レリナレバ斯業者ハ大ニ覺醒シテ一層ノ努力ヲナシ  
 ツ、アリ

明治四十一年調ニヨレバ縣下ノ產額ハ

量表產額及價格 莫産 同上 花莖 同上 蘭草作付反別

二、七六八、七二六枚 一〇一、四五〇枚 四六八、四五八本 一、三九一町九反

八八六、二七二圓 一三、〇八二圓 三、七七〇、七〇〇圓

内都窪郡花莖ノ產額二十三萬四千八百三十九本價格百九拾四萬貳千五百貳拾參圓ニ上レリ

神戸花莖検査所ニ於ケル検査高ハ

岡山縣 四五三、九二八本 三、六〇四、八七三圓

廣島縣 一一〇、三〇二本 七〇〇、七五七圓

福島縣 一一六、七八四本 五八一、七五五圓

香川縣	一九、二九一本	一二八、八七六圓		
石川縣	一五、二二四本	八三、七三二圓		
其他十八縣ハ僅少ナルモノニ付之ヲ畧ス				
合計	七三六、九〇九本	五、一八〇、六七九圓		
神戶ヨリ外國へ輸出仕向先 (明治四十二年調)				
米國諸州	五一八、三七〇圓			
カナダ	二八、八三六圓			
英國	八、三四二圓			
香港	六、三七一圓			
其他ハ僅少ナルモノニ付之ヲ畧ス				
計	五八七、一〇三圓			
外國ニ於ケル用途ハ數物ニ用キラレ又上等品ニアリテハ室内ノ裝飾ニ供セラル				
花庭同業組合ノ經費ハ明治三十一年度ニハ參千百六拾圓ナリシガ四十三年度ニハ壹萬壹千八百貳拾參圓トナリ縣費ヨリ金七百八拾圓ヲ補助セラル				
明治四十四年ノ調ニヨレバ				
蘭草作付反別	花庭機業家	職 工 產 額 價 格		
一、二四二町	九三〇戶	二六、〇五九人	三五三、四七三本	二、四七六、七六二圓
ニシテ明治四十一年ニ比スレバ稍衰退ノ傾キアリ				
花庭中最生産額ノ多キハ並花庭ニシテ錦堯堯綾絳等ハ製織少シサレド其上等品ニ至リテハ一本拾五圓以上工賃亦五圓以上ナリ				

意見

蘭草ハ其土質ノ適不適アルベク又特種ノ栽培法アルベク殊ニ乾燥ニツキテハ大ニ其地ノ天候ニ關スルヲ以テ直チニ採リテ以テ我縣ニ移スベカラズト雖生活程度ノ向上人口ノ繁殖ハ農業ヲシテ自ラ集約的ノモノタラシメザルベカラズ且普通農家勞動ノ狀況ハ插苗除草及秋收ノ時季ヲ除ケバ幾分ノ冬作ト肥料ノ準備等ニ要スル日子以外其努力ヲ用ユル處ナキヲ以テ此農閑ノ時ニ適セル恰當ノ副業ヲ發見セザルベカラズ蘭草栽培ノ如キハ多クノ努力ヲ要シ一反歩ノ收支百圓以上ナルト且其製織作業ハ農閑時ヲ利用スルヲ得ルモノナルトノ二点ヨリ戶數人口ノ多キ割合ニ耕地ノ少キ農村ニ對シテハ大ニ適セルモノニアラザルカ專門家ノ一考ヲ煩サントス尙妹尾附近ニテハ副業トシテ麥稈細工足袋縫子等ヲモナスモノ多シト云フ

(二) 兒島灣開墾事業

一望耕地其盡クル處ヲ知ラズ唯農舍ノ其間ニ点々タルモノ是兒島灣開墾地ノ概景ナリ  
兒島灣口ニハ東ニ吉井川アリ西ニ旭川アリ其他灣内ニ注入スル小川多ク出水毎ニ其吐出スル淤泥灣内ニ堆積シ其一川ノ注口ヲ除クノ外ハ殆ンド全部沖積層ノ粘土ニシテ開墾ニハ適良ノ地ナシバ往昔ヨリ之ヲ企劃セシモノ多ク伊木某西穀一等之ニ指ヲ染メシモ種々ノ事情ノ爲メニ頓挫セシガ明治二十二年大坂ノ富豪藤田傳三郎行政廳ノ許可ヲ得之ヲ經營施設シ今ヤ殆ンド其三分ノ一ノ功程ヲ了レリ開墾許可ノ當時灣内沿岸ノ漁民ハ爲メニ生計ノ途ヲ失フト叫ビ人心沸騰シ數百艘ノ漁船ヲ漕キ連テテ旭川ヲ遡リ縣廳ニ迫リ形勢頗ル不穩ナリシニ當時ノ縣書記官野崎萬三郎之ヲ鎮撫シテ事ナキヲ得タリト云フ  
開墾設計ハ獨人某ノ立案ニ成リ八區五千二百五十五町歩ニシテ明治三十二年ヨリ三十七年ニ亘リ第一區第二區ノ築堤工ヲ竣ヘ堤内廣袤千七百五十三町歩今ニ至ルマデ十幾年間開發ノ苦心頗

ル慘澹タルモノアリ

- 一、明治三十五年九月ノ大暴風雨ニ堤防決潰シ作附地全部沙入トナリヌ
- 一、右ヨリ以前明治三十三年夏作潮水侵入ノ爲メ枯死セシヲ始メトシ其後モ地中ノ塩分除去セザルヲ以テ堀抜井戸ヲ鑿チ灌漑水ヲ得ムトセシニ頗ル難工事ニシテ七十間以上穿堀セシモ噴水塩分ヲ含ミ用ヲ爲サズ農區中場所ニヨリテハ飲料水一荷七斗ニ對シ拾錢ノ代價ヲ以テ購求セシ如キコトアリタリ姉尾川丙川彥崎川等平時ハ水量乏シク之亦灌漑ノ用ヲ爲サズ依ツテ隣郡御津郡ノ村落ヨリ耕地灌漑ノ餘水ヲ引キほんぶ(二十四いんち)ヲ以テ之ヲ汲ミ上ゲ水路ヲ通シテ耕地ニ灌漑ス猶補助トシテ新潟縣樺木式ノ水揚機ヲ用キ又海岸ノ二重堤防内ニ大ナル貯水池ヲ設ケ雨量ノ多キ時川ノ上流ノ方ヨリ水ヲ貯水池ニ導キ置キ之ヲ灌漑水ニ用ユ
- 一、年ヲ經ルニ從ヒ表土ノ鹽分ハ自カラ減シ年々多少ノ收穫アリ明治三十八年第一區ヲ高崎農區第二區ノ中第一區ニ近キモノヲ都農區(内大曲郡ノ二ニ分ツ)其北東ニ當レルモノヲ錦農區ト命名シテ其内四百餘町歩ヲ小作制トセリ小作農ニハ移住ト通小作トアリ小作米ハ未ダ定メ難キヲ以テ檢見法ニヨリテ年々ノ徵收歩合ヲ定ム小作地ハ多ク二毛作ナリ
- 一、此時ニ至ルマデニ全地ノ道路用惡水路畦畔電話橋梁等略々竣成シ排水樋門等ノ重要工事も明治四十二年頃全部工事を終ヘタリ
- 一、自營ノ準備ニ着手セシハ明治四十年四十一年ノ交ニシテ三農區ニ亘リ大農式ニ近キ經營ヲ開始セリ
- 一、今日ニ至リテハ堤外第六區第七區ノ沿岸ハ游泥沈澱堆積ノ爲堤内ノ耕地ニ比シ五寸乃至一尺位高クナレリ
- 一、始メヨリ凡ベテノ經費一反當リ約參百五拾圓ニ上レリ斯ク多額ノ資金ヲ固定セシムルハ込

- モ營利的ニ適セサルカ如キモ土壤深ク總ベテ沃土ナレバ將來大ニ有望ナリト云フ
- 一、七百九十餘町歩ハ自營制ニシテ三農區トモ各中央ニ事務室機關室作業室等アリ其左右適當ノ距離ヲ保チテ大路ニ添ヒ一直線ニ農夫舍點在ス構造ハ棟割長屋式ニシテ一棟多ク四家族ヲ住セシメ耕地四町歩ヲ一區トシ一家族ニ二區八町歩ヅ、ヲ作付セシム
- 一、三農區各稻扱器械日磨設備並ニ作業ニ原動力ヲ供給スル機關ヲ据ヘ附ク高崎區ノモノ最モ古ク錦區ノモノ最モ新ラシ汲上ケばんぶハ錦區ニ屬ス
- 農區ノ作業室ヲ見ムトシ高崎農區ヲ擇ビ其事務所ニ至ル其間ニ石堤一線長ク亘レルヲ路左ニ見ル是昔年海岸堤防ノ名殘ナリト云フ道路溝渠縱橫ニ通シ四望實ニ爽快ナリ事務員ニツキ聞ク所次ノ如シ

- 一、自營農業ハ畧々大農式ニ近キモノニテ可及的機械力ヲ利用シ人力ヲ節減スルコト、セリ
- 一、耕深ハ牛馬耕ノ淺キモノニシテ平均二寸位ノ一毛作ナリ
- 一、肥料ハ極メテ少量ニシテ即効ノモノヲ用ユ又糞ヲ元肥トス
- 一、插苗ハ込モ短期間ニ爲シ能ハザルヲ以テ大部分ハ播種器ヲ用キテ直播ス尤モ插秧時期ヨリ餘程以前ニ行フモノナレバ作業上ノ都合宜シ即チ五月初メニ之ヲ行フ播種ニ條播ト點播トアリ條播器ハ約金參拾五圓點播器ハ約金拾五圓共ニ本區農具製作所ノ製造スル所ナリ挽キ手一人押シ手一人一日約一町歩ヲ播種スサレド車輪泥中ニ没シテ運轉澁滞ノ困難アリト云フ
- 一、農夫勞動時間ハ插秧時期ハ約十時間短日ノ時ハ八時間位ナリ最近收穫平均ハ明治四十三年約一石明治四十四年一石八斗弱大正元年二石四斗強(但高崎農區ノ統計)ナリ
- 一、農夫ノ子弟間ニ青年團ヲ設ケ十五歳ヨリ二十一歳マデヲ會員トシ夜學ニ讀書算術習字ヲ教ヘ並ニ年々農事講習會ヲ開キテ普通農事上ノ修養ヲナサシム娛樂俱樂部ヲ事務所ニ置キ小圖

書館ニ書籍ノ閱讀ヲ爲サシメ又年一二回慰勞會或ハ慰勞旅行ヲ爲サシム浪花節嬉劇等ノ藝人ヲ招キテ餘興ヲナスコトアリ又生花柔道等ヲ爲サシムルコトアリ

導カレテ作業室ニ至リ稻扱器械ヲ見ル米國製ニシテ價格參千圓ナリごらひ一分間ニ殆ンド一千回轉ヲ爲シ一時間ニ粃二十石ヲ得補助人夫六人ヲ要ス器械ハ高サ二間位頗ル大ナルモノナリ梯子ヲ架シテ上リ其稻ヲ欲入スレハ器中ニテ鐵製ノ齒ニカ、リ脱粒シ藁屑にご等幾陶汰ヲ經テ粃ハ段々下リテ最下ノ口ヨリ吐キ出サレ藁ハ一尺許リニ切斷セラレテ一方ノ口ヨリ排出セラルトノ説明ヲ聞ク作業室ハ十二三間ニ八九間位建坪約百坪天井ノ高サ四間餘ナリ

他ノ作業室ニ至レバ粃磨臼八臺ヲ(徑二尺位)並べ磨ヲ落シタルモノハ長キ箱筒狀ノモノノ中ヲ通リ唐箕ニ至リソレヨリ千石籠ニ運バレ各器連絡シテ玄米トナルマデノ作業ヲナス一日二百五六十俵ヲ磨リ落スト云フ補助人夫ハ唯二人ヲ要スルノミ粃糠ハ機關室トノ間ヲ連繫シタル長筒中ヲ簸送セラレテ大窠内ニ到リ機關ヲ動かスノ燃料トナル從前燃料ハ石炭ヲ用キタリシガ多量ノ粃糠ノ處置ニ窮セシ餘リ之ヲ石炭ノ代用トシテ試ミタルニ意外ノ好果ヲ得大正元年秋ヨリ之ヲ使用スルコト、ナル爲メニ燃料費約千二百圓許ヲ節約シ得タリト曰磨作業室ハ九間ニ六間位天井ハ非常ニ高シ

次ニ機關室倉庫農具置場等ヲ見十町許ヲ隔ツル海岸堤防ニ至リ常川樋門ヲ見ル全部石造ニシテ木製ノ樋蓋ハねぢニテ上下スル様ニ作ラル外圍ハ皆石堤ナリ時偶々干潮ニ際シ堆埋セル泥土儘カニ堤内ノ地面ヨリ高キガ如シ排水路ノ泥土中ヲ流ル、ハ恰カモ陸地ニ流水アルガ如キ觀アリ貯水池ノ縮ノ發刺タルヲ見ル外堤ニ接セル細長キ池ハ岡山ノ某料理店ノ借地ニカ、リ鰻ヲ養殖シ養魚上ノ收益亦頗ル大ナリト云フ

意見

新田開墾事業ノ如キモノハ始メノ設計豫算以外ニ一面ニハ隣地ノ故障豫想セザル風雨ノ被害等アリ一面ニハ收穫多ク豫定ニ外レ小作農トノ折合付カザル等ノコトアリ初度ノ起業者ハ爲メニ資金ヲ入レ盡シ引續キ之ヲ整理スル餘力ナクシテ失敗ニ了ルヲ常トス

サレド是ハ目前ノ小利ニ迷フ小資本主ノ踏ムベキ誤謬ノ道路ニシテ熟慮精査ノ上遠大ノ計劃ヲ立テ實着ニ經營セバ斯ル失敗ハナカルベシ耕地トシテハ山間原野ノ開拓ヨリモ海面ノ埋立(埋立ト云フハ語弊アリ築堤整地ト云フヲ當レトス)ハ米作ニ適スルヲ以テ米價サヘ相當ノ價格ヲ保タバ海面開墾ハ營利的有望ノ事業ナルベシ加フルニ之ヲ我國產業界ノ狀況ヨリ觀察スルモ一面ニハ餘レル勞力ヲ利用スルト一面ニハ内國ノ需要ニ不足ナル米穀ヲ産スルト社會ニ對シ國家ニ對シ二重ノ貢獻ヲナスモノト謂フベシ我縣下亦其適良ノ地乏シカラザルヲ以テ資産家ハ斯ル事業ニ投資セラレンコトヲ切ニ余等ノ希望スル所ナリ

余等始メテ此地ヲ踏ミ其灌排水路ノ延長四十六里農道六十四里電話線六里橋梁二百六十餘箇所ニ上レルヲ知リ耕地ノ茫茫天ニ接スルヲ見テ爽快禁スル能ハサルヲ覺ヘタリ

(四) 兒島郡八濱町ノ治績

一、沿革

八濱ハモト池田藩ノ水手ヲ出セシ故水手ノ浦トモ云ヒ古ヘヨリノ漁村ナリ町制施行ノ始メ大字八濱大字波知大字見石ノ三部落ヲ以テ組織シ玉井村ト稱セシガ明治三十一年一月八濱町ト改稱シ明治三十六年四月隣村秀天村ノ内大字大崎ハ割キテ本町ニ合併シ明治三十九年四月隣村田井村ノ内字元川ヲ大字八濱ニ字池ノ内ヲ大字大崎ニ合併シ現時ハ八濱波知見石大崎ノ四大字ヨリ成ル

一、戶數人口職業

職業	戶數	人口
職業		
農業	三一六	一、四九五
漁業	二七〇	一、二四〇
商業	一六二	七五四
工業	三九	一八〇
雜業	一三	七七
計	八〇〇	三、七四六

一、土地

田畑 百九十町七反 山林 二百六十二町三反

一、歳入出

經常費 七、九三四<sup>四</sup>三九九 臨時費 四、一八七、七七〇 合計 一二、一二二、一六九

特別會計

一 窮民救助基金 千五百貳拾六圓四拾九錢

此基金ハ現町長藤原元太郎ノ亡父久三郎ノ遺言ニヨリ貧民救助ノ爲トシテ明治三十五年三月同人ヨリ金百圓ヲ寄附セシヲ始メトシ引續キ十數名ヨリ貳拾圓參拾圓ツ、ノ寄附アリト費ヨリモ年々貳拾圓ツ、ヲ補助シ之ヲ積立テ其利金ヲ以テ救助ヲナシ來リシガ明治四十五年一月八濱町窮民救助規程十一箇條ヲ設ケ是ニヨリテ貧窮者不具者孤兒疾病者ヲ救療シ若シ死亡セバ之ガ埋火葬費ヲモ支出スルモノトス

一 町公園基金

明治四十三年十月景勝ノ山地ヲ買入レ引續キ經費ヲ投シテ、忠魂碑ヲ移シ植樹掃除ヲナシ大

正元年度ニハ百六拾四圓五拾錢ヲ支出セリ

一 町基本財産

山林二十九町七反歩保安林九町七反歩此實測反別百二十五町歩モト部落有ナリシヲ明治三十四年町有ニ統一シ同年度ヨリ明治四十三年度ニ於テ全部黒松及樺ノ植樹ヲ完成シタリ其經費總額五千四百拾六圓ヲ計上ス

積立金有價證券四千五百圓

一 學校基本財産

保安林實測反別四十町歩明治三十四年十一月學校林トシ三十五年度ニ於テ全部黒松ノ植樹ヲナス

大正二十一年マデニハ貳萬六千八百八拾壹圓ノ收益アル見込ナリ

積立金有價證券貳千貳百四拾圓

一、重要輸出物品

(一) 海産物(貝類ヲ除ク) 六萬貳千百七拾五圓

(二) 貝類 六萬參千七百八拾圓

(三) 醬油 拾壹萬圓

(四) 織物 四萬貳千圓

(五) 罐詰 壹萬七千五百圓

(六) 果物 壹萬五百圓

合計 參拾萬五千九百五拾五圓

(一) 此生産物ニツキテハ各專業モアレドモ副業トシテ利ヲ得ル町民多シ海産物ハ八濱町漁業

組合大崎漁業組合ノ二組合アリ其漁業者ノ漁獲物ナリ又八濱水産販賣信用購買組合アリ明治三十六年十月ノ創立ニシテ組合員百七十二人出資千貳百貳拾壹圓準備金貳千貳百九拾九圓五拾五錢ヲ有ス明治四十二年産業組合中央會ヨリ第一回模範組合トシテ表彰セラレ明治四十五年亦特別表彰ヲ受ケ産業組合中央會恩賜財産特別獎勵金貳百五拾圓ヲ賜ハル蓋シ特別表彰ノ光榮ニ浴シタルモノハ全國一萬ニ近キ産業組合中兵庫縣石守信用販賣購買組合ト本組合アルノミ

昨大正元年度ノ事業狀況ヲ略叙セバ販賣ニ屬スル鰻魚取扱上ノ情況ハ近年稀ナル不振ヲ呈シタリキ買收ノ數量ニアリテハ敢テ例年ニ下ラザルモ前年以來物價ノ暴騰ニ因リ都市一般ノ不景氣ヲ來シ鰻魚ノ如キハ時運ノ盛衰ヲ感スルコト速カニシテ忽チ市價ノ低落ヲ來シ買收價格ハ之ト伴ヒ難ク地方ノ狀況ニ準シ相當ノ代價ヲ以テ支拂ハザルヲ得ザルガ故買買ノ差益極メテ少額ナリキ

信用事業ニ於テハ本期間組合員ノ利益甚ダ僅少ナルニモ拘ハラズ貯蓄規定ニヨリ組合員ハ相應ノ貯金ヲ爲シタリ貸附金ニアリテハ概シテ前年ノ趨勢ニ異ナラズ購買事業ニ於テハ賣却品中白米ヲ減シ麥ヲ増加セルハ全ク米價ノ騰貴シタル爲生活上ノ困難ヲ感シタル結果自然節約ヲ促シタルモノト思惟セラル其他ハ前年ニ比シ大差ヲ見ザルモ概シテ減少ノ傾キアルハ組合員節約ノ結果ニ外ナラズ叙上ノ如ク本期成績ノ豫期ニ反セシハ甚ダ遺憾ナリシモ一般ノ不況ニ拘ハラズ可ナリノ利益ヲ得タリ

重ナル利益ヲ擧グレバ鰻魚販賣利益金貳千貳百九拾貳圓九拾壹錢購買品賣却利益金千六百七圓九拾參錢五厘ニシテ剩餘金千五百五拾九圓拾五錢八厘ナリ

此處分

一金百六拾貳圓八拾錢 準備金  
 一金貳百七圓五拾七錢 配當金(出資持金ニ對シ年六分弱ノ割)  
 一金七百五拾七圓參拾壹錢五厘 特別配當金  
 一金參百五拾圓 賞與金  
 一金八拾壹圓四拾七錢參厘 後年度繰越金

鰻ノ取扱利益最モ多シサレバ其特別配當ノ如キ稀有ノモノナリ殊ニ其蓄積現程ノ如キ又賞與並ニ窮恤規程學事獎勵規程ノ如キ一讀ノ價值アルヲ以テ此ニ轉載ス

八濱水産販賣信用購買組合附屬諸規程

○蓄積規程

第一條 組合員タル者ハ漁獲高ノ多キ時左ノ標準以上蓄積ヲ爲スベキモノトス

- 一 鰻搔漁業 特網漁業 百分ノ五  
 一人一日金八拾錢以上 百分ノ十  
 同 金壹圓貳拾錢以上 百分ノ十五  
 同 金貳圓以上 百分ノ二十  
 同 金參圓以上  
 一 鰻繩漁業  
 一艘一日金參圓以上 百分ノ五  
 同 金五圓以上 百分ノ十  
 同 金七圓以上 百分ノ十五

同 金拾圓以上 百分ノ二十

一 白魚特網漁業 たいらぎ採漁業

一人一日金壹圓以上 百分ノ五

同 金壹圓五拾錢以上 百分ノ十

同 金貳圓五拾錢以上 百分ノ十五

同 金參圓五拾錢以上 百分ノ二十

第二條 毎期決算ニ際シ配當金並ニ特別配當金ノ二分ノ一以上ハ必ズ蓄積ヲ爲スベキモノトス

第三條 組合員蓄積金ハ組合ヨリ拂渡スベキ金員ヲ以テ引去リ之ヲ組合ヘ貯金ト爲サシムルコト

第四條 組合員ハ左ノ事由アルニ非レバ其貯金ヲ引出スコトヲ得ザルモノトス

一 不動産ヲ買入レ若クハ家屋ヲ建築シタルトキ

二 家族中結婚又ハ分家ヲ爲シタルトキ

三 非常ノ災害ニ罹リタルトキ

四 船舶漁具ノ新調ヲ爲ストキ

五 遠洋漁業ノ爲メ資金ノ必要アリタルトキ

六 副業ヲ爲ス爲メ資金ノ必要アリタルトキ

七 其他理事長ニ於テ必要ト見トメタルトキ

第五條 前各條ノ外組合員ハ紀念貯金約束貯金ヲ爲スベキモノトス

第六條 紀念貯金ハ戊申詔書奉戴紀念トシテ組合員中出生子女アル毎ニ左ノ各項ニ依リ

貯金ヲ爲サシムルモノトス

一 男子一箇年金壹圓以上 二十五箇年間

二 女子二箇年金五拾錢以上 二十箇年間

但同時ニ一家二人以上ナルトキハ標準額ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第七條 紀念貯金ハ左ノ場合アルニ非サレバ引キ出スコトヲ得ザルモノトス

一 第六條ノ年限ニ達シタルトキ

二 中等學校若クハ實業補習學校等へ入學ノ爲メ學資ニ充ツルトキ

三 男子分家ヲナシ又ハ他へ婿養子ニ行キタルトキ

四 女子結婚ヲ爲シタルトキ

五 本人死亡若クハ保護者組合ヲ脱退シタルトキ

六 其他特別ノ事情アリ組合長ニ於テ相當ト認メタルトキ

第八條 紀念貯金獎勵ノ爲メ組合ヨリ左記ノ金額ヲ贈與シ其基金ト爲サシムルモノトス

一 男子金貳圓

二 女子金壹圓

第九條 第六條ノ年限内規定ノ貯金ヲ爲ササルモノハ前條ノ獎勵金ハ之ヲ返却セシムルモノトス

但第七條ノ場合ハ此限リニアラズ

第十條 約束貯金ハ組合ヨリ資金ヲ貸附シタルモノニ限り貸附ノ翌月ヨリ毎月貸附金ノ百分ノ三以上ヲ必ズ組合ヘ預ケ入レセシムルモノトス

約束貯金ハ特別ノ利息ヲ附シ其貸附金ノ元利償還ニ充ツルモノトス

第十一條 第八條ノ紀念貯金獎勵金ハ大字八濱居住ノ組合員ニシテ漁業従事者ニ限リ之ヲ適用シ其他ハ定額ノ二分ノ一ヲ贈與スルモノトス

○賞與並ニ窮恤規程

第一條 組合員ノ賞與ヲ分チテ左ノ二種トス

- 一 普通賞與
- 二 善行賞與

第二條 普通賞與ハ毎年一回事業年度漁獲高ノ多キ者十五名ニ對シ左記ノ標準ニ依リ金員若クハ物品ヲ贈與シ其事務ニ精勵シタルコトヲ表彰スルコト

但鰻繩鰻搔持網ノ三種毎ニ各五名宛トス

- 一等 金貳圓若クハ同額ノ物品
- 二等 金壹圓若クハ同額ノ物品
- 三等 金五拾錢若クハ同額ノ物品

第三條 善行賞與ハ三箇年毎ニ組合員ノ投票ニ依リ組合員若クハ其家族ニシテ業務勤勉又ハ操行善良他ノ模範トナルベキ者數名ヲ推選セシメ尙理事ニ於テ詮考査定ノ上之ヲ選擇シ優良者ニ對シ表彰狀ヲ贈リ且左ノ等級ニ依リ賞與ヲ爲スモノトス

- 一等 金貳拾圓若クハ同額ノ物品
- 二等 金拾圓若クハ同額ノ物品
- 三等 金五圓若クハ同額ノ物品

但組合員ヨリ推選シタル候補中優良者ナキトキハ理事會ノ決議ニ依リ其以外ニ於テ選

定スルコトヲ得

第四條 組合員若クハ其家族ニシテ死亡者アリタルトキハ組合ハ左ノ弔祭料金ヲ贈ルモノトス

- 一 組合員 金五圓
- 一 組合員家族 金貳圓

第五條 組合員疾病ニ罹リ休業十日以上ニ涉ルトキハ金壹圓以上ノ醫藥料ヲ贈ルモノトス

但同一年度ニ於テ三回以上贈與ノ場合ハ理事會ノ決議ニ依ルモノトス

第六條 組合員出漁中暴風雨等非常ノ災害ニ罹リ船体ノ顛覆又ハ漁具ノ流失等著シキ損害ヲ受ケタルモノアル時ハ理事會ノ決議ニ依リ相當ノ救助金ヲ給與スルコトヲ得

第七條 組合員非常ノ災害ニ罹リタルモノアル時ハ組合ハ其程度ニ應シ金拾圓以内ノ慰籍金ヲ贈ルモノトス

第八條 組合員中種々ノ不幸ニ遭遇シ生計困難ニ陥リ其慘狀見ルニ忍ビザルモノアルトキハ理事會ノ決議ニ依リ一時若クハ繼續的ニ之ヲ救済スルコトアルベシ

但元組合員タリシモノ若クハ其家族ニ對シテモ本條ヲ準用スルコトヲ得

第九條 獎善積立金ノ收支計算並ニ其賞與窮恤等施行ノ情況ハ之ヲ組合總會ニ報告スルモノトス

參照 本組合定款第十三條組合員ノ篤志寄附若クハ雜收入ニ依リ獎善積立金ヲ積立ツルコトヲ得

第十四條 獎善積立金ヨリ生スル收入ヲ以テ左ノ費途ニ充ツルモノトス

- 一、組合員ノ賞與救恤
- 二、教育産業ノ獎勵
- 三、貯蓄ノ獎勵
- 四、風紀改善ニ關スル事項
- 五、區域内公益事業ニ關スル寄附行爲
- 六、其他組合總會ニ於テ決議シタル事項

第十條 第四條並第五條ハ大字八濱居住ノ組合員ニシテ漁業従事者ニ限リ適用スルモノトス  
但第四條ノ弔慰金ハ本條ニ該當セザルモノト雖其二分ノ一ヲ贈與スルコトヲ得

○學事獎勵規程

- 第一條 本組合ノ子弟ニ對シ學事獎勵ノ爲メ左ノ方法ヲ實行スルモノトス
  - 一 尋常科新入學生ニ對シ本組合ヨリ教科書ヲ寄贈シ尙尋常科就學生ニシテ貧困ナルモノニ對シ組合ヨリ教科書ヲ寄附スルコト
  - 二 尋常科就學生ニシテ一學期間皆勤シタルモノアルトキハ組合ヨリ賞品ヲ贈ルコト
  - 三 高等科並八濱女學校就學者及補習教育就學者ニ對シ教科書ヲ寄贈スルコト
- 第二條 組合員中貧困ニシテ其子弟ノ義務教育ヲ了エシムルコト能ハザルモノアルトキハ前條ノ外尙組合ヨリ文具料若クハ辨當料ヲ給與スルモノトス
- 第三條 組合員ノ子弟ニシテ堅實ナル志望ヲ抱キ中學教育程度ノ學業ヲ修メムトスルモ學資不足ノ爲其目的ヲ達スルコト能ハザルモノアルトキハ組合ハ學資ノ一部ヲ貨附スルコトアルベシ

第四條 本規程ハ大字八濱居住ノ組合員ニシテ漁業従事者ニ限リ適用スルモノトス  
備考 獎善積立金現在額貳千貳百五拾圓  
蓄積規程ニヨル貯金(紀念貯金ヲ除ク)現在額五千貳百九拾五圓五拾參錢

同 紀念貯金現在額五百六拾壹圓七拾四錢五厘

(二)貝類ニツキテハ兒島養貝合資會社ト云フ貝類ノ區劃養殖ヲ以テ名高キ生産者アリ(區劃養殖地三百町步)貝類養殖蠅蚶製造養籠事業繼誌事業等ヲ經營シ昨年度ハ概シテ好況ノ方ニアラザリシモ猶左ノ如キ利益ヲ得タリ

- 一金貳萬壹千四百五拾壹圓七拾九錢貳厘 當季純益金
- 一金貳百參拾六圓九拾七錢貳厘 前季繰越金
- 合計金貳萬壹千六百八拾八圓七拾六錢四厘

此配當計算左ノ如シ

- 金參千圓 積立金
- 金壹萬貳千四百參拾七圓貳拾錢 配當金
- 但出資額拾圓ニツキ金四圓貳拾五錢ノ割
- 金五千八百五拾貳圓八拾錢 特別配當金
- 但出資額拾圓ニツキ金貳圓ノ割
- 金參百九拾八圓七拾六錢四厘 後季繰越金

- (一)本會社ハ出資者數百十三名出資金貳萬九千貳百六拾四圓現在積立金四萬七千四百拾五圓ニシテ會社ノ創立ハ明治二十三年十月ナリ
- (二)醬油ハ是亦合資會社ノ經營ニ屬ス
- (三)織物ハ八濱精織株式會社ノ事業ナリ個人營業者三戸アルモ微々タルモノナリ
- (四)繼誌事業ハ是前記養貝會社ノ副業ニシテ果物魚類貝類等ヲ製ス近年益好況ニシテ得意先ノ注文ニ應シ兼ヌル有様ナリ依リテ工場ヲ擴メ設備ヲ整へ事業擴張ヲ試ミムトノ計劃中ナリト

云フ

(六) 果物ニ就キテ少シク記述スル所アラムトス

大字波知ニ藤原惣吉ト云フモノアリ(明治四十五年四月三日八濱協會ヨリ表彰セラル)十數年前農業ノ餘暇年々山林ヲ開拓シ桃李ヲ植エ付ケ銳意栽培ノ結果生産物頗ル巨額ニ上リ品質亦佳良ニシテ市場ニ於ケル聲價他ニ一頭地ヲ抜クニ至レリ從ツテ共進會品評會アル毎ニ其實與ヲ受ケザルコトナシ之ヲ見テ山林ヲ拓キ果樹ヲ栽ユルモノ年ト共ニ増加シ今ヤ三十餘人果樹園十餘町歩ヲ算スルニ至レリ桃梨温州蜜柑等最多ク梨ノ如キハ貯藏シテ岡山市場へ搬出シ頗ル有利ナル副業トナリ今ヤ本町重要輸出生産物ノ主タルモノ、一トナレリ

村治上擧クベキコトハ第一ニ指テ八濱協會ニ屈セザルベカラズ明治三十一年一月ノ創立ニシテ會員二百七十八人ヲ有シ自治ノ整善ト町運ノ發展ヲ圖ルヲ以テ目的トシ協心戮力十六年間本町今日ノ治績ヲ擧クルニ至リシハ此會大ニ與リテ力アリト謂フベシ其事業トシテハ

- 一 産業ノ發達獎勵ニカムルコト
- 二 教育ノ普及發達ニ勉ムルコト
- 三 風紀改善ニ勉ムルコト
- 四 勤儉貯蓄ノ獎勵ニ勉ムルコト
- 五 善行者ノ表彰ヲ行フコト
- 六 高齢者ヲ優遇スルコト
- 七 窮民並罹災者ヲ救済スルコト
- 八 演説講話ヲ開催スルコト等ナリ

町百般施設ノ事多ク此會ノ坐談ニ出ヅ現在積立金六百圓ナリ次ニ此會ト創立ノ年ヲ同ジクシ勤

儉ヲ勸奨スル會アリ之ヲ八濱町勤儉貯蓄組合ト曰フ本町ニ住居シ一戸ヲ構フルモノハ本組合ニ加入スル義務アルモノトス又組合員ハ各業務ニ精勵シ奢侈ヲ戒シメ空費ヲ省キ毎月若クハ隔月ニ金五錢以上ノ定期預金ヲ爲スモノトス組合節儉ニ關スル事項ハ委員會ノ決議ヲ以テ別ニ細則ヲ設ケ之ヲ施行スルモノニシテ大正元年十月二十七日細則ヲ修正ス即チ左ノ如シ

(一) 服裝ハ總ベテ質素ヲ主トシ祭日諸禮儀等ノ場合ト雖成ルベク綿服ヲ着スルコト

(二) 婚葬ニ大禮ヲ除クノ外如何ナル場合ニ於テモ親族以外ノ者ヲ招キ酒食ノ饗應ヲ爲シ或ハ

物品ヲ配付スベカラザルコト

但公共上ノ宴會ハ此限リニ非ズ

(三) 歳暮中元出産初雛初宮蒲紐落祝年佛事等其他吉凶ニ關シ金錢若クハ物品ヲ贈答スルノ習慣ヲ廢スルコト

但葬儀ノ時香料ヲ贈ルハ此限リニアラズ

(四) 神佛參詣其他々國ヨリ歸リタル時土産品ヲ配布スルヲ廢スルコト

(五) 伊勢講大師講山上講等ハ酒食ヲ廢シ茶菓ヲ以テ之ト代ヘ且夜間之ヲ行フコト

(六) 演劇相撲等大興行ヲ見合スルコト

但海陸ノ生産豊饒ニシテ且世上一般ノ景氣好況ノ場合ハ委員會ノ決議ヲ以テ三箇年間内ニ一回ヲ限リ之ヲ解除スルコトヲ得

(七) 小興行ハ一箇年四回以内トスルコト

(八) 諸種ノ勸化寄進其他配札等申込ムモノアルモ組合ノ承認ヲ經ザルモノハ一切謝絶スルコト

(九) 祭禮其他ノ場合ニ於テ物品ヲ強買スルノ惡弊ヲ禁ズルコト

該組合ハ明治三十一年六月ノ成立ニシテ現今組合員七百五十人アリ  
自明治三十一年至大正元年預入金五萬九百貳拾四圓拾錢五厘

內

規約第十一條ニヨル拂戻金參萬四千五百貳拾七圓九拾八錢九厘  
現在 金壹萬六千參百九拾六圓拾壹錢六厘

又明治四十三年八月ノ創立ニシテ八濱町隣保組合ナルモノアリテ組合員ノ交誼ヲ厚クシ親睦ヲ  
主トシ奢侈ヲ戒シメ勤勉ヲ旨トシ常ニ組合ノ平和ヲ圖ルト同時ニ町村自治ノ圓滿發達ヲ期シツ  
、アリ其組合規約ノ要項及積立金ニ關スル事項ハ左ノ如クニシテ尙規約ニ附隨シ別ニ積立金獎  
勵規則アリ

(一)本町自治ノ整善ヲ圖ルノ目的ヲ以テ町内ヲ若干ノ小區ニ分割シ隣保組合ヲ設ケ隣保親睦  
ノ美風ヲ涵養シ相互救濟ノ美德ヲ獎勵スルモノトス(現今六十七組アリ)

(二)隣保組合積立金獎勵トシテ毎年金壹圓ヲ町費ヨリ各組毎ニ下附シ各組ハ下附ノ金額ト同  
額以上ノ積金ヲナスベキモノトス

(三)積立金ハ組合員救濟ニ關スルコト、組合公益上ニ關スルコトニ使用ス  
其他ハ之ヲ畧ス

現在積立金參百七拾八圓九拾錢アリ

八濱町青年團、明治四十二年五月ノ成立ニシテ會員三百二十八人其目的ハ町青年ノ教化心身ノ修  
養風俗ノ改善實業ノ發達及ビ勤儉貯蓄軍人遺家族ノ救護其他一般公共事業ニ盡力スルニアリ  
其事業ハ

一、夜學講習其他ノ方法ニヨリ學術技藝ノ補習社會的智識ノ修養及ビ實業上ノ研究ヲナスコト

一、公德及私德ノ涵養發達ヲ期スルコト

一、体力ノ練磨及ビ個人並ニ公衆ノ衛生ニ注意スルコト

一、産業ノ改良發達ヲ計リ之ニ關スル官廳若クハ公共團體ノ獎勵ニ對シ率先其實行ヲ努ムルコト

一、水火災風震害及ビ其他諸難ノ防禦ニカムルコト

一、華美ヲ戒メ節約ヲ旨トシ風俗習慣ノ改良ヲ圖ルコト

一、軍人遺族又ハ家族ヲ保護スルコト

猶當町ニハ大正元年度ヨリ八濱女學校ヲ設立セリ而シテ高等小學卒業生ハ二學年ニ編入ス課程  
ハ四學年ヲ置キ每週教授時數三十四時間ノ中三十時間ハ一二學年ニ於テ裁縫三學年ニ於テ修繕  
保存法洗濯法四學年ニ於テ以上ニ加ヘテみしん用法ヲ課シ他ノ四時間ハ修身二時間家計簿記家  
計整理養老看病育兒ニ一時間体操ニ一時間ヲ充ツ經費百四拾八圓生徒數二十五人(明治四十五  
年四月現在)ナリ

本町經費ノ中町稅戶別割ハ縣稅戶別割ノ六倍一分ニ上ル尙本町歲出ニ於テハ經常臨時ヲ通シ補  
助費支出ノ多キコト左ノ如シ

八濱協會補助 金參拾圓

八濱町勤儉貯蓄組合補助 金貳拾五圓

八濱町青年團補助 金參拾圓

八濱町農會補助 金五拾圓

八濱町漁業組合補助 金貳拾五圓

大崎漁業組合補助 金五圓

八濱町衛生組合補助 金貳拾圓  
 八濱町圖書館補助 金五拾圓  
 帝國在郷軍人八濱分會補助 金貳拾圓  
 特設電話費補助 金拾五圓  
 東部自治會補助 金參拾五圓  
 教育費補助 金五拾圓  
 米作改良獎勵 金拾五圓  
 共同苗代獎勵 金拾五圓  
 貯蓄獎勵 金百四拾貳圓

本町ニハ産業組合四、營利會社三、銀行一、私設各種ノ團體九アリ町條例規程三十ヲ制定シ以テ自治ノ整備ヲ圖リ居レリ

意見

町村ニ誠意摯實ノ人物アリテ民ヲ指導セバ恰モ涓滴ノ水ハ下流ニ至リテ橋梁ヲ架セズンハ渡過スベカラザル河川トナルガ如クナルベシ而カモ人物ハ決シテ一朝ニシテ得ベカラズ八濱町ノ今日アル幾分其地ノ利ニヨルベシト雖現町長藤原元太郎氏熱誠ノ清泉三千七百ノ町民ヲ浸染シタルノ効果ナラズンハアラズ余等ノ町役場ヲ訪ヒシ時ハ生憎不在ニシテ親シク其風彩ニ接スルコト能ハザリシヲ遺憾トス氏ハ八濱協會ノ會長養員會社ノ社長水産組合ノ理事組合長東部自治會ノ幹事其他凡ベテノ事ニツキ其牛耳ヲ執リ自治ノ爲メニ盡瘁セラル東部自治會ハ兒島郡東部ノ二町八箇村自治關係者ノ團體ニシテ換言スレバ一種事務打合ハセノ吏員會ナリサレド其會報ニ載スル所ノ文化普及地方ノ發達ニ伴ヒ人心ノ華奢浮薄ニ流ル、ヲ防ギ淳樸ノ

美德ヲ存養セントスル趣意ヨリ見レバ尋常ノ吏員會ト見做スベカラズ數年前ヨリノ萌生ニカ、ルモ會報ノ發刊ハ大正元年十二月ヲ以テ始メトス

其協議事項ノ中ニ

- 一 青年團講話會ハ各支部ニ於テ毎月一回以上實行セシムルコト
  - 一 神官僧侶ヲ青年團ノ顧問ニ推薦スルコト
  - 一 陽曆ヲ實行スルコト
  - 一 小學校卒業後三箇年間毎週二回以上補習教育ヲ受ケシムルコト
- 等アリ思フニ將來大ニ地方自治ニ貢獻スル處アルナラム八百戸ノ一小部落ニシテ圖書館ヲ置キ町公園ヲ設クルナド町政ヲ料理スル上ニ於テ餘方ノ綽々タルヲ見ルニ足ルサレド十幾項ノ補助費支出ニ至リテハ直チニ渴仰スルコト能ハザルモノアリ
- 次ニ藤原惣吉ト云ヘルモノアリト只是質樸ノ一農夫ニ過ギズ然ルニ其孝順ト其精勵トハ他ノ農民ヲ動カシ現今果樹園ノ生産額ハ方サニ町ノ有力ナル一收入トナラムトスは無言ノ指導者ニシテ及無識ノ先覺者ナリ
- 余等切ニ世ノ勸業指導ノ任ニ當レル人々ニ望ム叙上ノ如キ他山ノ石ヲ捨テズ幾分磨礪ノ資ニ供セラレムコトヲ

(五) 備作惠濟會事業

右ハ小丘陵ニシテ岡山市ノ墓地ニ屬シ左ハ三五茅屋亦岡阜ノ麓ニ點々タルノミ閑寂ノ一境域些ノ園兒ニ心ヲ乱スモノナシ是御津郡石井村ナル三門學園ナリ

本學園ハ備作惠濟會ノ一事業ナリシガ明治四十二年三月縣立感化院ノ代用ヲ命ゼラル、ニ至レリサレバ本學園ヲ知ラムトセバ備作惠濟會ノ沿革ヲ略叙セザルベカラズ

(イ) 備作惠濟會ノ沿革

明治二十一年、二年頃縣下一二有志者相謀リ不良少年ノ感化出獄者ノ保護ニツキ其救濟事業ヲ唱導シタリシモ時運未ダ會セズ成立ニ至ラザリシガ明治三十九年花房端野崎萬三郎率先シテ斯業ノ確立ヲ計リ當時ノ縣知事河野忠三亦之ヲ賛シ各郡市長及ビ名望家ヲ發起人トシ岡山慈惠會ナル團體ヲ設立スルコト、ナリ時偶々 英照皇太后ノ大喪ニ丁リ減刑ノ令ヲ發セラレ同時ニ地方慈惠救濟ノ優詔ヲ下シ給ヒ岡山縣ニ金九千有餘圓ノ恩賜アリ茲ニ於テ 聖旨ニ副ハムガ爲吏ニ其目的ヲ感化育兒保護ノ三事業ト定メ三十年十月一日備作惠濟會ト改稱シ汎ク縣下一般有志者ノ協賛ヲ得三十一年十月社團法人ノ認可ヲ受ク當時ノ會員一萬一千四百餘人總理ハ知事河野忠三(以後總理ハ其時ノ知事ヲ推薦スルコト、ス)會長ハ花房端野崎萬三郎 同 三十二年四月卒去 次ハ新庄厚信 明治三十二年五月就任 次ハ野崎萬三郎 同 明治三十六年三月三十一日就任 現今ノ會長ハ島山省三ナリ 同 三十六年三月卒去 同 四十二年二月 八日卒去

花房新庄ノ二會長ハ在任僅カニシテ歿シ之ヲ繼キタル野崎會長ハ明治三十一年來終始一貫常ニ會ノ中心トナリ努力盡瘁一日ノ如シ其縣下ニ會員ヲ募ルヤ腰ニ辨當ヲ提グ東奔西走恰カモ自家ノ營利事業ノ如ク足跡縣内ニ沿チシ其間盡ク私財ヲ抛チテ毫モ吝マズ後推サレテ會長トナルニ及ビ毎月數度岡山市ニ出デ感化保護兩院ヲ視職員生徒ニ對シ誠意ヲ披瀝シテ之ヲ指導勸奨ス家岡山ヲ距ルコト五里餘依リテ會務主任ヲ置キ事務ヲ處辨セシム本會ガ一萬以上ノ會員ヲ得二萬幾千ノ基金ヲ集メタルモノ皆野崎氏熱誠ノ賜ト謂ハザルベカラズ 明治三十年減刑令ノ發セラル、ヤニ時ニ五十人ノ出獄者アリ氏ハ會ノ未ダ成立セザリシニモ拘ハラズ之ヲ保護院ニ收容シ其急ヲ救ヒタリ保護院ハ明治三十年十月日創業以來明治四十

四年十二月マデノ收容總人員百六十二人(内一百人 岡山縣人) 内退院者ノ種別左ノ如シ

- 四十二人 自活ノ途ニツキシモノ
- 四十七人 親族舊故ノ引取リシモノ
- 三人 感化院へ轉入シタルモノ
- 九人 犯罪ノ爲再ビ入獄シタルモノ
- 二人 退院ヲ命シタルモノ
- 四十六人 無斷退院シタルモノ
- 十三人 院ニ殘レルモノ
- 二十人 農業ニ従事シ居ルモノ
- 二人 他家へ養子トナリシモノ
- 二人 洋服裁縫工トナリシモノ
- 十二人 車夫トナリシモノ
- 四人 紡績職工トナリシモノ
- 二人 左官職トナリシモノ
- 九人 八百屋業ニ従事シ居ルモノ
- 二人 木工職ニ従事シ居ルモノ
- 一人 新聞社員トナリシモノ
- 六人 莞菴職工トナリシモノ
- 二人 船乘業ニ従事シ居ルモノ

- 六人 土方業ニ従事シ居ルモノ
- 五人 漁業ニ従事シ居ルモノ
- 二人 鍛冶業ニ従事シ居ルモノ
- 二人 礦山業ニ従事シ居ルモノ
- 一人 表装師トナリシモノ
- 一人 書工トナリシモノ
- 一人 下女奉公ヲナシ居ルモノ
- 一人 煉瓦職工トナリシモノ
- 一人 木賃宿業ヲナセルモノ

計 八十九名

明治四十五年ニ越人員十三人同年中入院者二十六人ニシテ同年中

自活退院 一人

親族引取 二十四人

退院ヲ命ゼシモノ 一人

無斷退院 三人

計 二十九人

大正二年ニ越人員十人ナリ

感化院、明治三十一年七月一日ノ創立ニシテ目今ノ處ニ移轉前岡山市瓦町ニアリシトキノ狀況ヲ略述スレバ

明治三十年創設雜費 金五拾壹圓五拾錢七厘 但シ二箇月分

營繕費 金千八拾四圓九拾壹錢貳厘

明治三十一年度經常費四百七拾六圓貳拾壹錢參厘ニシテ設備ノ概略ハ左ノ如シ

本館	教 室	十坪五合
事務室	三 坪	
應接室	三 坪	
主事室	七 坪	
家族室	十四坪	
獨居室	十一坪	
浴室	一 坪	
物置	二 坪	
炊 場	四 坪	

創立以來ノ入院者數並ニ退院成績(代用感化院前)

收容人員七十六人(二府十縣)

内

改善退院セシモノ 十八人

中途退院セシモノ 十一人

徒弟ニ出セシモノ 二人

逃亡セシモノ 二十七人

殘院生 十八人

明治四十二年四月三日内務省ヨリ選獎金百五拾圓ヲ下賜セラレタリ當時會員ノ醸出金貳萬五千

七百六拾八圓七拾錢特志寄附金壹千參百六拾圓五拾八錢合計貳萬七千貳拾九圓貳拾八錢ノ基金ヲ有ス此元金ハ消費セズ確實ナル銀行ニ預ケ入レ之ヨリ生スル利子並ニ縣ノ慈善救濟金ノ補助トニヨリ事業ヲ經營シ來リシガ明治四十二年三月縣立代用感化院トナルニ及ビ舊態ニ安ズルヲ許サズ此ニ於テ壹萬壹千六百五拾圓ノ追加豫算ヲ以テ御津郡石井村ニ五十間四面二千五百坪ノ邸地ヲ開設シ二百六十四坪ノ建物ヲ新築シ明治四十二年十一月三十日岡山市瓦町ヨリ此處ニ移轉シ改稱シテ三門學園ト呼ビ以テ今日ニ至レリ

瓦町ノ凡ベテノ設備ハ全ク保護院ノ事業ニ使用シ居レリ  
(ロ) 設備

五十間四面ノ周圍ハ方石柱ノ垣ヲ以テ回ラセドモ通用門ハ夜間ト雖常ニ開放セリ  
農園ハ構内ニ二反歩構外ニ一反五畝歩アリ

建物ハ本館(教室應接室事務室講堂ヲ含ム)一棟  
家族舍一棟、園長舍一棟、教師舍一棟、作業室一棟、炊事場一棟其他數棟

講堂ハ二階ナリ備作惠濟會ノ爲寢食ヲ忘レテ盡瘁シタル野崎萬三郎ノ油繪肖像ヲ掲グ  
家族舍ハ蘭竹菊梅松櫻ノ六室アリ廊下中央ヲ通シ左右ニ三室ヅ、各室四五人同宿ス外ニ謹慎室  
二室保母室一室アリ

職員ハ園長山田貞芳(明治三十六年一月二十日囑託)教師二人 山本卯三郎 八丹 幸八 保母二人アリ  
生徒現在三十二名(内三名自費生)

女子ヲ收容スル設備ナキ故三人ノ女子ヲ濱濱市根岸家庭學園(園生三村春代)ニ一人一箇月金六圓ニテ依托セリ  
最年長者ハ十七歳白痴者一人アリ

(ハ) 生徒ノ心身狀態

一、生レテ以來ノ家庭或ハ境遇惡シキ爲偏執殆ンド性ヲ爲ス且營養不足ニシテ身体ノ發育惡シク十四歳ノ兒モ一瞥十歳位ニ見ユ概シテ低能者多シ

一、一般ニ大食ニシテ米麥定量五合三勺ナレドモ六合以上ヲ食ス辛キモノヲ好ミ湯茶ヲ過飲ス副食物ニ好キ嫌イヲナシ殘シザイヲナスモノ多シ

一、家アリ父母アルモノノ家ヲ慕フハ人情トシテサモアルヘシサレド家ナキモノモ逃亡ヲ企ツルコトアリ規律ナキ生活ニ馴レタル爲カ皆放浪生活ヲ好ム傾キアリ

一、戸棚ノ中ニ火ヲ入レテ放火ヲ企テシモノアリ凡ベテ遺尿ヲ爲スモノ多シ  
一、他生ノ衾中ニ入りテ放尿セシモノアリ之ヲ詰レバ其生徒比較的温從ニシテ教師ニ叱セララル、コト少キ故一種ノ嫉妬心ヲ以テ其叱咤セラレムコトヲ企望シテ故ニ其衾中ニ放尿セシナリト云フ

一、墓地ニ參拜スル女子ノ盛裝セルヲ見レバ互ニ之ヲ評シ兒童ニアルマジキ言動ヲ爲ス  
一、保母ノ命ハ殆ト用キス

(ニ) 感化方法

第一其心様ヲ安ラカナラシメ身体ヲ壯健ナラシメンガ爲食物ノコト等ハ餘リ干涉セズ飽喫セシメ其貧汚鄙劣ノ心様ヲ矯メ徐々ニ教育感化ヲ施スコト、ス

一、如何ニ同情ノ涙ヲ以テ導クモ彼等ノ感應ハ極メテ薄シ入園當初ノモノ又ハ低能兒ニ至リテハ殆ンド木石ニ等シカ如キモノアリサレバ監督ヲ弛メンカ乱暴者懶惰者ノ集マリナレバ放縱ニ陥リ易キヲ以テ恩威並ビ行フト曰フ古言ヲ以テ之ヲ律セザルベカラズサレド愛ト嚴トノ加減ハ如何ニスルモ愛ニ傾クノ止ムヲ得サルコト、ナル如何トナレバ呵責鞭撻ノ如キハ家庭ニ

於テ又社會ニ於テ彼等ノ心身ハ常ニ放縱シツ、アリタレバ之ヲ用ユルモ彼等ハ其爲メニ痛痒ヲ感スルコト極メテ薄ケレバナリ

一、結局安ラカニ穩ヤカニ賤ケ徐々ニ執拗ナル心様ヲ正シキニ導キ沈鬱セル腦力ヲ引キ立ツルヨリ外ナシ

一、彼等ノ勞働ニヨリ農園ニ於テ得タル收入ハ規定ノ貯蓄ヲナサシメタル外ハ時々餅菓子ノ如キモノヲ買ヒ與ヘテ温カキ感ジヲ持ツヘク仕向クルコト、ス

一、食事ノ如キ一週ニ魚二回肉一回ハ必ず與フルコト、ス  
一、朝ハ講堂ニテ修身上ノ講話ヲナシ次ギニ普通學科ハ教室ニテ授ケ午後ハ農園ニ勞作セシム  
雨ノ日ハ糞細工ナドナサシム

從前作業室ニテ木工ナドヲ課シタルコトアリシモ適當ノ教導者ヲ得難ク且收支ノ計算モ立タザルコト多キヲ以テ目下中止セリ

一、退院者ノ中ニハ中等程度ノ學校ニ入りシモノアリ又繪畫ヲ以テ身ヲ立テタルモノモアリサレド多クハ農工ニ從事セシムルヲ目的トナス常ニ其性行技能ヲ觀察シナルベク假退園生トシテ農業家又ハ工業家ニ托センコトヲ企望ス

(ホ) 經費

大正元年度支出豫算

一金四百參拾九圓

本會經費

一金四千四百參拾六圓五拾四錢

感化院費(二門學園費)

内

金壹千九百壹圓

院費

金貳千五百參拾五圓五拾四錢 在院者費  
一金七百九拾參圓 保護院費  
合計金五千七百貳拾圓拾錢

收入明細書

科目 金額

備

考

基本金 利子 一、八六九、一〇〇

現金貳萬八千參百拾九圓七拾參錢ノ利子  
但一箇年六分六厘ノ割

縣補助 六〇〇、〇〇〇

縣慈惠救濟資金ヨリ補助

經費金 臨時預利子 四五、〇〇〇

小作米 收入 二〇、〇〇〇

所有地小作米一石五升餘ノ代金

雜入 六、〇〇〇

見込額

情願感化生衣食費償還 一八〇、〇〇〇

定員三十人ノ内給與生二十七人ヲ除キ現在自費  
生三人分見積リ一箇月金拾五圓トシテ全年分

感化事業代用補助金 三、〇〇〇、〇〇〇

合計 五、七二〇、一〇〇

參考 感化生一人ニ屬スル一箇年ノ衣食費明細書左ノ如シ

衣食費明細書

七九、八一八

衣食費

此譯 六二、六四三 食費

内 二九、七九二

八、一二六

一六、四二五

七、三〇〇

白米一石三斗五升四合二勺 一升ニツキ貳拾貳錢  
 割麥五斗八升四勺 一升ニツキ拾四錢  
 但米七分麥三分ノ割合一日ノ食量五合三勺  
 副食物代一日四錢五厘  
 薪炭代一日貳錢

一〇、一五〇 被服費

内 二、〇〇〇

一、二五〇

一、二五〇

一、九五〇

七〇〇

八五〇

二五〇

三〇〇

八〇〇

八〇〇

八、〇二五 雜品

六〇〇

拾 一枚  
 單衣 一枚  
 絹半纏 一枚但仕事着  
 シヤツ及股引 二組  
 猿子胴着 一枚  
 夏半衣及股引 一組但仕事着  
 兵兒帶 一筋  
 猿脫 一着  
 袴 一具  
 帽子 冬夏一個  
 手拭 六筋  
 足袋 三足

感化生一人ニ屬スル一箇年ノ習學費明細書

二、七〇〇 習學費

内

八五〇

五四〇

四〇〇

四〇〇

一六〇

三五〇

教科書代  
 毛筆大十二本小六本代  
 鉛筆十六本代  
 雜記帳八帖代  
 墨二挺代  
 半紙八帖書洋紙八十枚代  
 下駄 七足  
 体操草履 三足  
 上草履 一足  
 散髮代  
 湯代 三  
 塵紙 一夜七厘  
 石油 六個  
 石鹼 六箱  
 齒磨粉 六本  
 齒磨揚枝 二本  
 團扇 二本

(一) 効果縣代用トナリシ以來入園者五十一人改善退園セシモノ十四人逃亡セシモノ一人退園ヲ

命セシモノ三人死亡セシモノ一人ナリ

所感

教育感化ノコトハ勸業土木ナドノ事業ノ如ク効果ノ短日月ニ見ハル、モノニアラズ其實績ハ少クトモ十年ノ後ヲ期セザルベカラズマシテ精神状態ノ偏執不具ニシテ身体ノ發育不充分ナル少年ヲ收容シテ其教養保護ニ從フモノ惻隱ノ涙ニ堪エズ心身ヲ犠牲ニ供セントノ同情心ニ驅ラレテ此別天地ニ執務セルモノ、涙ニモ反應ナク鞭ニモ手答エナキコト幾十度ニ及バ、如何ニ耐忍強キ人モ必ズ意氣悶懣ニ堪エザラムトス嘗テ我縣栗真村ノ國兒學園ヲ訪ヒ其職員ノ勵精ニ感シタリシガ當園ヲ視テ亦殆ンド同一ノ感ニアリ今ヤ法令ノ結果トシテ府縣省感化院ヲ設置スルコト、ナリ一人ノ不良少年ノ爲メニ殆ンド貳百圓内外ノ金ヲ抛チツ、アリト雖明治四十一年前ニアリテハ未來如何ナル毒氣ヲ社會ニ吐出スルカ測知スベカラザル彼等ヲ收容シテ救済スルノ事業ハ實ニ少ク又偶々之アルモ多ク有名無實ニシテ時ニ奸猾惡ムベキ輩ナキニアラザリシニ至難至苦ヲ忍ンデ此事業ニ盡瘁セラレタル野崎氏ノ如キハ實ニ稱揚スルニ足ルヘク備作惠濟會ノ存在ハ慥カニ岡山縣ノ誇リト稱スルモ過言ニアラザルベシ

(六) 岡山縣立農事試驗場

當場ハ明治三十四年ノ創立ニシテ總面積三町六畝十六步内敷地三反九畝十三步建築物總坪數二百七十五坪四田二町一反八畝十七步畑四反八畝十八步土性ハ第四紀新層砂質壤土ニシテ事業ハ稻、麥、煙草、薄荷、蘭草、大麻、果樹、蔬菜、作物病虫害、農具ニ關スル試驗及調査、土壤肥料ノ分拆及調査並ニ種禽、蜜蜂ノ飼育等ニシテ大正二年度ノ經費ハ壹萬七千五百七拾八圓ナリ又各郡村適當ナル處ヲ擇ビ左ノ委託試驗ヲ爲シツ、アリ

寒冷地農作物試驗

煙草栽培試驗

茶樹栽培試驗

蘭草栽培試驗

葡萄晚腐病豫防試驗

葡萄果萎凋病豫防試驗

水稻白葉枯病豫防試驗

百合病害豫防試驗

蒟蒻病害豫防試驗

チーブルオレンジ瘧病豫防試驗

馬鈴薯病害豫防試驗

梨果蠹蟲豫防試驗

柑橘銹壁蝨驅除試驗

以上繼續事業ニシテ大正二年度分經費八百五拾圓ナリ

次ニ農具試驗ハ大正二年度ノ經費四百圓ニシテ是亦繼續事業ノ如キモノニテ始メニ豫備試驗ヲナシ次デ本試驗ヲ爲スモノトス

豫備試驗ハ從來比較の優良ト認メタルモノニツキ各要部ニツキ材質ノ良否耐久力ノ如何ヲ調査シ尙之ヲ實地ニ使用シ次年度行フベキ本試驗ニ加フルノ價値アルモノヲ選拔スルモノニシテ近日本試驗ヲ行フ豫定ニテ供試犁十二三種粉磨機十種許リ集メアルヲ見タリ  
外ニ當場ノ考案ニ成リタル培土器ナル農具ヲ見ル該器ハ麥ヲ培フニ當リ細粉セル土ノミヲ搔キ寄セムガ爲及先ノ外ハ鐵網ニテ造リタル鋤籠ニ似タルモノニシテ頗ル縣下農業者ノ歡迎ヲ得ツ、アリ

講習

創立以來明治四十四年度末マデニ五日以上ノ農事講習ヲ修了セシモノ男生壹萬二千六百七十四人ニシテ大正元年度ノ講習生ハ三百九十二人ナリ

(七) 岡山縣戰勝紀念圖書館

採光豊富ナル館内整然並列セル机ニ向ヒ俯瞰默々タルモノ幾百人是ヲ縣立戰勝紀念圖書館トス  
明治三十九年三月ノ創立ナリ

大正元年度經常費豫算

俸

給

九二四、〇〇〇

司書給	六六〇、〇〇〇
書記給	二六四、〇〇〇
館長事務嘱托手當	一、〇九三、七一〇
臨時僱員給	二〇〇、〇〇〇
小使給	三〇、〇〇〇
臨時僱夫給	一六七、九〇〇
惠與金	九、〇〇〇
旅費	一九、二四〇
助手給料	九四、五二〇
退職及死亡給與金	六一、〇五〇
國庫納金	五〇、〇〇〇
館費	九、二四〇
備品費	五、四五八、七八〇
消耗品費	五八八、九八〇
圖書費	三〇一、五三〇
印刷費	四、〇〇〇、〇〇〇
印信費	五〇、〇〇〇
通信費	一八、五〇〇
運搬費	四七、六〇〇

電話費	四八、〇〇〇
電燈費	三五四、三二〇
給水費	九、八五〇
雜費	四〇、〇〇〇
修繕費	三六四、〇〇〇
合計	七、八九九、七三〇

最近三箇月間(自大正二年三月至同年五月)閱覽者數ニ貸出圖書數  
 (イ) 閱覽者數 但開館日數三月ハ二十七日四月ハ二十九日五月ハ三十日ナリ

月	學生	教員	官吏	軍人	實業家	女子	兒童	其他	合計
三月	三、五五四	一、二六	五二	六七	四三四	一三〇	一、五四七	七四二	六、六四一
一日平均	一一、〇〇〇	四、〇〇〇	一、八九	二、四四	一、六〇七	四、四四	五七、三〇	二七、四八	二四五、九六
四月	三、二六六	一、〇六	六八	五六	七二四	九一	一、〇六三	一、二五九	六、四九六
一日平均	一一、二六三	二、九六	二、二四	一、九三	二、四〇三	三、一七	三、六六六	三、九、九三	二三四、〇〇
五月	四、三八三	二、〇〇	七六	五七	七七五	三二	一、二五〇	一、二八七	八、一五八
一日平均	一四、〇一〇	六、六六	二、五三	一、九〇	二、五八三	一、〇三	四、一六七	三、九、五七	二七、一、九三

(ロ) 貸出圖書數

第一門 神書宗教	三月		四月		五月	
	和漢	洋	和漢	洋	和漢	洋
	四三	〇	七三	〇	七七	〇

第二門	哲學教育	二、一〇三	三	一、六二二	二	一、八〇八	四
第三門	文學語學	二、五九九	三五	三、四〇〇	二四	四、一八二	四六
第四門	歷史傳記地誌紀行	四六九	一	五三五	一一	七七一	一〇
第五門	法制經濟財政社會統計	二四六	一	二〇〇	二	二四二	三
第六門	數學理學醫學	九四四	三三	九三二	一九	一、五四六	二九
第七門	工業兵事美術諸藝產業	八二二	二五	九九二	三七	二七五	四三
第八門	類書叢書隨筆雜書雜誌新聞	一、八二四	一四	二、二四四	一六	三、五三四	三三
合計		九、一四〇	一一一	一〇、〇三六	一一一	一三、三三三	一五六
平均		三三八、五二	四〇二	二四六、〇七	三、八三	四二一、一〇	五、一〇

圖書寄託ハ人員六名其冊數合計二千八百四十一冊ナリ又寄贈者ハ官公署團體及個人等ニシテ其寄贈圖書冊數合計一萬六千七百七十七冊ナリ

本年度ノ繼續寄贈雜誌ハ七十四種新聞十一種ニシテ其他ノ寄贈圖書四十七冊ナリ  
又明治四十四年末調ニヨル岡山市ノ現住戸數ハ一萬六千八百二十三戸現住人口九萬六千四百八十四人ナルモ本籍人口ハ五萬三千八百七十五人ニシテ我縣津市ノ現住人口ト大差ナシ

意見

一般人民教育ノ度高ケレバ讀書ノ趣味モ亦高マルベク隨ツテ人口多キ市町ニハ圖書館ノ設置ナルベカラズ我縣ニテモ宇治山田、上野、松坂、久居等ニ其設立アリテ津市ニ之ナキハ頗ル權衡ヲ失セルガ如シ殊ニ閱覽者ノ半數以上ハ學生之ヲ占ムルニ於テハ一層其必要ノ度ヲ高ムベシ之ヲ市立トスベキカ縣立トスベキカハ或ハ説アラムサレド其必要ニ至リテハ否定ス

大原家獎農施設

大原孫三郎氏ハ縣下ノ大地主ニシテ且ツ富豪家ナリ又倉敷紡績會社其他ノ重役ナリ其七百町ノ耕地ハ都賀、兒島、杏備其他四郡ニ跨リ小作人三千人ニ上ルト云フ同氏ハ農業ヲ勸奨振起セシメ併セテ小作人ノ惡弊ヲ矯正セントシ明治四十年始メテ大原家小作俵米品評會ヲ開催シ年々繼續シテ四十三年二月二十日大原家獎農會規則並ニ報恩貯蓄會々則ヲ發表シ以來着々此方針ニ從ヒ勸奨指導シツ、アリ

一、近キ將來ニ於テ私立農學校ヲ開設シ極メテ實地ニ近キ修養ヲ農民子弟殊ニ自家小作人ノ子弟ニ與ヘン考ナリト云フ

一、農家ノ副業ハ綿薄荷青物等ノ畑作物ニシテ女子ハ蘭草ノ製織ニ從事ス

一、小作米ハ其納期限ヲ必ズ十二月末日マデトシ其獎勵トシテ検査合格米ニハ玄米二升ヲ其優良ナルモノニハ二升五合ヲ與フ

一、小作米徵收ハ各地方ニ依賜シアル三十五人ノ世話人之ヲ扱ヒ其手数料ハ石ニツキ二升乃至二升五合トス

一、田小作米ハ平均一石三斗五升下田ニテ石(石トハ從來三斗五升)入俵三俵ノコトナリ畑小作米ハ一石二斗ヨリ一石三斗ナリ小作人間ニハ私カニ小作株ノ賣買行ハレ作受ケ良キ地所ハ百圓乃至百五拾圓ノ價ナリト云フ

一、因作部引ハ其地所ニツキ一筆毎ニ即決ス古ハ坪刈スレバ地主其七分ヲ徵收スル習ヒナリシガ近年ハ肥料ヲ多ク用ユルヲ以テ幾分肥料代金ヲ斟酌ス  
大正元年ノ米作ニツキテハ幾分部引ヲナセリサレド小作人ヨリ強請スル處ハ只一小部分ニ之

一、倉敷町ハ維新前天領ナリシヲ以テ之カ威ヲ用キ人氣荒カリシ爲倉敷者トテ世人ノ指彈ヲ受ケタリ依ツテ之カ矯風并ニ一般修養ノ爲メ回家ニテハ倉敷日曜講演ヲ開催シ名士ヲ招請シ一般ノ聽講ヲ勸誘セリ其ノ開催數ハ明治三十五年ヨリ大正元年末マデ六十八回此ノ日數九十五日ニ及ヒ殆ンド知名ノ士ヲ羅致セリ

一、大原獎學貸資規則ニヨリ有爲ノ學生ニテ學資ノ缺乏セルモノニ學資ヲ貸與シ修學セシムルノ道ヲ啓ケリ爲メニ其恩惠ニ浴シテ相當ノ地位ニ上リシモノ及猶研鑽ノ中途ニアルモノ數十名アリト云フ

意見

我國經濟界ノ傾向ハ貧富ノ懸隔ヲ益々大ナラシムルニ至レリ此大勢ハ年ヲ追ヒテ倍加セントス是健全ナル狀態ナリト謂フベカラズ富豪家ハ其ノ趨勢ヲ察シ下層民ヲ指導勸奨セズンバ或ハ意想外ノ惡弊ヲ長スルニ至ラムカ工業家ノ徒弟ノ教育修養製造業者ノ工女ノ保護勸奨大地主ノ小作人指導等は刻下ノ緊急問題ナリトス

養蠶、製絲、漁撈、養殖、果樹栽培ノ事業等ハ其ノ進步頗ル見ルベキモノアルモ普通農業ニ至リテハ農民ノ大部分ハ依然舊習ニ拘泥シテ其發展遲々タルモノアリ茲ニ於テカ地主ハ自ら率先シテ農業ノ改良進歩ニ努力シ小作人ヲ指導獎勵シ以テ斯業ノ隆盛ヲ圖リ國運ノ發展ニ資スベキナリ

(九) 岡山市汚物處分方法

岡山市ハ市ノ塵垢掃除ヲ其ノ汚物掃除受負規定ニヨリ同市人竹下馬次郎ト契約シ之ヲ取片附ケシム一ケ年ノ請負金ハ四千二百圓ナリ其ノ受負規定ハ次ノ如シ

岡山市汚物掃除受負規定

第一條 岡山市ハ掃除上ヨリ生スル汚物(瓦礫竹木鳥獸ノ腸骨野菜ノ斷片其他一切ノ不潔物ヲ含ム)ヲ受負人ニ下附スルヲ以テ受負人ハ左ノ區別ニ依リ人夫ヲ供給スベシ

一 毎日平均二十人(甲)ハ晴雨ヲ論セズ市役所ニ出頭セシメ掃除監視吏員ノ直接指揮ニ從ハシムベシ但シ人夫ノ人員ハ其ノ時々掃除監視吏員ヨリ豫メ指示スベシ

一 前項ノ外ニ毎日(雨天ヲ除ク)平均二十人以上(乙)ノ人夫ヲ供給シ掃除監視吏員ノ指示シタル箇所ニ配置スベシ其人夫數ハ便宜ノ場所ニ於テ之ヲ點檢ス

第二條 受負人ニ於テ前條ニ規定シタル掃除人夫ノ供給ヲ怠リタルハ市ハ不足ノ人夫數ヲ一人一日金五十錢ニ積算シ契約滿了際証據金ノ内ヨリ控除スルハ勿論中途必要ト認ムル場合ハ直轄人夫ヲ使役シ其賃金ヲ受負人ニ負擔セシム此場合受負人ハ速ニ賃金ノ辨償ヲナスベシ若シ指定期日内ニ辨償ヲナサルハ証據金及手當金ノ内ヨリ控除ス

第三條 前條証據金ヨリ控除シタルキハ受負人ハ指定期日内ニ其ノ補充ヲナスベシ  
第四條 汚物積込場ハ左ノ三ヶ所トス

- 石關町河岸
- 船頭町河岸
- 網濱河岸

但シ船頭町網濱兩河岸ハ船積準備ヲナス間一時仮置場トナスコトヲ得

第五條 受負人ハ常ニ積込場ヲ掃除シ汚物ヲ堆積スベカラズ

第六條 受負人ハ掃除ニ使用スル運搬車及第一條第二項ノ人夫ガ使用スル器具ヲ設備スベシ但シ本年度ニ限り市ノ所有ニ屬スル運搬車ヲ貸與スルコトアルベシ此場合ニ於テ運搬車ヲ紛

失シ又ハ毀損シタルキハ受負人ニ於テ賠償ノ責ニ任ズ  
第七條 天災地變等ノ場合ト雖掃除監視吏員ノ認可ヲ受クルニアラザレバ掃除ヲ休止スルヲ得ズ

第八條 掃除夫ニシテ勞役ニ堪エザルモノアルカ又ハ不法行爲ノアリタルキハ掃除監視吏員ノ指示ヲ受ケ直チニ解雇スベシ

第九條 掃除夫ニシテ不法行爲ノ爲メ他人ニ損害ヲ與ヘタルトキハ受負人ニ於テ賠償ノ責ニ任ズ

第十條 受負人及ヒ掃除夫ハ名義ノ如何ニ拘ハラズ汚物搬出ノ爲私人ヨリ金品ヲ收受スベカラズ若シ掃除夫ニシテ本條ノ行爲アリタルキハ受負人ニ於テ賠償ノ責ニ任ズ

第十一條 受負人ハ第一條第二項ノ人夫ニ對シテ可成市ノ徽章アル法被ヲ着用セシムベシ

第十二條 受負人ハ何等ノ事故アルモ其受負ノ賣買讓與若クハ復受負ヲナサシムルヲ得ズ

第十三條 受負人ハ市參事會ノ是認スル引受人二名ヲ定ムベシ若シ欠員アリタルトキハ指定期日内ニ之ヲ補充スベシ

第十四條 市參事會ハ受負人ニ於テ此規定ニ違背セルト認ムルトキハ契約ヲ解除スルハ勿論証據金ヲ沒收シ搬出手當金ヲ下附セザルヲアルベシ

第十五條 受負人ハ証據金ドシテ金一千圓ヲ豫納スベシ

第十六條 受負期間ハ明治四十四年四月一日ヨリ四十五年三月三十一日マデトス  
掃除監視吏員ハ十三人アリ受負人ヨリ供給スル人夫(甲)ヲ指揮シテ各戸ノ塵芥ヲ集メ三ヶ處ノ汚物積込場ニ運搬セシム請負人ハ塵芥ヲ撰リ分ケ瓦礫其他ノ固形物等肥料トナラザルモノト他ノ肥料トナルモノトヲ分チ人夫(乙)ヲ使役シ又之ヲ船積ミマデ運搬セシム而シテ前者ハ之ヲ旭

河畔ノ埋立地ニ抛棄シ後者ハ一荷(十六貫)四錢一厘ノ割ニテ邑久郡地方ニ搬出ス(但シ一荷ハ船賃二錢陸上賃三厘ニシテ若シ之ヨリ多クヲ要スルキハ肥料トシテ船運スルモ收支償ヒ難シトノコナリ)邑久郡ノ農家ハ塵垢ヲ肥料ニ慣用スルモノカ愛媛縣高松市ノ塵垢モ邑久郡ニ輸入シ岡山市ノモノト競争ノ傾アリ高松市ノ方ハ一荷三錢五厘ニシテ是岡山高松兩市民ノ生活程度ノ異ナルニ依ルモノニシテ前者ノ後者ニ勝レルヲ見ル即チ同一市内ニテモ紳士富商ノ竝ベル市區ト下層ノ貧民窟トノ塵垢ハ其肥料分トシテノ價值著シキ差アリト曰フ高松市ノ塵垢モ同ジク竹下ノ請負ニシテ假置場ヨリ搬出スルノミニテ三ヶ年間三千三百圓ノ請負額ナリト云フ

(前記甲人夫ハ受負人ヨリ日當五十錢ヲ支給セラル、モノニシテ乙人夫ハ主トシテ假置場ヨリ船積ミマデノ運搬ニ從ヒ一荷(十六貫)一錢八厘ノ賃錢ニテ能ク働クモノハ一日金一圓位ヲ得ルトノコナリ)

前年岡山市ノ塵垢處分ヲ或農業者ニ於テ請負ヒタルコアリシガ六ヶ月間ニ二千圓許ノ損失ヲナシ爲メニ傳來ノ田六反歩ヲ賣放チシコアリト云フ竹下ハ此事業ニツキテハ特種ノ手腕ト多年ノ經驗トヲ有シ猶進ンデ尾の道廣島等關西各都市ノモノヲ一手ニ受負ハムトノ意氣込ミナリト云フ

受負人ハ市ノ承諾ヲ得テ大正二年度ヨリ一ヶ所ノ塵垢焼却場ヲ設クルコトナレリ是ハ請負人ノ出願ニ基クモノニシテ請受人ハ肥料トシテ灰十貫ヲ十二錢ニ賣却スル見込ナリト云フ塵芥總量五百萬貫焼却場一ヶ所ニテ其ノ四分ノ一乃至三分ノ一ヲ焼却スル豫定ナリ

燒却場設置費ハ之ヲ資本トシテ固定スルモノナレバ二年度ヨリ五ヶ年間ノ請負契約ヲ締結セリ

燒却場經費豫算  
總經費三千四百四十圓

内 二千圓 燒却場敷地代二反三畝八歩

六百八十圓 燒却竈

六百圓 倉庫長十間巾三間

百圓 事務所四坪

六十圓 篩小屋四坪

此設置計畫ニツキ請負人ハ市衛生課員ト共ニ神戸大坂其他ノ視察調査ヲ爲セリ  
前年市ノ直營時代ニハ六千圓乃至七千圓ヲ要シタリ七八年前人夫ノミヲ受負ハシメ塵埃ハ市ニ  
テ處分シタルコトアリシガ猶八百四十圓ヲ要シタリシト云フ

共同便所八十二ヶ所ノ糞尿落札金ハ九百十圓ニシテ前年ハ千二百圓ニ騰リシコトアリ  
以上ハ市役所ニテノ調査ニ係ルモ縣廳ノ衛生課ニ就キ聞ギ得タル處ヲ添加セリ左ノ如シ  
市内ヲ三區ニ分ツ

第一區 一萬百四十四戶

第二區 四千二百九十二戶

第三區 三千九百二十二戶

使用人夫延一萬三百四十五人

塵芥搬出量四百六十一萬三千二百二十貫(二百八萬五千二百六十四立方尺)  
淤泥搬出量二十一萬三千八百十貫(十萬七千四百四十立方尺)

(數字少ク疑ハシキモノアレドモ聞ケル儘ヲ掲グ)  
意見

村部ハ本籍人口ヨリ現住人口少ク都會ノ地ハ全ク之ニ反ス是世態ノ變化ニ伴ヒ村部下層ノ人

民ガ製造場ノ工男工女トシテ又各種ノ工業者勞役者トシテ其製造工業ノ盛ナル都會ノ地ニ集  
中スルニヨルモノニシテ都會ハ之カ爲メ口急激ニ増加シ都市ハ其体面上及衛生上汚物ノ處分  
方法ヲ立テザルベカラズ其方法ニハ燒却投棄利用ノ三アリ都市ハ其地勢ト狀況トヲ考ヘ適當  
ノ方法ヲ講スベキナリ

(一〇) 私立中學開谷費

私立中學開谷費ハ縣補助千二百圓郡補助五百圓池田家年下附金千八百三十三圓ヲ得本費ハ和氣  
郡伊里村大字開谷新田ニアリ大正元年度經費豫算九千九百四十五圓ニシテ現在生徒二百、學級  
五、寄宿舎生徒數百七人、校長年俸千四百圓、教員十一人平均月俸四十七圓、全上岡山分費ハ  
岡山市大字大供ニアリ經費豫算四千三百十三圓現在生徒百三十、學級三、寄宿舎生徒十二人、  
教員六人一人平均月俸四十三圓ナリ

學科ハ中學程度ナレドモ少シク記述スベキハ  
一、現時ノ學生ガ漢字漢文ニ關スル智識薄ク爲メニ思想發表ノ上ニ殊ニ國民道德養成ノ上ニ常  
粗ニ漫ニ流レントスルノ弊アリ仍テ本費ハ此点ニツキ多大ノ考慮ト勞力トヲ智識修得ト徳性  
涵養トノ根底ヲコ、ニ求メントス故ニ先ツ聖人ノ書ニ接シ誦讀ノ間默識心通シテ自然ニ人格  
ヲ高カラシメムトノ意ヲ以テ各學年ヲ通シテ論語ヲ課シ別ニ每週一回講堂訓話ノ時間ヲ設ケ  
全生徒ヲ集メ論孟ノ一章ヲ講シ或ハ本費ノ先哲先輩ノ傳記事業若クハ隨時偶發ノ事項ニツキ  
テモ講話ヲ爲ス

一、毎朝全學生徒舉リテ運動場ニ集合シ先ツ東向遙拜シ次ギニ相互ノ敬禮ヲ行ヒ終リテ點呼シ  
服裝検査ヲ行フ之ヲ朝禮ト曰フ此朝禮ハ久シキ以前ヨリ行ハレ本費ノ特ニ意ヲ用ウル處ニシ  
テ極メテ嚴肅ニ之ヲ行ヒ此朝禮ニ加ハルモノハ胸中一点ノ邪念ナク衷心ヨリ敬虔謝恩ノ誠ヲ

致サシム入學式卒業式等ニハ閉谷神社並ニ本齋ノ再興ニ盡瘁セシ故人ノ墓ニ參拜セシメ以テ  
報本反始ノ旨ニ副ハシム

一、本齋ニハ古來閉谷三寶ト稱シ教育ノ綱領トセルモノアリ曰ク信曰ク勤曰ク儉是ナリ是誠ニ  
學術ノ末ニ馳セ學問ノ本領ヲ失フヲ戒メ人格ノ完成ニ務ムルヲ以テ主トスルニ於テ欠クベカ  
ラザルモノニシテ能ク教育勸語並ニ成申詔書ノ 聖旨ニ副フ所ノモノナレバ此實行ニ對シ  
テハ特ニ意ヲ致ス所ナリ生徒平素ノ行動ノ難易繁簡ヲ問ハズ苟クモ善トスル所ハ必ズ之ガ實  
行ヲ強フルガ如キ生徒ノ力ノ及ブ限リ勞役ニ服セシムルガ如キ學資ノ濫費ヲ戒ムルガ如キ此  
三寶ノ實行ニ外ナラズ

一、養舍ガ山間ノ僻地ニアルヲ以テ一面ニハ修養上大ニ利スル處アルモ一面ニハ活社會ニ遠ザ  
カリ他ノ刺擧ヲ受クルコト少ク迂遠ニシテ小成ニ安スルノ憾ナシトセズ此ノ缺陷ヲ補ハムガ爲  
屢々名士ノ講演ヲ請ヒ又比較的長キ修學旅行ヲナサシメ神戸大坂ノ如キ都市ニ於テ教師指  
導ノ下ニ商工業貿易ノ狀況經濟交通ノ機關發達等ニツキ觀察セシメ豫メ定メ置ケル問題ニ對  
シテ各自調査研究シタル答案ヲ作ラシメ又其他知名ノ士ニ請ヒ講テ話ヲ求メ實地ノ説明ヲ聽  
カシム

一、盛ニ擊劍ヲ習ハシメ寒稽古ヲナシ心身ヲ練ラシム輸贏ヲ競技ノ間ニ爭ハントスルノ風ヲ戒  
メ嚴重ニ武道ニ於ケル禮儀作法ヲ守ラシメ苟クモ卑劣怯懦ノ所爲アルヲ許サズ勇猛邁進ノ氣  
概ヲ養ハシム

一、寄宿舍ハ生徒ヲシテ暖カキ家庭ニアルノ感ヲ抱カシメザルベカラズ且寄宿舍ハ生徒ノ教養  
ニハ最モ適良ナル場所ト認ムルガ故ニ生徒ハ特別ノ事情アルモノ、外ハ悉ク之ヲ寄宿舍ニ收  
容スル方針ヲ採リ是ガ監督ハ一二ノモノニ委ネズ教師悉ク之ニ當リ隨時舍内ヲ視察シ親シク

指導誘掖ヲ加ヘ其見聞セシ事項心附キタル箇條ハ之ヲ視察簿ニ記入シテ指導上相互ノ矛盾ヲ  
避ケ且舍事改善舍生訓育ノ資料ニ供ス

一方ニハ又彼等ヲシテ教師監視ノ下ニ生活スルモノナリトノ念ヲ去ラシメ教師ハ指導ノ任ニ  
當ルモノナリトノ信念ヲ懷カシムルニハ拘束セラル、所少ク簡易ニシテ居心地ヨカラシムル  
ニアリ然レドモ多數ノ集合体ナレバ其間特ニ遵守セシムベキ一定ノ準則ナカルベカラズ是ニ  
於テ極メテ簡明ナル三綱領ヲ示シ舍生ヲシテ其旨ヲ体シ些細ノ事項ハ各自常識ノ判斷ニヨラ  
シム曰ク規律節制ヲ恪守スベシ曰ク長幼相敬愛スベシ曰ク共同ノ精神ヲ養成スベシ此外ニハ  
何等ノ煩鎖ナル成文ノ規程ヲ設ケズ

一、食堂ニ於テハ之ニ相當ノ裝飾ヲ加ヘ常ニ清潔ニ注意シ教師モ食卓ヲ共ニシテ臨機ノ指導ヲ  
與ヘ所謂中流ノ人士トシテ世ニ立ツベキ禮容ノ一端ヲ心得シメルヲ期シ食堂係食卓長ヲ置  
キ食堂内ノ整頓、清潔、規律、秩序ノ維持ニ任セシム大祭祝日又ハ本齋紀念日等ニハ比較的  
盛膳ヲツクリ職員悉ク列席シテ舍生ト食卓ヲ共ニシ終リテ閑談ヲ催スコトアリ舍外ニ於ケル飲  
食ハ一切嚴禁スト雖舍内一定ノ場所ニ於テ不様ナラサル心得ニテノ間食ハ敢テ妨ケズ

一、毎朝各自所持品ノ整頓室内ノ掃除ハ勿論舍ノ内外ノ洒掃校庭ノ掃除ヲモ行ハシメ日ヲ定メ  
テ大掃除ヲ行ハシム又農園ノ耕作施肥、植物園ノ手入道路ノ修繕、共同購入品ノ運搬ニ從ハ  
シム此際ニハ職員モ率先シテ其間ニ立チ各人ノ動作ニ注意シ機宜ニ應シテ指導ヲ與ヘ以テ質  
素勤勉勞苦ヲ避ケザル剛健ノ氣風ヲ養成セシム

購買組合ノ組織ニ倣ヒテ共買組合ト名ツクルモノヲ組織シ修學用具日用雜品ヲ市價ヨリ低  
廉ナル價格ヲ以テ購入ス

一、寄宿生娛樂ノ機關トシテ息遊會ト云フモノヲ組織シ娛樂室ヲ設ケ新刊書遊戲ノ器具等ヲ購

入シ之ヲ備付ケ殊ニ學生ニ差悶ヘナキ限リ新聞雜誌ハ之ヲ購入シテ閱讀セシムルフトス  
 一、寄宿舎ノ改善發達ヲ圖リ兼テ寄宿舎訓育ノ主旨ヲ周知セシメ又舍生希望ノアル所ヲ疏通  
 セシムルガ爲毎月一回以上舎長、室長、食堂係、娛樂室係、其買組係員ヲ集メ教師及炊  
 事監督之ニ臨ミ會議ヲ開ク  
 等ニシテ統一的ノ風潮ハ學海ニ洽テク此費ノ特色モ十數年ノ昔日ニ比スレバ大ニ稀薄トナレリ  
 ト云フ

猶閑谷費沿革ノ大略ヲ記セハ左ノ如シ  
 岡山藩主池田光政移封ノ始メ其管内ヲ巡リ深ク庶民教育ノ必要ヲ感シ郡邑ニ手習所ヲ置キ先ヅ  
 庄屋年寄又ハ豪農ノ子弟ヲ教ユ其盛ナル一時ハ百二十三ヶ所ノ多キニ達シタリト云フ和氣郡  
 木谷村延原ニ設ケラレタル手習所是乃チ閑谷校ノ前身ナリ此地靜閑讀書ニ宜シキヲ以テ延原ヲ  
 改メテ閑谷ト名ツケ寛文十年其臣津田永忠(通稱左源太)ヲシテ繩ヲ張り地ヲ割セシメ學校ヲ建  
 テシム之ヲ假學校ト稱ス今ヲ去ルコト二百四十五年前ナリ

寛文十二年學房及飲室成リ翌延寶元年講堂成ル二年聖堂成リ閑谷壁書ヲ定メ講堂ニ掲ケシム三  
 年封内多數ノ手習所ヲ廢シ本費ニ併合ス費ハ開放的ニシテ學生ヲ入ル、ニ士庶ノ別ナク内外ノ  
 隔テナシサレバ遠國ヨリ笈ヲ負ヒテ來遊セシモノモ少ナカラザリト云フ侯モト陽明學ヲ好ミ  
 熊澤蕃山ヲ用ヒ又數々中江藤樹ノ說ヲ聽キシモ陽明學ノ或ハ人ヲ誤ルコトアラフヲ憂ヒ本費ニ  
 テハ嚴ニ朱子學ヲ守ラシメ壁書ノ學頭ニ

閑谷入學のものは禮儀を正しくして學問すべし尤も其人を撰み愷かなる證帖并に宗旨手形取  
 り置くべき事

ト定メ本費獨立維持ノ法ニ至リテハ侯ノ深ク潛思セシ所ニシテ學田ヲ版籍ノ外ニ置キ他日轉移

絶國ノ事アルモ後ノ藩主ヲシテ一指ヲ此學舎ニ加ヘザラシメントシ延寶八年津田永忠ノ議ヲ用  
 キテ新墾地ヲ木谷村ト名ツケ舊木谷村ヲ閑谷村ト改稱シテ學田トナシ他ノ課役ヲ免シ悉ク其貢  
 租ヲ本費ニ収メシム後又侯ガ嘗テ周制ニ倣ヒ井田ノ法ヲ試ミ井田村ト名ツケタル一部ヲモ本費  
 ノ所屬トシ其高二百七十四餘石ニ及ベリ是學校經濟獨立ニ最善ヲ盡シタルモノナリ加フルニ鬱  
 蒼タル山林七十餘町歩アリテ本費維持ノ基礎極メテ鞏固ナルモノアリシニ明治維新版籍奉還ノ  
 際百事擾々田畝山林或ハ民有トナリ或ハ官有トナリ又寸地ヲ餘サズ古人ノ深慮空シク畫餅ニ歸  
 シタリ惜ムベギノ限リナリ

同五年講堂ノ茅屋ヲ改メテ瓦屋ト爲ス此年文庫成ル天和二年五月光政薨ズ

貞享元年新聖堂成リ名ケテ大成殿ト曰フ從來ノ聖堂ヲ改築セシモノニシテ今日存スル所即チ  
 是ナリ三年東堂成ル光政ヲ祀ル所ナリ其聖堂ノ東ニアルヲ以テ東御堂ト稱シ光政ノ諡号ニヨリ  
 芳烈祠ト呼ブ明治八年縣社ニ列セラレ社号ヲ閑谷神社ト賜フ每歲春秋ニ祭典アリ諸生ヲ參拜セ  
 シノ費祖ノ恩ヲ謝シ報本ノ義ヲ忘レザラシム

元祿十四年新講堂東西八間習藝齋方四間釣屋東西二間飲室東西四間成ル今日存スル所即チ是  
 ナリ此年周圍ノ石塀四百十五間ヲ作り又聖像ヲ鑄ル十五年椿山成ル芳烈公ノ髭髮爪齒ヲ納メシ  
 所ニシテ四圍ハ椿ヲ植ウルヲ以テ此稱アリ一ニ御納所ト稱ス寛文八年手習所ノ創設ヨリ此ニ至  
 リテ三十五年本費ノ經營始メテ完成ス其規模宏大輪奐壯麗時人ノ側目ヲ招キ遂ニ幕府ノ嫌疑ヲ  
 受クルニ至ル

正徳元年正月讀初ヲ行フ以來年々新年讀初ノ儀典ヲ行フ

文化十一年黃葉亭記成ル頼山陽ノ撰スル所ナリ

明治三年九月學制ヲ改革シ本費ヲ閉テ之ヲ岡山學校ニ併合ス

五年藩ノ有志再興ヲ計リ山田方谷ヲ迎ヘテ校長トシ六年二月開校シ閑谷精舎ト曰フ初メ漢英數ノ三科ヲ教授セシガ後漢學專門トナル十年方谷没シ又閉校ノ止ムナキニ至リ支費ヲ岡山ニ設ケ僅カニ其名ヲ存ス是ニ於テ本費再ビ草茅ノ裡ニ委セラレ明君賢相ガ苦心ノ餘ニナリシ一大學舎モ將サニ觀古ノ一資料タラントスルノ運ニ迫レリ

十四年西教一等再ビ本費ヲ開クノ議ヲ唱ヘ藩ノ有志并ニ備前八郡ノ有志者ニ謀リ閑谷保養會ヲ設ケテ基金ヲ募集ス

十七年八月開辦シ西教一ヲ教頭トシ專ラ漢數ノ二科ヲ教授ス

十八年八月四日 先帝山陽道巡幸ノ際特別ノ恩召ヲ以テ德大寺侍從長外二人ヲ本費ニ差遣ハサレ教職員并ニ生徒一同天使ニ講堂ニ謁ス此年英語科ヲ増設ス

二十年四月香川真一ヲ保養會々長トス

二十六年更ニ倫理地理歴史ノ三科ヲ増設ス

二十七年理財科ヲ増設ス

二十八年朝鮮語學科ヲ新設ス

三十一年十月認可ヲ得テ閑谷保養會ヲ社團法人トシ香川真一岡本巍中野壽吉櫻井彌壽二野崎萬三郎ノ五名ヲ以テ理事トス

三十三年理化ノ二科ヲ増設ス

三十五年學則ヲ改メ中學校令及中學校令施行規則ニ準據シ中學程度ノ學科ヲ本科トシ別ニ漢學專修科ヲ置ク舊藩主侯爵池田章政公ヨリ本費經費補助トシテ本年度ヨリ年々金二千圓ヲ下附セラル

三十六年私立中學校ノ認可ヲ得縣費ヨリ經費補助金二千圓設備費補助金一千圓ノ下附ヲ得以後

年々縣費補助ヲ受ク同年十月十九日 今上陛下未ダ東宮ニマシマシ、ガ南海ヨリ、還御ノ際特ニ本費ニ 行啓アラセラレ長西教一ニ講堂ニ於テ拜謁仰付ケラレ親シク本費ニ關スル諸般ノ沿革ヲ御下問アラセラル爾後年々此日ヲ以テ紀念ノ式ヲ行フ

三十七年三月長西教一歿ス四月岡本巍ヲ以テ校長トス

四月新費舎建設ニ着手ス

八月認可ヲ得テ費名ヲ私立中學閑谷ト改稱ス

三十八年二月新費舎落成ス今ノ費舎即是ナリ

四十一年九月岡本巍校長ヲ辭シ藤井裕爾其後ヲ襲ク是目今ノ校長ナリ

所 感

小學中學ヨリ帝國大學ニ至ル間其連絡ヲ保ソベク系統的學制ハ必要ナラムモ如何ニ統一セント欲スルモ天然ハ山ヲ異ニシ川ヲ異ニシ又其氣溫風土ヲ異ニシ且各其歴史ヲ異ニスルヲ以テ從ヒテ亦其人情風俗ヲ異ニス此異ナリタルモノヨリ出テタル百般ノ成果其幾分ヲ保存スル必要ハアラザルカ故ラニ之ヲ保存セズトスルモ凡ベテ湮滅ニ歸セザラシムル程ノ餘地ヲ存スベキ必要ハアラザルカ學校ニ於ケル校風ハ生徒ノ人格修養上一種ノ薰染力ヲ有シ私立學校ノ如キハ若シ校風ナクンバ其存在ノ理由ノ大半ハ没却セラル、モノト謂フベシ官公立學校ニテモ校長ノ人格崇高ナラバ又之ニ假スニ十年以上ノ歲月ヲ以テセバ自ラ一種ノ校風隱然生ズルニ至ルベシ

(乙) 廣島縣

(一) 總說

面積五百二十一方里

現住戸數三十二萬四千戸

現住人口百六十三萬七千人

田畑十一萬七千町

十六郡三市十四町四百五十一村

大正元年經常費百二十八萬七千圓

内 教育費三十一萬圓 百分率二四%強

小學校學齡兒童就學獎勵ニ就キテハ貧困者ヲ保護スル町村多ク學齡兒童保護會ヲ設ケ其會費或ハ町村費ヲ以テ學用品ノ給與ヲナシ貧窮甚シキモノニハ或ハ被服費ヲ補助シ或ハ辨當料ヲ與ヘ以テ之ヲ保護獎勵シ五千三百五十八人ノ貧困兒童ヲ就學セシム(大正元年)サレバ學齡兒童ノ就學率ハ頗ル好成績ヲ示セリ

青年會處女會ノ如キモ之ヲ勸奨指導セル結果青年會ハ團數四百七十二、支部數千九百二十九、團員九萬六千人其經費一萬三千四百圓處女會ハ會數三百六十五、會員四萬九千三百人、經費二千六百圓ニ達シ通俗講談會ノ如キモ之ヲ開設セル町村三百八開會數千六百四十八回ニ達ス

圖書閱覽所ヲ置ケル町村二百五、箇所數三百九閱覽者數九萬七千人ニ上リ又各郡ニ於テ郡私立教育會又ハ青年會ノ施設ニカ、ル町村巡回文庫ノ設ケアリテ讀書趣味ノ誘發ニ努ム

中等教育ニ就テハ縣立學校十三アリ即チ師範一、女範一、中學五、高女一、職工一、商業二、商船一、農一、其經常費合計參拾萬七千參百五拾圓生徒定員五千四百人其内中學校ノ經費ハ九萬七千圓ニシテ生徒定員ハ二千四百人ナリ

私立學校ハ實業技藝ニ關スルモノ五校ニシテ縣費ノ補助額ハ四千圓ナリ  
勸業費ハ貳拾貳萬九千圓ニシテ同縣ハ地勢山多ケレバ之ヲ三部ニ分チ通俗的ニ之ヲ海岸、里、與

ト呼ブ各部其温度頗ル差アリサレバ農業ハ割合ニ發達シ居ラズ米ノ收穫反當リ一石六斗五升許ニシテ平年百二十萬石内外ノ産額ナレバ縣内ノ供給ニ幾分ノ不足ヲ見ル程ナリ養蠶ノ如キモ猶幼稚ニシテ繭ノ年産額六拾萬圓内外ナレバ其施設等見ルニ足ラズ

海苔牡蠣ノ養殖ハ稍進メルモノ、如シ牡蠣ハ年額八萬貳千圓海苔ハ拾參萬六千圓ノ生産アリ(實際ハ餘程之ヨリ多シ)其養殖地牡蠣ハ四十二萬二千坪海苔ハ六十一萬五千坪アリ其最モ良キ所ハ一反歩千八百圓ノ賣買アリ普通ノ所ニテモ百圓乃至百五拾圓位ノ價格アリト云フ

(二) 廣島縣米穀検査並ニ米券倉庫

本縣米穀検査ハ明治四十三年十月ヨリ縣事業トシテ之ヲ始ム其方式ハ生産者ノ任意受檢トナシ民間ノ組合組織ニ成レル所ノ米券倉庫ト相待チテ以テ産米改良ノ目的ヲ達セントス其事業年度ハ十月一日ヨリ翌年九月末日ニ至ルモノトス一俵ノ容量ハ四斗ナレドモ五月一日ヨリ七月末日マデハ四斗三合ヲ以テ四斗ト看做ス(民間ノ容量ハ或ハ三斗五升俵アリ或ハ三斗二升俵アリ三斗一升五合俵アリ一定セズ)検査ニ合格シタルモノハ粒種ニヨリ大粒小粒ニ分チ各一等ヨリ三等ニ區別シタル等級ヲ附ス端米ニテモ受檢スルヲ得ヘク又入庫スルコトヲ得ルナリ  
縣ノ産米ハ明治四十三年一月十二萬四千七百七十九石明治四十四年百二十四萬八千五百七十一石ニシテ産額ト縣ノ食料ト殆ンド大差ナク酒造米ハ多ク他縣ヨリ輸入スルモノトスサレバ輸出来検査ノ必要ナシ

米作ノ稻種ハ概チ雄町、八反、真力ノ三種ニシテ真力ハ作附ノ殆ンド六割ヲ占ム

明治四十三年度受檢米六萬三千七百七十一俵 人員七千百十人

内 不合格三千六百七十一俵

明治四十四年度受檢米十四萬九千四百三十五俵 人員八千六百八十九人

内不合格三千百九十九俵

大正元年度分ハ視察當時検査シタルモノ約十六萬俵

入庫米獎勵金交附高ハ

明治四十三年 千六百九拾五圓六拾九錢

明治四十四年 四千參拾參圓九拾五錢

入庫スルモノハ明治四十三年ニハ大部分自作者ナリシガ四十四年ニハ米商、地主、自作者、小作者ト云フ統計順位ヲ示セリ

検査所ハ六十箇所ヲ設置シ米券倉庫或ハ其支庫所在地ニアリ且縣下ニハ小銀行多ク米券倉庫ノ倉庫長ハ概テ銀行ノ重役ナレバ兩機關相持テ大ニ其事業ヲ滑ラカナラシムベシ

縣下三十種ノ倉庫專用ノ徵票ニ二ツノ意味アリ一ハ入庫獎勵金ノ二重請求ヲ防ク爲ニシテ一ハ以テ一個ノ商標トシテ市場ニ聲價ヲ博セムガ爲ナリ

明治四十四年十月一日ヨリ大正元年九月三十日ニ至ル各倉庫米券對金融ハ統計ノ示ス所ニヨレバ

融通金拾貳萬參千參百七拾六圓七拾九錢四厘

同上米二萬三百四十九俵

取扱件數營業者二百三十七件其他二百六十六件

共同販賣ノ數量七千二百七十六俵ニシテ未検査米トノ價格差ハ石ニツキ約壹圓ナリ

大正二年度米穀検査所經費豫算貳萬參千參百五拾四圓入庫米獎勵費五千圓ナリ

(大正元年度米穀検査所經費豫算貳萬七千六百九拾八圓

米券倉庫入庫米獎勵費七千五百圓

明治四十四年度豫算參萬五千七百六拾貳圓決算額貳萬四千百拾參圓  
入庫米獎勵金六千圓決算額四千參拾八圓)

(三) 廣島縣青年團

廣島縣ノ青年團ハ其ノ成績頗ル見ルベキモノアリ其起因ハ明治二十五、六年ノ頃何レノ縣ノ村落ニテモ多少行ハレタル夜學會ニ起リ夜學會ヲ設ケタル村ヨリ出テタル壯丁入營者ノ成績ハ年々著シク他ニ勝リシヲ以テ明治三十五、六年頃ヨリ此準備ノ爲メニ各村續々夜學會ヲ設ケ稍青年ノ向學心ヲ惹起セシメタリシガ偶、明治三十七八年ノ戰役ニ際會シ青年敵愾心ノ勃發奉公心ノ自覺ハ大ニ其間ノ活動ヲ促カシ殊ニ本縣ハ軍隊ノ來往頻繁ナリシ故一層奮起熱誠ノ情ヲ高メ二十箇月間ノ淬勵ハ期セズシテ地方青年協同一致ノ氣風ヲ馴養シ青年會ノ革新向上自覺シキモノアリ之ニ加フルニ明治三十八年七月縣ハ左ノ訓令甲第二十五號ヲ發布セリ

學校ハ其地方ニ於ケル文化ノ中樞タリ之ヲ以テ市役所若クハ町村役場ト協力シ進ミテ社會教育ノ普及發達ヲ圖ルベシ近時青年夜學會漸次各地ニ行ハレ其成績ノ佳良ナルハ定ニ嘉ミスベキ現象トス今後一層之ガ發達ヲ計リ女子ニ對シテモ亦此種ノ施設ヲ圖ルベシ又時々通俗講義會ヲ開キ或ハ新聞及圖書ノ閱覽場ヲ設クル等努メテ地方人民ノ智識開發ニ力ヲ盡スベシ

是ニヨリテ各小學校ニハ悉ク青年夜學會ヲ起シテ誘掖指導ニ努ムルニ至リシカバ青年會修養事業ノ基礎益々堅固トナレリ然レドモ同一町村内ニ數多ノ團體分立セルハ將來ノ發展上得策ニアラザレバ縣當局若ハヨ、ニ其大綱ヲ定ムルノ必要ヲ認メ明治四十一年四月郡市長會ニ諮詢シテ一定ノ標準ヲ定メタリ

青年會設置標準

- 一 市町村青年會ハ一市町村ヲ區域トシテ設置スルコト
- 二 市町村青年會ハ其市町村ニ居住スル青年男子ヲ以テ組織スルコト
- 三 市町村青年會ハ教育並ニ戊申詔書ノ趣旨ヲ遵奉シ青年智徳ノ修養ニ勉メ身体ヲ鍛練シ勤儉力行以テ共同自治ノ精神ヲ養フヲ以テ目的トスルコト
- 四 市町村青年會ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ政黨改派ニ關與セザルコト
- 五 第三項ノ目的ヲ達セムガ爲執ルベキ事業ノ概目左ノ如シ
  - 1、補習教育壯丁教育實業教育ヲ施スコト
  - 2、講演會談話會及物産品評會等ヲ開催スルコト
  - 3、運動會其他共同ノ競技ヲ爲スコト
  - 4、實業ヲナスコト
  - 5、金品ノ貯蓄ヲ爲スコト
  - 6、公共事業ハ協力スルコト
- 六 郡青年會ハ町村青年會ヲ以テ組織スルコト
- 七 郡青年會ハ町村青年會ヲ統轄指導シ事業ノ進捗ヲ圖ルヲ以テ目的トスルコト
- 八 前項ノ目的ヲ達スル爲凡ソ左ノ事項ヲ爲スモノトス
  - 1、町村青年會ノ役員總會ヲ開キ町村青年會ヲ通シテ爲スベキ事業ヲ決定スルコト
  - 2、町村青年會中成績優良ナルモノヲ表彰スルコト
  - 3、高齢者ヲ尙ヒ善行者ヲ表彰スルコト
  - 4、物産品評會講話會及講習會ヲ開クコト

此ニ於テ各部落ノ小團體皆統一整理セラレ以テ今日ニ至レリ縣下各青年團ニ於ケル事業ヲ列記

スレバ

補習教育、壯丁教育、講習會、講話會、書籍回覽、圖書室設置、雜誌發行、体育獎勵、新聞雜誌共同購讀、

善行者表彰、軍人優待、吉凶慶弔、老人慰籍、慈善事業補助、社寺掃除、在營者慰問、造林、苗圃設置、共同耕作、果樹栽培、養蠶、蠶綢工、開墾事業、桑園栽培、共同養蠶、椎茸栽培、

學齡兒童保護、公共事業補助、道標建設、里道修繕、揭示場設置、河川浚渫、繩綯、農產品評會、橋梁架設、土木請負、就學獎勵、勞力寄附、幻燈會、俱樂部設置、團體旅行、共同理髮、

本縣ハ各部大ニ其地勢狀況ヲ異ニスレバ其事業モ幾分異ナルヲ免レズサレバ前記ノ如ク多種多様ナルモノトナル

縣下ニテ、最も優良ト見ナサレタル團體ハ

沼隈郡山南村青年會、同郡赤坂村青年會、同郡神村青年會、神石郡小野村青年會、安佐郡狩小川村麻下青年團、同郡大林村青年會等ナリ

其狀況ハ之ヲ略スト雖特記セザルベカラザルハ安佐郡狩小川村麻下青年團ノ爲メニ盡瘁シタル小川尋常小學校教員大村力吉氏ノ功勞ナリ同氏ハ明治二十二年ヨリ小川原青年夜學會ヲ創始シ爾來二十幾年其間幾多ノ障害頓挫ニ屈セズ以テ今日ニ至リ孜孜々々トシテ獻身的ニ指導ヲ連續スサレバ該部落ハ往年不就學者半途退學者多ク小學教育ノ萎靡振ハザリシニモ拘ハラズ夜學ヲ一種ノ義務教育ノ如ク思ヒ青年輩必ズ之ヲ履修セシヲ以テ無學ニシテ日常ノ用ヲ便セザル者ハ殆ンドナク殊ニ此部落ニ於テハ樂書野荒シ賭博等ノ惡弊ハ既ニ久シク其跡ヲ絶チ部落民八十

餘戶隣保ノ情誼頗ル厚ク貴賤貧富ノ隔ヲ設ケズ寄附金ノ如キモ常ニ部落ノ名義ヲ用ヒ決シテ氏名金額ノ多少ヲ外界ニ發表スルコトナシ又部落民私有ノ山林百十數町步(券面)ニ生ズル菌蠶ヲ青年團ニ寄與シ(年收約二百圓)其事業ヲ幫助スサレバ該青年團ガ温健ナル發展ヲナシ一ノ特色ヲ帯ベルモ大ニ因ル所アルヲ知ルベシ

意見

青年團ノ目的ハ其修養ニアリテ他ノ營利的事業團體ト同シカラザレバ敢テ採種田ノ設置植林面積ノ廣キヲ誇ルベカラズ貯金額ノ多キニ安ゾズベカラズ前記ノ如キモノ皆智德修養ノ進路ニ於ケル隨伴物ナリサレバ優良ナル青年團ハ其經歷古ク其基礎固ク會員皆其位置ヲ自覺シ農蠶ノ智識略々修得シ了リ大ニ實修ニ力ヲ用キ又一面ニハ公共心禁スルコト能ハズ自動的ニ町村事業ノ振興ニ協力セントスルモノアルヲ見ルサレバ他ノ進度ノ猶幼稚ナル青年團ガ單ニ其表面ノ事業ノミヲ模倣シ試作田ヲ設ケ殖林ヲ企テ桑園ヲ耕シ土木事業ヲ請負フモ失敗ニ歸セサルコト少ナカラシ(進ミタル青年團ト雖土木事業ノ請負等ヲナスハ大ニ考慮スヘキコトナリトス)

廣島縣ノ模範青年團ノ或モノハ其事業トシテ共同試作開墾、採種田設置、害虫驅除、堆肥舍ノ建設、植樹、苗圃、養鯉、農具製作等ヲ列舉シ恰カモ一農事試驗場ノ如ク多様ノ經營ヲ爲サントス團體ノ進度已ニ高ク會員協同一致實修ノ爲年々交代分業セバ或ハ之ヲ爲シ得ムサレド自家ノ生業ヲ缺カザル範圍内ニ於テ果シテ之ヲ遂行シ能フベキカ實業補習學校夜學會等ハ小學校長ノ掌握ニ歸シ小學校長即青年團ノ團長タル以上ハ青年團ノ振否如何ハ其責任亦殆ンド小學校長ニアリト謂フベシサレバ青年團ヲ發展セシメントセバ先ツ小學校長ノ人格ヲ撰バザルベカラズ小學校長ニシテ眞摯熱烈ノ人

ナラバ之ニ假スニ十年ノ歳月ヲ以テセハ必ズ其青年團ヲ發展セシメ併セテ一村ノ風紀ヲ改善セシムルニ至ラム

幼稚ナル青年團ノ事業トシテハ

- 一、實業補習教育或ハ夜學會
  - 一、年々一二月ノ交ノ講習會(七日以内)
  - 一、時々農閑時ノ講話會談話會
  - 一、巡回文庫
  - 一、善行者表彰、尙老事業
  - 一、風紀委員ノ設置
  - 一、農桑業等改良發達ニ關シ官廳又ハ其他ノ獎勵ニ對シ率先シテ之ガ實行ニ努ムルコト(各會員打合せ先ツ自家事業ニツキテ)
  - 一、俱樂部設置(弊害少キ娛樂ヲ撰ムコト)
  - 一、他地方ヘノ同行視察(旅費ヲ要スル多カラザル處ニ於テ)
  - 一、公共事業ノ補助勞力ノ提供
  - 一、實習事業ニ於テハ智德修養稍々見ルベキモノアルヲ機トシテ之ヲ勸奨指導シ徐々ニ宜シキニ從ヒ着手スベシ
- 右ニ就キ若シ人心之ニ向ハハ共同事業程實習上効果多キハナカルベシ人心ヲ指導スルハ其主宰者ノ人格ト依頼トニアリ指導トシテハ一面ヨリハ頻々講話會ヲ開キ學校職員村長寺ノ住職社掌他村内ノ有力者ガ其席ニ臨ミテ講話ヲ行ヒ一面ニハ團體員ヲ引率シテ縣農事試驗場或ハ農事講習所或ハ個人經營ノ重ナル實業施設又ハ模範青年團ノ事業ヲ視察セシムルニアリ氣

運猶應セザルニ強ヒテ各種ノ事業ヲ爲サシムトセバ共同試作ニ指ヲ染メ又ハ共同貯金ヲ開  
始スルモ其失敗ニ歸セムコト明ナリ貯金ノ如キ決シテ其金額ノ多少ヲ以テ輕々シク事績ノ功  
過ヲ判定スベカラズ苟クモ貯金セントスル心ヲ誘起セバ未ダ壹錢ノ貯金ヲナサザルモ是既ニ  
成効ナリ青年會ノ指導者ハ宜シク青年ノ心ヲ振起セシムベシ其方法トシテハ前記ノ講話會ト  
視察トノ二者ヲ善用スルノ外ナカラシ

(四) 廣島縣衛生展覽會

廣島縣衛生部防疫官鈴木植次氏ニ就キ衛生展覽會ノ施設狀況ヲ問フ  
衛生展覽會ハ明治三十五年頃鈴木氏新潟縣在勤ノ時同縣ニテ開キタルコトアリ其後三十九年以  
來廣島縣ニ於テ開催シ市部ニ郡部ニ非常ノ盛大ヲ來セリ  
普通ノ衛生講話會ノ如ク衛生上心得ベキ事柄ニツキキ人民ヲ集メテ講話スルハ幾分ノ効果アルベ  
シト雖物品ニツキテ之ヲ説明スルノ勝サレルニ如カズ其二三ノ例ヲ舉グレバ皮膚病傳染ノ危險  
ヲびんづる様ニツキテ之ヲ説明スルノ恐ルベキヲ藥師ノ御茶湯ニ手洗場ノ奉納手拭ニツキテ示  
メシ煙草、茶ノ實物ニツキキにちんていんヲ説クニ煙草成分表、茶葉成分百分比列表ヲ以テシ  
齒牙ニ對シテハ其ノ模形(健全ト病的ト)ニツキ並ニ齒楊子、齒磨粉、學齡兒童齒牙檢査成績ヲ  
示シ齒牙疾患ノ直接及間接ニ全身病ニ及ボス關係一覽ヲ併セテ之ヲ述ベ蒸溜水、糞沸水、不良  
井水ニツキキ水ノ成分ヲ説キ飲料水ニ病毒混入ノ徑路實況圖ヲ示シ食物ノ陳列部ニツキテハ食物  
ノ滋養分比較蠅ノ飲食物ニ惹フハ病毒傳染ノ媒介タルコトヲ語リ其他色鉛筆、白粉、ほろろ  
器有毒魚菌中毒表、さつかりん、据置唾壺、汚染セル沙、清淨ナル砂、衣服地保温力檢定裝置、酒  
盃ノ献酬、盃洗等卑近眼ニ觸レ易キモノ或ハ簡單ナル裝置ニヨリテ來觀者ニ其説明ヲナス其陳  
列品ヲ類別シテ四、五室ニ分チ入場者ハ順次各部室ヲ回覽スル間大ニ感得スル處アルベシ只其

効果如何ハ説明ノ巧拙ニ關スルコト最モ大ニシテ次ギハ陳列品ノ撰擇陳列ノ順序等ナリ

大正二年度ノ經費

一 衛生展覽會費

一 用品費

二 運搬費

二 講演及印刷費

參百參拾貳圓

百五圓

一 講演印刷費

參百五拾圓

陳列物品各種買入  
會場ト會場間ノ運搬

此印刷費ノ中ニハ衛生上ノ心得或ハ其流行傳染病豫防心得等ヲ通俗的ニ且ツ趣味アル様ニ記述  
シタルモノヲ數千枚印刷シ之ヲ各市町村ノ斬髮床ニ吊ルルス經費ヲモ包含ス  
而シテこらほ一ハ豫防ニツキテハ廣島縣ハ縣費ヲ支出セズト云フ

意見

衛生展覽會ノ經費ハ多クヲ要セズ説明者ハ衛生部ノ吏員一人ト其地方々々ノ醫師ヲ煩ハサバ  
足ラム他ヲ説キテ感得セシメムトセバ其事ト其物トヲ連結セシメ耳ヨリ入ル、ト同時ニ其眼  
ニモ映ゼシムレバ來集者ノ感動一層深キモノアラム人民ノ多數ガ教育ノ程度低キ村部ニテハ  
其効果殊ニ多カラムトス其會場ハ小學校ヲ用キナハ一教室毎ニ説明者詰メ切り四五十人ノ來  
觀者纏マラバ講説ヲ始メ順次ニ之ヲ回覽セシメナバ適當ノ會ナルベシ若シ室挾斯或ハ赤痢等  
ノ流行ニ際セバ其レニ關係深キモノ、ミヲ陳列シテ説明セバ大ニ効果アラムト信ズ  
次ニ印刷物ヲ散髮床ニ吊リ下ゲ通俗衛生講話ニ代ヘムトスル是亦一種ノ考案ナリト謂フベシ  
此印刷物ニ依ル周知法ハ其場所ヲ廣メテ停車場ノ待合所湯屋其他恰當ナル場所ニ及ボサハ猶  
一段ノ効果アラム其記述法(繪入ナラバ其意匠)ノ如何ハ大ニ其効果ノ多少ニ關ス展覽會ト共

ニ衛生ニ限ラズ之ヲ勸業ノ方面ニモ及ボシ得ベシ  
幻燈ヲ利用シテ講話スルハ其物ヲ一齊ニ聽衆ニ見セシムルノ利アルモ衛生展覽會ニ陳列スル  
物品ニハ之ヲ畫板ニ現ハスニ不適當ノモノ多ケレバ矢張衛生展覽會ハ衛生展覽會トシテ一種  
ノ長所アルモノト信ス

(五) 廣島縣立農事試驗場已斐分場

本分場ノ土性ハ岡山縣ノ試驗場ト略々同ジク第四紀新層砂質壤土ニシテ園藝試作地ニ好適ナリ  
面積一町六反六畝五步

敷地六百六十五坪

内 建坪百七十坪

圃場一町四反四畝步

一、事業

(一) 園藝ニ關スル事項

當場ニ於ケル果樹園ハ植附後僅カニ二年有餘ニシテ其結果ハ數年ヲ待タザレバ知ルベカラサ  
ルモ種類試驗、病蟲害ニ對スル處置及ビ模範的栽培ヲ行ハントス又斯業ニ關スル獎勵ノ方針  
トシテハ南部ハ柑橘就中温州密柑及ねいぶるヲ中部北部ハ柿ヲ主トシ衣紋、堂上、蜂屋、祇  
園、坊、西條、天神、御所、富有柿ノ各種ヲ梨ニアリテハ長十郎、獨逸晚三吉、世界一、ふ  
りゑんたる、ばいとれつと、じゆつせすだんぐれしむ種ヲ苹果ニアリテハ紅魁祝、くーば  
ーすあーりー、旭ヲ栗ニアリテハ丹波栗、盆栗、朝鮮小栗ノ各種ヲ採リ以テ山野未耕地ノ利  
用ニ努メ其產額ヲ増加スルト共ニ品種ノ統一ヲ計リ葡萄、桃、無花果、枇杷其他ノ果樹ニ至  
リテハ各地方ノ需要ヲ滿タスノ程度ニ止メ植付反別ノ増加ヨリモ品種及ビ栽培法ノ改善ヲ主

トス就中桃ノ如キ生産過剩ニシテ且貯藏運搬ニ不便ナルモノニアリテハ農家ヲシテ之ヲ利用  
セシメムガ爲メ乾果罐詰其他ノ加工ニ就キ研究ノ歩ヲ進メントス尙剪定法、病蟲害驅除豫防  
方法ニ付キテハ主トシテ實地指導ヲナシ當業者ニ便益ヲ與ヘツ、アリ  
蔬菜ニツキテハ果樹ト等シク種類試驗ニヨリ良種類ヲ撰定シ病蟲害ニ對スル驅除豫防法ヲ檢  
知シ或ハ模範的栽培ヲナスト同時ニ從來栽培ヲ試ミザリシ根深葱、花椰菜、軟白作物ノ試作  
並ニ玻璃框ヲ利用シテ促成栽培ヲナス等蔬菜ニ關スル農民ノ智識ノ向上ヲ計リ他方ニ於テハ  
現今ノ如ク地方農家ガ市場ヨリ蔬菜ヲ購買スルガ如キハ經濟上策ノ得タルモノニアラサルガ  
故ニ自カラ是ガ栽培ニ從事センコトヲ欲シ其一助トシテ各特產地ヨリ善良ナル種子ノ實費取  
次ヲナセリ

(二) 病蟲害ニ關スル事項

益蟲並ニ害蟲ヲ飼育シテ其經過習性ヲ調査シ或ハ各病害ノ原因、誘因發生ノ狀況等ヲ調査シ  
テ其保護驅除及豫防ノ適法ヲ知り其應用ニ努メントス最近ニ於テ行ヘル主ナルモノハ

A、柑橘ひやけ病々源發見

柑橘ひやけ病ハ豫防法明ラカナラズシテ我國園藝家ノ最モ憂慮シタルモノナルガ明治四十三  
年豊田郡北生口村ニ於テ委託試驗ヲ行ヒ當場高場技手及香川村長協力研究ノ結果病害ナラ  
ズシテ虫害ナルコトヲ發見シ從ツテ其驅除法ヲ明カニシ得タルハ大ニ斯業ニ貢獻スル所ア  
リ

B、果樹害蟲ニ對スル青酸瓦斯燻蒸

右ニ關スル當場試驗ノ成績ニ依リ豊田郡久友村、北生口村及賀茂郡竹原町ノ諸所ニ於テ之  
ヲ行ヒ斯業者ヲシテ實見セシメ其後安藝郡晴島ニ於テ當業者ノ依頼ニヨリ一反歩ノ苹果園

ニ之ヲ行ヒ凡テ好果ヲ收メタリ

C、菌草害虫驅除試驗

菌草害虫錐蜂ノ幼虫はしよ驅除ニ對スル藥劑及其濃度ニツキ四十二、四十三ノ兩年間  
御調郡模範農場ニ委託シテ試驗ヲ行ヒタルニ東雲草煎汁使用區最モ良好ニシテ石油乳劑煙  
草煎汁同ゑさす及ビゴすどゝる使用區順次之ニ次ギ而シテ各區ヲ通ジテ濃度ヲ高ムルニ從  
ツテ奏功大ナルノ成績ヲ得タリ

(三) 種苗配付ニ關スル事項

興津園藝地ト相待チテ優良ナル果樹蔬菜ノ種苗ヲ益々廣ク縣下當業者ニ配布センコトニ努メ  
現ニ果樹ニアリテハ葡萄、無花果、柿、桃、蘋果、李及柑橘等ノ種先ヲ配布シ蔬菜  
ニアリテモ當場產種苗ヲ配付スルト同時ニ特產地ヨリ取寄セ實費配布ヲ行ヒツ、アリ

(四) 質問應答ニ關スル事項

當場ハ園藝養雞養蜂ニ關スル質問ニ應答ス

意見

園藝ハ農家ノ副業トシテ獎勵スベキモノナラム農業者ノ質問ヲ招致シ之ニ應答スルコトハ好  
個ノ指導法ニシテ青年農業者ヲシテ其研究心ヲ深クシ其趣味ヲ高メ延テ農界自覺ノ清涼劑タ  
ラムコト疑ナカラムサレド其効果ノ如何ハ大ニ場員ノ努力ニ待ツコト多シト信ス

(五) 佐伯郡河内村自治狀態

河内村役場ヲ訪ヒシニ村長不在ナリシヲ以テ役場吏員ニツキ調査スル所次ギノ如シ  
先ツ諸會合ニ於テ時間ガ恪守セラル、ヤ否ヲ聞クニ數年前マデハ不揃ノコトアリシモ今ハ略々  
確實ニ守ラル、ニ至レリ村會ニテハ明治四十四年度中ノ開會十三回日數十六日議員十二人ニシ

テ缺席ハ旅行不在ト病氣ニテ僅カニ二日アリシノミニシテ時間ノ堅ク守ラル、爲決シテ流會延  
會ナドノ弊ナシト云フ

其ノ矯正ノ方法ヲ聞クニ村會ニハ其開會日毎ニ出頭ノ遲速ニヨリテ札ヲ掛ケ替ヘ且ツ出席簿ニ  
記入シ定刻マデノ出席者ト遅刻シタルモノトノ間ニハ劃然分界ヲ立テタリ又多數集合會即チ組  
合總會ノ時ノ如キハ豫メ其會員數ダケノ番號札ヲ作り置キ出頭ノ順ニヨリ之ヲ出席簿ニ記入シ  
其番號札ヲ渡シ、時刻ニ後レタルモノニハ色ノ異ナリタル番札ヲ渡シ其色札ノ人々ノ爲メニ定  
刻出席者ハ空シク時ヲ費シタリ罪ハ即チ色札者ナリト會合毎ニ宣告スルヲ常トス斯ノ如クニシ  
テ今ハ遲延者ナキニ至レリト云フ

一、諸稅徵收ノ如キハ明治三十八年以後一人ノ滞納者ナシ

一、田百三十三町(外ニ他村地主所有ノモノ十八町九反)

一、畑二十町

一、雜地五百二十三町(山林ヲ含ム)

一、本籍戶數四百九十一戶(現住戶數四百二十五戶)

一、本籍人口二千百六十八人(現住人口千七百六十六人)

一、農業者三百六十戶内自作百二十三戶、小作百四戶、自作小作ヲ兼スルモノ百二十三戶

一、農產物七萬圓

一、畜牛百六十四頭

一、明治四十一年、二年ノ交其苗代撤廢問題起リ爲メニ農事ノ改良發達ハ一頓挫ヲ來シタリシ  
モ本村ハ割合ニ其影響ヲ受ケズ銳意勸奨ノ結果今日ニテハ短冊形苗代稻正條植、鹽水撰種、  
害虫驅除豫防、種苗ノ交換、肥料ノ共同購入等漸次改良ノ實績ヲ舉グ肥料ハ柴草ヲ山ヨリ刈

リ取リ或ハ藁ヲ牛ニ踏マセテ使用ス又製造小屋ヲ山ニ建テ齒菜或ハ小サキ樹ノ枝等ヲ積ミ之ヲ焚キ土ヲ掛ケ燻シテ灰ヲ造ル其ノ混合スル土ハ灰ノ三倍位トシテ冬作ノ肥料トス田小作米ハ上一石五斗、中二石二斗、最下ハ三斗ニ至ル處アリ田ノ賣買價格ハ高キハ反步千圓ニ及フモノアルモ普通四、五百圓ナリト云フ

殖林ハ甚タ盛ニシテ私有林ハ勿論四十四年度末ニハ村基本財産林植樹杉檜合セテ九萬六千本學校基本財産林四千本青年會林亦一萬二千本ヲ植栽セリ

一、副業トシテ山稼ギヲナシ又ハ藁細工繩蓆吹等ヲ造ルモノアリ

一、地主小作人間ハ耕地少キ故極メテ圓滿ナリ

一、大正二年度村歲入出豫算

經常費四千五百六拾壹圓壹錢四厘 臨時費二千四百九拾四圓

合計七千五百六拾壹圓壹錢四厘

一、産業組合ハ無限責任ニシテ明治四十二年九月設立シ信用部ハ同四十三年一月購買部ハ同年五月各事業ヲ開始ス大正元年十二月現在ニヨレバ組合員數三百六十七人出資口數五百三十九口準備金四百參拾七圓特別積立金五百拾九圓貯金參萬五千四百拾四圓購買價格高壹萬八圓剩餘金千五百參拾八圓ナリ

一、村基本財産山林九十八町九反價格貳萬四千七百貳拾五圓積立金千圓ニシテ大正二年度積立額ハ百參拾圓ノ豫定ナリ

一、學校基本財産山林四十二町六反價格貳萬五千圓積立金貳千五百八拾圓ニシテ大正二年度積立額ハ參百拾圓ノ豫定ナリ

一、神社基本財産蓄積ノ爲メ村有林七反ヲ貸附シ植樹セシム其他光乘寺基本財産亦同一方法ニ

依リ明治四十五年三月三十一日村會ニ於テ決議セリ

一、明治二十二、三年頃ヨリ村民ノ外國ニ出稼スルモノ續々増加シ明治四十四年末ニハ米國百〇九人布哇百二十七人英領かなだ二人秘露二人新嘉坡一人合計二百四十一人ニ及ヘリ

出稼人ノ内前年歸國シ學校基本金へ貳拾圓ヲ寄附セシ者アリ之ヲ始メトシ歸國スル者ハ必ズ拾圓又ハ貳拾圓ノ指定寄附ヲナスコト、ナリ寄附シ能ハサルハ意氣地ナキ者ノ如ク各々進メテ多少ノ金圓ヲ寄附ス大正元年中モ此種ノ寄附金百十二圓ニ上レリ

一、又前年國有林ヲ村ニ特賣下附ヲ受ケタル際村ハ何等ノ積立金モ有セザリシヲ以テ村内上流者役場員名譽職村會議員等各百圓余ヲ出金シ之ヲ拂ヒ受ケ學校基本財産トナセリ

一、獎善救療資金ハ特別會計トシテ積立金五百十一圓ヲ有スル外年々一戸ニ付五錢ヅ、出金シ即約金二十一圓五十錢ヅ、ヲ加ヘテ蓄積スルモノナリ其ノ起源ハ明治四十一年十二月頃ヨリ縣費ノ救助ヲ受クル一老婆アリシガ爾后三年許リニシテ死ニ臨ミ遺產十圓余ヲ貧民救助ノ爲メ提供セリ依ツテ之ヲ基金トシテ窮民救護會ヲ組織シ特志家ノ寄附ヲ募ラムト目論見ノ爲メ明治四十四年十一月三日内務大臣ヨリ村へ選獎金五百圓下附アリシニ依リ之ヲ元資トシ前記ノ金額ヲ加ヘ獎善救療資金トシ支出規程ヲ設ケ明治四十五年五月一日ヨリ之ヲ施行スルコト、セリ

一、青年會四十年十二月六日創立會ヲ開ク壯年部九十九人、成年部六十五人、小年部十六人合計百七十九人アリ

### 事業

補習教育夜學會ハ一週二回開會シ出席會員數七十九人出席歩合六八%ニ當ル其他勤儉貯蓄、教育勸語解釋、印刷物配布、巡回文庫開設、村勢調査、講演會開催、公共事業補助、消防具

整備、運動會開催、道標建設、入退營送迎慰問、雜誌購讀發行(以上本部)杉苗圃、基本財産蓄積、會員頼母子、柔道、擊劍、共同斬髮、會館建設、入營者留守宅戰病死者遺族扶助及追弔法會、會員相互扶助、雜誌新聞共同購讀、說教製繩及果樹植附、共同耕作、公共事業補助、夜間警戒

一、佛教青年會明治二十三年九月創立會員百九十九人事業ハ說教開庭ナルモ光乘寺住職ハ布教ノ傍ラ村治ニ貢獻スル處少ナカラズ  
一、選舉ノ都度其惡弊ニ堪エザリシ爲村内上流ノ人々常ニ指導シテ候補者ヲ定メ村民亦之ニ信頼スルヲ以テ他ノ村ニ於ケルガ如キ醜劣ノコナキニ至リ。

意見

村長勤續十七年是大ニ好マシキコナリ國有林ノ拂下ゲラ受ケルニ際シ村内上流者ガ其私財ヲ抛テテ借マズ外國出稼人亦歸國土産トシテ金圓ヲ學校基金ニ寄附スルヲ競ヒ無智貧窶ノ老婆死ニ臨ミテ貧民救助ノ爲メニ其ノ所持金ヲ提供スル等恰モ一波動キテ萬波之ニ應ズルガ如キ觀アリ殊ニ選舉界ノ濁濁セル世態ニ於テ村内上流者ノ指導ニ信頼シテ金錢授受ノコナキニ至リタル如キ一村ノ民風作興ハ其町村上流者ニ大ナル責任アリ偏ニ各村上流資産家ノ反省奮起ヲ望ム

### (七) 廣島縣立職工學校

#### (1) 沿革

明治三十年八月一日事務開始文部省令第二十號徒弟學校規程ニ從ヒ木工科金工科ノ二科ヲ置キ將來木工若クハ金工ノ業ニ從事スルニ適良ナル職工ヲ養成スルヲ以テ目的トシ木工ハ大工及び指物(付挽物彫刻)ノ二科金工科ハ當分板金工ノミトス

明治三十一年四月一日科名ヲ改メ部トシ金工部ニ板金工ノ外更ニ鍛工、鑄工、仕上工ノ三科ヲ加設ス明治三十二年三月二十五日木工部中ノ挽物工彫刻工ヲ獨立セシメ新タニ木型工ヲ置ク三十九年二月本校規則全部改正ヲ行ヒ從來ノ金工木工二部ヲ廢シ新タニ機械、建築、工藝ノ三科トシ且挽物工科ヲ廢シ新タニ器械工、製圖工、塗物工ノ三ツヲ新設シ又仕上工ヲ分テ鑄工、鍛工ノ二ツトシ現今ノ如ク機械科ハ六工分科建築科ハ二工分科工藝科ハ四工分科計三科十二工分科トス同時ニ新タニ別科ヲ置ク

明治四十年三月十四日文部省告示第六十八號ヲ以テ本校ノ組織ヲ變更シ今年四月ヨリ工業學校程度トス、サレド本校教養ノ大綱目タル職工養成ノ趣旨ハ毫モ變改セズ

四十四年三年二十一日縣令第十四號ヲ以テ本校學則ノ一部ヲ改正セラレ電氣工分科ヲ新設ス現今ノ建物ハ明治四十一年ヨリ明治四十四年十一月マデニ繼續建築シタルモノナリ

#### (2) 經費設備

大正元年度經常費三萬千八百七十四圓

内重ナルモノ校長給千二百圓 教員給九千七百九十二圓 職工給六千五百五十七圓 備品費四千二百十圓 實習費六千三百六十九圓 教員一人平均月俸四十八圓

職員 校長一 教諭十二 助教諭一 囑托教師六 師範職工十一 助手職工六

教科

機械科 機械製圖工分科 木型工分科 鑄工分科 鍛工分科 鑿工分科 鑪工分科 電氣工

分科

建築科 建築製圖工分科 大工分科

工藝科 彫刻工分科 指物工分科 板金工分科 塗物工分科

修業年限 本科ハ三年四ヶ月 別科ハ二ケ年以内トス  
現在生徒數

本科二百四十四名 内 機械科百二十七名 建築科六十名 工藝科五十七名  
別科十二名

敷地 一萬七百五十五坪  
建物建坪 三千六百六十五坪

校舍ハ大正元年五月十二日移轉式ヲ舉行セシモノナレバ建物皆新ラシク十三分科アルヲ以テ其種數頗ル多ク物理化學教室、彫刻工場、板金工場、指物工場、工具材料室、圖案教室、塗物工場(附彫刻繪室上塗室)寫真工場、鑿刻柔道室、機械製圖室、鍛工場、鑄工場、鍍工場、鐵工場、瀝靄室、木工機械工場、大工々場、建築製圖室、等アリ木工機械工場ノ二百六十四坪大工々場ノ二百十坪彫刻工場ノ百八十四坪鑄工場ノ百三十五坪等大ナルモノニシテ設備亦頗ル整頓ス上塗室、蒔繪室等ハ疊敷ニシテ室小ナリ且仕事ノ模様ニヨリ晝夜詰メ切ルノ必要アルヲ以テ夜具ヲ設備ス

(3)卒業生、第一回ヨリ第十四回マデ合計五百十五名

内 大工科百六名 鍛工五十一名 仕上工四十八名 鑄工四十六名 板金工四十三名 指物工四十一名 木型工三十七名 鍍工三十四名 鑄工三十名 彫刻工二十七名 機械製圖工二十六名 建圖工十八名 塗物工八名

卒業生就職地方別

廣島市百十名 吳市八十二名 廣島縣(廣島市ヲ除ク)五十一名 死亡四十六名 兵庫縣三十六名 東京市二十九名 大坂市二十三名 岡山縣十八名 米國十八名 京都府十七名 支那十五名 臺灣十二名 朝鮮十名 他十八縣市道四十八名

### 意見

學校職員ハ教諭ニ加フルニ師範職工及助手職工十七名ヲ以テシタルハ能ク職工ヲ養成スルニ適シタルモノト云フベシ生徒心得ノ第三條ニ『生徒ハ工業ノ趣味ヲ解シ常ニ勞働ノ貴重ナルヲ忘ルベカラズ』トアルハ亦此種ノ學校生徒ニ對スル好訓戒ナリト云フベシ殊ニ卒業生ノ約率數ガ縣下ノ實業界ニ活動スルニ至リテハ三萬ノ縣費少キニアラザルモ稍學校ノ光彩ヲ發揮スルニ足ルベキカ

### (丙) 滋賀縣

#### (一) 總說

面積二百六十九方里、四八(内琵琶湖四十四方里、五)

現住戶數十三萬二千戶

現住人口六十九萬五千人

田畑七萬六千三百町

十二郡一市十五町百八十七ヶ村

生産額五千五百五十三萬圓

内重ナルモノ

農産物三千二百三十四萬圓

工産物千五百四十萬圓

林産物二百四十四萬圓

水産物七十五萬圓

大正元年度縣經常費九十萬三千圓

内 教育費二十一萬五千余圓

百分率 二三・八%

縣立學校九 內 師範一、女師範一、中學二、高女二、農二、商業一  
經常費合計二十一萬五千六百六十八圓 生徒數二千七百三十四人 內 中學二經常費合計四萬  
千四十三圓、生徒數八百四十七人

勸業經常費十三萬圓臨時費ト合計二十二萬圓

本縣ノ農產物産額ノ比較的多キハ土壤ノ肥沃ナルニモヨルベシト雖一ハ當局者ノ獎勵誘掖ノ宜  
シキヲ得タル原因タラズハアラズ農事試驗場ハ縣農會ト提携シ縣農會ハ郡農會ヲ督勵シ郡農會  
ハ村農會ヲ指導シ近江米同業組合亦側面ヨリ之ヲ助ケ其活動頗ル見ルベキモノアリ縣下米作地  
ハ一反歩平均収穫二石九升五合ニ當リ最優良ナル滋賀栗太野州ノ地方ニテハ平均二石六斗ニ上  
ル村落少シトセズ之ヲ廣島縣ノ一石六斗六升二合岡山縣ノ一石八斗三升七合ニ比スルニ遙カノ  
上位ニアリ我三重縣ノ一石九斗三升七合ニ較フルモ猶一斗五升八合ノ差アリ而シテ尙益々發展  
ヲ計リツ、アリ

養蠶業ハ北近江ナル東淺井坂田伊香三郡ノ如キ頗ル進歩セルモノアルモ日子ト路程ノ都合トニ  
ヨリ之ヲ視ルコトヲ得ザリシハ遺憾ナリトス

水産物ニツキテハ琵琶湖ハ其四周皆漁村ヲ以テ圍マレ宛然タル一大養殖地ナリ前ノ令尹川島純  
幹氏茲ニ着目スル所アリ明治四十一年度ヨリ十一箇年ノ繼續事業トシテ魚鮭放流ニ殆ソド二十  
萬圓ヲ投シ今ヤ其經營ノ中途ニアリ山脈四周國境ヲ劃セルヲ以テ河流ハ皆琵琶湖ニ注ギ南方一線  
瀬田川ノ縣外ニ流下セントスルモノハ南郷ノ洗堰ヲ以テ其魚道ヲ扼スサレバ稚魚ガ魚族界ノ自  
然淘汰ニヨリ亡失スルモノハ兎ニ角其他ハ一尾ダモ逃竄セシムルナシ大正二年度勸業臨時費ニ  
モ魚族養殖費一萬九千七十八圓ヲ計上セリ實ニ壯快ナル事業ト謂フベシ

(二) 琵琶湖

滋賀縣ヲ知ラントセバ琵琶湖ヲ知ラザルベカラズ此天與ノ一大瀦水ハ其利用如何ニヨリテ大ニ縣  
ノ生産ヲ増殖スベケレバナリ依リテ少ク之ヲ詳説セムトス琵琶湖ハ其ノ面積縣ノ六分ノ一ヲ占メ  
窪然トシテ國ノ中央ニ横ハリ其東側ヲ東近江ト稱シ西側ヲ西近江ト稱ス面積四十四方里五東西  
最大幅五里二十町四十九間(最小幅堅田ト野州川尻トノ間ハ十五町弱)南北長軸十六里九町四十  
五間湖岸線五十九里三十二町(沖ノ島竹生島多景島ノ島地ノ邊線二里二町ヲ合スレバ六十一里  
三十四町)

湖岸ノ土地ハ殆ド沖積層ニシテ浸蝕作用ヲ受クル所ハ島地ノ邊縁ト湖ノ北岸ニ僅少ノ地アルノ  
ミ深度ヲ測ルニ堅田以南ハ凡ベテ三十尺以内ニシテ湖ノ東岸ハ遠淺ノ處多ク傾斜緩ナレドモ西  
岸和邇以北ハ急斜ニシテ岸ヲ離ル、コト十町ナラズシテ深サ二百尺ニ達ス

湖底ニ沈澱セル泥土ハ窒素分ヲ含ムコト普通ノ腐植質土壤ヨリ多ク加里及石灰分ヲ含ムコト亦多量  
ナリ又湖中ニ叢生セル水藻ハ紫雲英ニ比スレバ窒素分ハ少量ナレドモ加里磷酸ノ含量ハ大差ナ  
シ共ニ農家ノ好肥料ニシテ湖邊ノ農家ハ爲メニ金肥ヲ用ヒズシテ其收穫富饒ナリ水藻採取額約  
五萬圓ニ上ルト云フ

本湖ハ湖岸ノ氣温ヲ調節シ交通運輸ノ便ヲ與ヘ五十八種ノ淡水魚(他ニ貝蝦并ニ鼈アリ)ノ漁業  
者ヲ利シ二十八種ノ水藻并ニ泥土ノ農民ヲ利スルアリト雖霖雨連日雨量大ナル場合ニハ戰慄ス  
ベキ慘害ヲ湖岸ニ及ホスコトアリ明治二十九年九月ノ慘憺タル統計ヲ掲グレバ

- 一、湖水ノ平水面ヨリ高キコト九尺九寸八分(二日ヨリ十一日ニ亘ル九日間ノ雨量一千耗餘)
- 一、死亡人員五人
- 一、負傷人員四十三人
- 一、建物流失千九百八十八棟
- 一、建物毀損一萬四千五百四十八棟

一、田被害反別一萬四千九百四十六町九反

一、畑被害反別二千三百四十二町九反

一、其他土地被害反別二千八百九十六町八反

一、橋梁被害延長千六百十間

全縣下耕地ノ約四分ノ一弱ハ其害ヲ受ク驚嘆ニ堪ヘスト云フベシ

然ルニ瀨田川ノ浚深ハ明治三十三年ニ着手セラレ明治三十四年ヨリ明治三十七年ノ交ニ亘リ南郷ノ洗堰完成シ淀川ノ大改修行ハレ人爲ヲ以テ湖水ノ水位ヲ加減スルニ至リテヨリ田畑ノ被害大ニ減少シ住家浸水ノ害ノ如キハ全ク之ヲ免ル、ニ至レリ

湖ノ排水口ハニアリ一ハ瀨田川ニシテ一ハ京都疏水ナリ然ルニ後者ハ僅カニ一秒時間ニ三百立方尺位ノ水ヲ排出スルニ過ギザレバ湖ノ水位ニ影響ヲ及ボスコト極メテ少ク一ヶ月漸ク一寸余ノ水位ヲ低下セシムルニ過ギズ殆ンド論スルニ足ラザルナリ故ニ琵琶湖ノ水位ハ殆ンド瀨田川ノ一川ニ左右セラル、モノナレバ排水ニツイテハ本川ニ大ナル注意ヲ要ス即チ排水量ヲ増大セシカ平時ハ水位ノ低下トナリ湖ノ東岸遠淺ノ所ニ於テハ直チニ汽船發着ノ便ヲ缺キ又ハ京都疏水ノ航運ヲ停止スルニ至リ又一朝豪雨ノ場合ニハ本湖ノ受水區域二百八方里餘ニ降下セル雨水ハ皆本湖ニ集リ直チニ沿岸ヲ浸水スルニ至ルヲ以テ此ノ如キ場合ニハ排水量ノ大ナル上ニモ大ナルヲ要スベシ然レドモ豪雨ノ場合ニ多大ノ水量ヲ流下スルハ湖ノ沿岸ニ於テハ好都合ナルモ下流ノ沿岸ナル京都大坂ノ二府下ニ洪水ノ慘害ヲ蒙ルニ至ル若シ之ニ反シ排水量ヲ非常ニ減少スルハ僅ノ降雨ニテモ湖岸ノ田畑ニ浸水シ沿岸一帶ニ水害ヲ蒙ルニ至ル此ノ如ク本湖排水ノ如何ハ二府一縣ノ利害ニ關スル大ニシテ且其利害ノ相反スルモノアルヲ以テ從來滋賀縣ガ本川ノ浚深ヲ主張スル毎ニ京坂ノ二府ハ常ニ反對セリ茲ニ於テカ政府ハ瀨田川ヲ浚深シテ排水量ヲ増大シ琵琶湖ノ水位ヲ常ニ低位ニ置キ下流淀川ノ大改修ヲ行ヒ二府一縣ノ地方民

ヲシテ相共ニ利益ヲ得セシムルノ目的ヲ於テ一千萬圓ノ經費ヲ投シテ明治二十九年度ヨリ向テ十箇年ノ繼續工事トシ淀川ノ大改修ヲナシ南郷ニ洗堰ヲ設置セリ此洗堰ハ實ニ本湖唯一ノ排水口トシテ本湖ノ水位ヲ支配スル大機關ナリ此洗堰ノ目的ハ平時ハ本湖ノ水位ヲ適度ニ保チテ湖岸住民ノ利益ヲ計リ一朝淀川上流ノ全体ニ亘リ豪雨アリタル場合ニハ一時洗堰ヲ閉鎖シテ下流沿岸ノ水害ヲ除去セントスルニアリ故ニ本湖現今ノ排水ハ自然ノ排水ニ非ズシテ常ニ人工ノ爲メニ手加減セラレツ、アリ即チ降雨期ニハ前以テ排水量ヲ大ニシテ湖ノ水位ヲ減シテ出水ノ場合ノ準備ヲナシ又霖雨ノ爲メ湖岸一帶洪水ノ害ヲ蒙ル場合ニハ排水量ヲ増大シテ減水ヲ計リ又降雨少キ時期ニハ排水ヲ減少シテ水位ヲ保ツニ勉ムル等常ニ手加減ヲ加ヘツ、アリ此等ノ手加減ハ皆琵琶湖沿岸ニ對スル利益ナル手加減ノミナルモ當初洗堰ヲ設置シタル目的ハ既ニ述ベタルガ如ク大坂及京都府下ニ於ケル下流沿岸ノ地方民ニモ利益ヲ與フルノ目的ナルヲ以テ或場合ニハ前記ノ如ク湖岸ニノミ利益ノ手加減ヲ加フルコト能ハザルコトアリ即チ桂川木津川及ヒ本湖ノ受水區域内等淀川ノ上流一帶ニ豪雨アリタル場合ニ於テハ下流堤防ノ危險ヲ防グ爲此洗堰ヲ閉鎖シテ相當下流ノ減水スルニ至ルマテノ間本湖ハ本湖受水區域内ヨリ流入スル水ヲ貯積セザルベカラズ淀川ノ改修ハ明治六年ノ洪水ヲ標準トシテ計畫シタルモノナレバ其レ以上ノ場合ニハ閉鎖セザルベカラズ然レト同年ノ如ク淀川ノ上流全部ニ亘リ當時ノ如キ豪雨アルハ極メテ稀ナルベシ明治二十九年ノ如キハ本湖ノ受水區域内ニ於テハ非常ノ豪雨アリ湖水ハ十八年ノ洪水ニ比シ三尺四寸高カリシモ木津川桂川等ノ方面ニハ左程ノ豪雨ニアラザリシヲ以テ大坂府下ニ於ケル淀川ノ水位ハ十八年ノ水位ヨリハ却ツテ低カリシト云フ故ニ實際ニ於テ本湖ノ排水即チ南郷洗堰ノ閉鎖ヲ要スル如キ場合ハ蓋シ稀ナルベシ明治三十九年一月ヨリ全四十二年十二月ニ至ル三ヶ年間此洗堰ヨリ排水セル水量ハ三ヶ年間ノ平均ニ於テ一秒時間六千九百九十九立方尺ナリ其内最

モ多量ノ排水ヲナシタル場合ハ一萬五千立方尺ヲ流下セシメタルヲアリ又僅カニ二千六百立方尺ノ流下ニ過ギザリシコトアツト雖鬼ニ角平均一秒時間六千九百九十九立方尺ノ排水ヲナシテ本湖ノ水位ヲ相當ニ保ツコトヲ得ヘシテ一方ニ於テ此間ニ於ケル本湖ノ受水區域内ノ降水狀態ヲ調査スルニ既往十五ケ年間ノ平均降水量ト彷彿タルモノナリサレバ本湖ノ平均排水量ハ一秒時間六千立方尺餘ニテ足レリト云ハザルベカラズ

本湖ノ水位ニ就キテハ洗堰設置ノ前後ニ區別シテ説クヲ便トス

明治八年ヨリ三十三年ニ至ル二十六ケ年間毎日朝夕二回ツ、施行シタル水位觀測ノ成績ニヨルルハ各月ノ平均高キモノハ九尺四寸三分ノモノ低キモノハ二寸二分ノモノアリト雖總平均二尺七寸トナル(零点ノ位置ハ大坂天保山沖干満平均潮位点ヨリ二百八十二尺五寸三分六ノ高サニアリ)湖ノ水位ヲ左右スルハ受水區域内ニ於ケル降水量ノ多寡ニ依ルモノナリ今本湖ノ受水區域内テ於ケル降水分布ヲ見ルニ北部及ビ西部ハ多雨ノ地ニシテ一箇年中ノ降水量二千耗以上ニ對シ殊ニ北部ノ山間ニハ三千耗ヲ超ユル所アリ而シテ此等ノ地ハ四期ヲ通シ降水量ニ大差ナシ然ルニ南東部ニ至レバ一箇年ノ降水量ハ千七百耗内外ニシテ四期別ニ見ルルハ夏季ニ於テ年量ノ約四割ノ降水量アリ冬期ハ夏季ノ三分ノ一量ニ過ギザルナリ而シテ又受水區域ノ全部ヲ通ジテ降水量ノ最も少キハ十一月ナリトス故ニ本湖ノ水位ハ十一月ノ寡雨期ノ終リ即十二月ニ於テ最低ニ達シ其後一二ノ兩月ノ降雪期ニ入ルヤ湖北及ビ湖西ニ於ケル降雪ノ大部分ハ皆地上ニ堆積スルガ故ニ別段水位ヲ増加スルコトナク春暖ニ至リ雨ニ逢ヒテ融雪ヲ始メ急ニ水位ヲ増加ス即チ三四月ヨリ五月ニ亘リ大ニ増嵩シ冬期ニ比シ約一尺以上ノ高位ヲ示スニ至ル其後僅カニ減水ヲ始ムルモ須臾ニシテ六月ヨリ七月ニ亘ル梅雨期ニ逢ヒ再ビ増水シ此降雨期ノ終リニ於テ年ノ最高ヲ現ハスニ至ル其後漸次減水シ年ニヨリテハ九月ニ於テ霖雨ニ際會シ増水スルコトアルモ大体ニ於テハ八月

ノ減水ヲ補フニ足ラズ例年九月ノ水位ハ八月ヨリモ低シ此ノ如クニシテ十一月ノ寡雨期ニ入り遂ニ年中ノ最低水位ニ達スルナリ

本湖ノ受水區域ハ湖ノ面積ニ比シ五倍大ニシテ且河川ノ水源地ハ森林ニ乏シク禿山多キガ故ニ水位ノ變化甚ダ大ナリ即チ一朝霖雨ニ逢フトキハ各河川ハ濁水滔々トシテ奔流シ湖水忽チニシテ増水スルヲ以テ古來湖岸ノ町村ニアリテハ洪水ノ爲人畜死傷ヲ生ジ住家ニ船ヲ通スルニ至リタル例少ナカラズ既往一百年間ニ於テハ天保三年明治元年明治二十九年等ノ洪水ハ最も甚シキモノニシテ何レモ一丈二三尺ニ達シタルガ如シ此ノ如キ高水位ハ極メテ特別ノ場合ニシテ其例少シト雖六七尺ノ水位ニ達スルハ敢テ珍ラシカラザルナリ而シテ沿岸低地ノ田畑ハ僅カニ四尺ノ水位ニ達スレバ少ナカラザル浸水反別ヲ生スルニ至ル然ルニ四月ヨリ七月ニ至ル間ニ於テ本湖ノ水位ガ四尺ヲ越ユルコアルハ殆ド毎年ナリ又數日雨ヲ見ザレバ注入スル河川ノ多數ハ涸瀉シ猶旱天打續クキハ湖水ハ漸次減水シ零点以下ニ降り沿岸ニ於テ航通及飲料水等ニ困難ヲ感スニ至ルコトアリ明治二十七年九月ノ減水ハ最も甚シキモノニシテ零点以下六寸五分ニ下レリ明治八年以後三十三年ニ至ル二十六ケ年間ニ於ケル各月ノ最高最低水位ヲ表記セムニ(水位表略ス)高キモノハ二十九年九月ノ一丈二尺三寸五分十八年七月ノ八尺九寸五分二十九年十月ノ八尺六寸六分二十八八月ノ七尺等ニシテ六尺五尺ハ數フルニ違アラズ低キモノハ二十七年九月ノ零点下六寸五分及十月十一月ノ一寸十二月ノ一寸五分明治九年八月ノ五寸明治十六年ノ五寸其他七八寸ノモノハ是亦數フルニ違ナキ程ナリ高低ヲ對照スルニ高低兩極ノ差ハ概チ三尺内外ナルモ稀ニハ其差六七尺ニ達スルコトアリ明治二十九年ノ如キハ一丈一尺餘ノ差アリ又二十六年間ニ於ケル兩極ノ差即チ二十七年九月十一日ノ最低(零点下六寸五分)ト二十九年九月十二日最高(一丈二尺三寸五分)トノ差ハ實ニ一丈三尺ニ達セリ

本湖ノ水位ノ低下ノ爲メニ蒙ル害ハ其増嵩ノ爲メニ蒙ル害ニ比スレバ僅少ニシテ又其回数モ實ニ少ナシトス故ニ湖岸住民ノ常ニ憂慮スル所ハ本湖ノ増水ナリ沿岸ノ田地ハ殆ンド毎年浸水ノ害ヲ蒙ルリ相當ノ收穫ヲ得ルハ三四年ニ一回位ニ過ギザルナリ而シテ平均五六年ニ一回ハ必ズ大水害アリ又三十年ニ一回位ハ更ニ恐ルベキ大水害アリ故ニ勢田川ノ浚渫ヲ行ヒ其排水量ヲ増大シ平時ニ本湖ノ水位ヲ低位ニ置キ一朝霖雨ニ逢フモ如上ノ水害ヲ軽減セシムルハ沿岸住民ノ希望スル所ナリ勢田川ノ排水量増加ハ其下流ナル京坂兩府民ニ對シテハ却ツテ水害ノ増加トナルヲ以テ實ニ忍ブベカラザル苦痛ナリトス故ニ勢田川ノ浚渫ニツイテハ京坂兩府ハ大ニ反對シ滋賀縣トノ間ニ常ニ確執解ケサリシガ明治二十八年ノ帝國議會ニ於テ十箇年繼續事業トシテ勢田川ノ浚渫下流淀川ノ大改修及ビ南郷洗堰ノ設置ヲ議決シタリ此目的小勢田川ノ排水量ヲ大ニシテ湖ノ水位ヲ低下シ淀川ノ改修ヲ行ヒテ其過水量ヲ増大シ若シ明治十八年ノ如ク淀川流域ノ全部ニ亘リ豪雨アリ淀川ノ通水困難ナル場合ニハ洗堰ヲ一時閉鎖シテ下流ノ水害ヲ軽減シ又本湖水位ノ低下其シキ場合ニハ洗堰ノ排水量ヲ減少シテ水位ノ維持ニ勉メ以テ二府一縣ノ利益ヲ計ルニアリ現今ニ於テハ爲メニ湖ノ水位大ニ低下シ年々ノ小水害ハ殆ンド除去セラル、ニ至レリ洗堰設置後即明治三十四年後ニ於ケル本湖ノ水位ハ人爲的ニ移リ其以前ノ水位ニ比シ著シキ差アリ

今明治三十四年ヨリ全四十一年ニ至ル八箇年間各月ノ平均水位(水位表略)ヲ調査スルニ高キモノハ三尺七寸七分ニシテ低キモノハ零点下三寸一分ノモノアリ總平均ハ一尺一寸三分ナリ此レヲ明治三十四年以前ノ水位ト比較スルニ平均一尺五寸七分ノ低位ニアリ此ノ如ク低位ニアルハ決シテ其間ノ雨量少キ爲メノ減水ニアラズシテ全ク勢田川浚渫ノ結果ニ外ナラザルナリ三十六、三十七、三十八ノ三箇年ノ如キハ何レモ平年以上ノ降雨アリタル年ナルニ尙此ノ如キ低位

ニアリ而シテ一ケ年中ニ於ケル變化ノ模様ヲ見ルニ洗堰設置前ノソレニ比スレバ大ナル差異アリ設置前ニアリテハ五月ノ平均水位ガ四月ノ平均水位ニ比シ高キヲ常トシ二十六箇年間平均ニテハ一尺二寸二分ノ高位ニアリ然ルニ設置後ノ平均ニ依レバ五月ノ分却ツテ低ク七寸二分ノ低位ニアリ又十月及十一月ノ水位ヲ比較スルニ洗堰設置前ニ於テハ十一月ハ十月ニ比シ平均六寸二分ノ低位ニアリ然ルニ設置後ハ四寸四分ノ低位ニアルノミナリ此等ノ變化ハ州ニ洗堰ニ於ケル排水ノ手加減ニ存スルナルベシ即チ五月ニ於テ低キハ六七月ノ梅雨期ニ於ケル降水ヲ受クルノ準備トシテ必要ナルベク十一月ニ於テ水位ヲ高キニ置クハ降雪期ニ於ケル水位維持ノ爲必要ナル準備ナラム此ノ如ク手加減ヲナスヲ以テ比較的多クノ降水量アリト雖水位低ク從前ノ如キ洪水ヲ蒙ルルヲナキニ至レリ

明治三十四年以來ノ各年各月ニ於ケル最高低水位ヲ表記スレバ(水位表略)最高キハ三十六年七月ノ四尺八寸五分、四十年九月ノ四尺三寸、四十一年四月ノ三尺六寸ニシテ最低キハ三十五年十二月ノ零点下五寸五分、三十六年九月ノ零点下五寸三分、三十八年六月ノ零点下四寸五分ナリ今最高ノ三十六年七月ノ降水量ヲ調査スルニ此月ハ受水區域全部ニ亘リ四百耗乃至七百耗ノ降量ニシテ平年ノ二三倍ニ達シ同月八日ノ如キハ一日ノ降量二百耗内外ニ達セリ若シ洗堰ノ設置前ニ於テ此ノ如キ降雨ニ際會センカ湖ノ水位ハ約七尺ニ達シタルベシ常ニ水位ヲ低位ニ置キ且降雨期ノ前ニハ降雨ヲ見込ミテ盛ニ排水ヲ爲スヲ以テ豪雨ノ場合ニハ洪水ノ害少シト雖降雨ハ決シテ時期ヲ定メテ規則正シク降ルモノニ非ズ年ニ依リ甚シキ差異アリ故ニ降雨期ヲ豫想シテ一箇月モ以前ヨリ排水ニ着手シ豪雨ノ準備ヲ爲シ若シ其時期ニ至リ降雨少キ時ハ湖ノ水位ハ非常ニ減退シ爲メニ沿岸ニ於テ航通及ビ用水ニ差支ヲ生シ京都疏水ノ如キハ航運止マルニ至ルガ如キヲナキニアラザルベキモ水位ノ低キ爲メニ起レル損害ハ増水ノ爲メニ起ル損害ニ比スレバ

甚々僅少ナルガ故ニ南郷洗堰ノ設置ハ本湖沿岸民ノ爲メニ非常ナル幸福ト云ハザルベカラズ  
 受水區域内ニ豪雨打續クハ各河川ヨリノ流入増加シ水位増嵩シ沿岸田畑ニ浸水スルニ至リ甚  
 シキ時ハ人家ニ浸水スルニ至ルコト敢テ珍ラシカラズ明治三十三年(勢田川浚渫ノ年)以前ニハ田  
 畑ニ多少ノ害ヲ與フルハ殆ンド毎年ニシテ五六年ニ一回位ハ住家ニマデ浸水スル如キ大水アリ  
 三十四年ニ一回ハ實ニ恐ルベキ大水害アリタリ然ルニ勢田川ノ浚渫後ハ其以前ニ比シ本湖ノ水  
 位ハ平均一尺六寸位下位ニアルガ故ニ毎年蒙ムリタル田畑ノ浸水ハ全ク除去セラレ七八年ニ一  
 回住家ニ浸水シタルモノハ漸ク田畑ニ浸水スル位ニ止マルニ至レリ今明治三十三年以前ト以後  
 トノ水害ノ程度ヲ概記スレバ左ノ如シ

(一) 一日若クハ二日間ノ降水量八十耗乃至百五十耗	三十三以前	田畑ニ浸水ス	害ナシ
(二) 引續キ數日間ノ降水量合計百五十耗乃至二百耗	三十三以後	田畑ニ浸水ス	害ナシ
(三) 一日若クハ二日間ノ降水量二百耗乃至三百耗		沿畑ニ浸水ス	害ナシ
(四) 數日間ノ降水量合計二百五十耗乃至三百五十耗		沿岸住家ニ浸水ス	沿岸田畑ニ浸水ス

前記(一)(二)ノ場合ハ殆ンド毎年起ル状態ニシテ(三)(四)ノ場合ハ五六六位ニ一回現ハル、現  
 象ナリ故ニ三十三年以後ニ於テハ本湖沿岸住家ノ浸水ハ殆ンド除去セラレ唯五六六位位ニ一回  
 位ノ割合ニ田畑ニ浸水ノ害ヲ蒙ルノミナリ而シテ三十四年目位ニ一回起ル洪水ハ非常ナル大  
 洪水ナルガ故ニ到底此害ヲ除去スルハ不可能ニシテ唯其程度ヲ幾分低メ得ルニ過キザルベシ此  
 時ニ於ケル受水區域内ノ降水ハ連續シタル一降雨期間ノ降水總量約一千耗内外ニ達スルニ至ル  
 ナリ天保三年、明治元年、明治二十九年等ニ起レル洪水ハ即此種ノモノナリ  
 本湖ノ排水量ハ既ニ述ベタルガ如ク一秒時間ニ於ケル平均排水量六千九百九十九立方尺ニシテ今本

湖ノ水位ガ二尺五寸位ノ高サニアルハ於テ其水ヲ一尺減水セシメントセバ湖水ヘノ降雨モナ  
 ク河川ヨリノ流入モナケレバ平均排水量即テ六千九百九十九立方尺ノ排水ニテ十四日、一八ヲ要シ  
 一萬五千立方尺ノ排水ナレバ五日、七六ニ排水スルヲ得又最少量ノ二千六百立方尺ノ排水ニテ  
 ハ三十日、二七ニ排水スルヲ得ル計算ニシテ即チ一日間ニ水位ヲ一寸減セントスルニハ一秒  
 時間ニ八千六百五十立方尺ノ排水ヲ要スル割合ナルモ實際ニ於テハ各河川ヨリ絶エズ流入シテ  
 止マザルガ故ニ此ノ如ク簡單ニ計算スルコト得ズ而シテ其流入スル量ハ降水ノ多少ニ依ルガ故  
 ニ年々月々相等シカラズ又等シキ降水量アリタル場合ト雖其以前ニ於ケル天氣状態ニ依リ地中  
 ノ水分ノ多寡等ノ爲本湖ニ流入スル割合ヲ異ニス即夏十數日間晴天打續キタル後ニ於テ三十耗  
 ノ至四十耗ノ降水アリタリトスルモ本湖ノ水位ニ影響ヲ認ムルハ實ニ僅カナルモノナリ然レド  
 モ若シ數日前ヨリ降雨アリテ土地充分ニ濕潤セル場合ハ三四十耗ノ降雨モ能ク本湖ノ水位ヲシ  
 テ三寸位ノ増加ヲナサシムルハ從來往々實驗セシ所ナリ而シテ又數日連續シテ大雨ヲ降下スル  
 キハ或時間ノ後ハ殆ンド降雨全部ノ流入シ來ルコト珍ラシカラズ是故ニ受水區域内ノ降水ノ本湖  
 ニ流入スル割合ハ其時々之ヲ異ニスルモノナレバ一々之ガ關係ヲ明ニスルハ不可能ニ屬ス今明  
 治三十一年一月ヨリ全四十二年十二月ニ至ル三ヶ年間平均ニ於テ本湖受水區域内ノ降水量ノ本  
 湖ニ流入セシ割合ヲ算出スルヲ左ノ如シ

A、受水區域内ノ降水量

明治三十九年	二二一、一七〇、五〇三、九六五 立方尺
全 四十年	二二〇、五三六、六一一、六三三 立方尺
全 四十一年	二二九、〇一三、四五八、七七一 立方尺
計	六六〇、七二〇、五七四、三六九 立方尺

B、湖面ヘノ降水量

明治三十九年 全 四十九年 全 四十二年 計

明治三十九年 全 四十年 全 四十一年 計

C、勢田川ノ排水量

一七二、〇八二、八〇〇、〇〇〇 立方尺  
 一一三、〇五七、二一六、〇〇〇 立方尺  
 一九二、八四二、六四〇、〇〇〇 立方尺  
 五七六、九八二、六五六、〇〇〇 立方尺

D、京都疏水ノ排水量

自明治三十九年 三箇年合計 二八、三八二、四〇〇、〇〇〇 立方尺  
 至全 四十一年 三箇年合計 七二九、二二五、四八四 立方尺

E、湖面ヨリノ蒸發量

自明治三十九年 三箇年合計 七二九、二二五、四八四 立方尺  
 至全 四十一年 三箇年合計 七二九、二二五、四八四 立方尺

即チCDE等ハ本湖ヨリ排出セル水量ニシテ此等ノ水ハRノ全部トA中ノ幾分ヨリ來レルモノナルヲ明ナリ故ニ  $C+D+E$  ナル式ニ於テRノ値ハ本湖受水區域内ニ於ケル降水ノ本湖ニ流入シ來ル割合ナリ此計算ニ依レバ、

$$R=0.713$$

ニシテ即チ降水量ノ七割一分ハ本湖ニ注入スルナリ此計算ニ用ヒタル受水區域内ノ降水量ハ大津草津水口土山八幡愛知川彦根長濱中河内竹生島北小松今津ノ十二箇所ノ降水量ト山上木之本

市場ノ三箇所ニ於ケル降水量ノ二倍トヲ加ヘ其レヲ十八分シタルモノヲ以テ本湖受水區域内ノ平均降水量ト見做シ又湖面ヘノ降水量ハ堅田大津八幡彦根長濱竹生島今津北小松ノ八箇所ノ降水量ヲ加ヘテ八分シタルモノヲ以テ湖面ヘノ降水量ト見做シ又蒸發ハ彦根ト竹生島トノ蒸發ヲ平均シタルモノヲ以テ湖面ノ蒸發ト見做シテ計算シ勢田川ノ排水量ハ一秒間六千九百九十九立方尺

京都疏水ノ排水量ハ一秒時間三百立方尺トシテ計算セリ

若シ本湖受水區域内ノ降水ガ總ベテ場合ニ於テ正シク前記ノ割合ヲ以テ流入シ來リ且ツ降水ガ年々規則正シク一定ノ量ヲ有スルモノナラバ洗堰ニ於ケル流量ノ手加減ニ依リ本湖ノ水位ヲ自由ニ支配スルヲ得ルト雖實際ハ決シテ斯ノ如キ規則正シキモノニアラズサレド洗堰ニ於ケル流量ハ正シク量ルヲ得ベク且前記流入量ノ割合ニハ此儘使用シテ正確ナルモノナルガ故ニ此等ノ關係ト受水區域内ノ平均降水量トヨリ起算シテ或程度マデハ本湖ノ水位ヲ調節スルヲ得ルナラム然レトモ降水ハ年々非常ナル差異アルモノニシテ既往十五箇年間ニ於ケル本湖受水區域内ニ於ケル降水状態ヲ見ルニ北部ニ於テ平均一箇年ノ降水量三千耗ニ達スル所アルニ南部ニ於テハ僅カニ千六百耗内外ニ過ギザル所アリ又同一場所ニ於テモ年々歳々大ナル差異アリ今彦根ノ降水ニ就キテ述ベムニ彦根ノ平均降水量ハ千八百耗内外ナルニ或年ニハ三千耗ヲ超ヘタルコトアリ或年ハ千二百耗餘ニ止マリタルコトアリテ其差異ニ平年ノ總量ニ達ス又月別ニテ述ブレバ甲年ニ於ケル月合計ノ量ガ乙年ニ於ケル同月ノ量ノ二十分ノ一ニ達セザルコトアリ故ニ意外ノ大雨ノ爲メ湖水増水シ沿岸ニ害ヲ蒙ル場合モアルベク又豫想ニ反シテ降水少ク非常ノ減水ヲ來シ爲メニ差支ヲ生スル場合モアルハ免レザル所ナリ

以下湖水ノ魚屬ニツキテ猶少ク述ブル所アラムトス、

本湖ハ水質好良ナル淡水湖ニシテ其水温ノ配布ハ適良ニシテ冬期ト雖湖ノ一隅ダモ結水スルヲナク夏期表層温三十度内外ノ時ニ於テモ深層ハ八度内外ノ低温ヲ保ツガ故ニ温水性冷水性両水族ノ棲息ニ適シ實ニ多種類ノ水族生息ス其今日マデニ一般ニ知ラレタルモノ、ミニテモ魚類ニ五十八種爬虫類ニ二種甲殼類ニ數種腹足類及瓣鳃類即貝類ト稱スルモノニ十數種アリサレド重要ナルモノハ魚類ニシテ其他ノモノハ各類ヲ合スルモ其生産額ハ魚類ノ一割ニ達セズ漁獲高ノ重ナルモノヲ擧グレバ

鮒	七萬三千八百九十一圓	鮎	一萬五千六百三圓
鯉	七萬三千三百三十八圓	ワタカ	一萬三千四百四十六圓
鮎	六萬千十四圓	ギ	一萬三千五十圓
水魚	四萬八千三百十三圓	鰯	一萬一千九百四十四圓
鮭(鱒)	四萬六千七百六十二圓	鰻	一萬一千二百六十五圓
鰻	二萬四千九百十圓	鯉貝	一萬九百六十九圓
鰻	二萬三千三百八十七圓	鮎	一萬七百六十三圓
鰻	二萬二十圓	鯉	八千四十圓

等ニシテ他ニ水藻ノ四萬七千八百六十四圓蝦ノ三萬八千五百九十九圓ヲ合セテ總計金五十九萬九千六百三十五圓トナル此レヲ本湖ノ面積四十四方里五即六萬九千二百六町步ニ割充ツルキハ一反歩ニ對シ僅カニ一箇年八十六錢六厘實ニ普通市場ニ於ケル鯉一尾ノ價ニ過ギズ又各種ノ魚類ハ湖ノ全部ニ亘リ棲息スルモノニアラズシテ魚ノ習性ト湖ノ科學的狀態トニヨリ自カラ其棲息セル區域ヲ異ニス即チ鯉鮒わたか等ノ如キハ温水ヲ好ミ鮎鮎等ハ冷水ヲ好ムヲ以テ是等ノ主ナル棲息範圍ハ自ラ水温ニヨリ區別セラルル温水性ノ魚類ハ夏季ハ水面下約七十尺ニ

至ルマデノ間即チ湖ノ表層部ニ於テ棲息シ冷水性ノ魚類ハ主トシテ其レ以上ノ深處ニ於テ活動ス然リト雖秋期ヨリ冬期ニ亘リ水温ノ冷却スルニ從ヒ温水魚族ノ活動範圍漸次減少シ此レニ反シ冷水性ノ魚族ノ活動範圍増加シ秋末ニ至レバ湖ノ全部ヲ通シテ冷水性魚族ノ範圍トナリ温水性ノモノハ遂ニ冬眠ノ狀態ニ入り翌春四月ニ至ルマデノ間ハ全ク蟄伏ス即チ堅田以南ノ湖底及ビ湖ノ東岸ニ偏スル湖底ハ淺クシテ夏季ニ至レバ底湖ト雖水温高キガ故ニ鮎鮎等ノ如キ冷水性ノモノハ夏季ハ此方面ニ棲息スルモノナク主ニ湖西ニ偏スル深底部方面ニ棲息ス又鯉鮒等温水性ノモノハ湖ノ表層ニ於ケル水温高キ部分ニ於テ至ル處ニ棲息スト雖食餌等ノ關係上淺底ノ場所ヲ好ムヲ以テ堅田以南及ビ湖ノ東岸ニ偏スル淺底區域ニ多ク棲息スル等湖ノ科學的狀態ガ各方面ニ於テ異ルニ從ヒ其棲息セル魚類ニ自カラ差異アルナリ

今本湖ニ於ケル既往五箇年間ノ魚類ノ產額ヲ湖南區(約四方里)湖東區(約二十方里)湖西區(約二十方里)ノ三區ニ區分シ百分率ヲ以テ示セバ次ノ如シ

鮒ノ漁獲割合	湖南區	湖東區	湖西區
小鮎全	〇、七%	四八、三%	五一、〇%
鯉全	〇、八%	三〇、三%	六八、九%
鮎全	四〇、二%	五〇、九%	八、九%
鮎全	一六、八%	六一、三%	二一、九%
鮎全	一七、六%	四五、四%	三六、九%

其他(温水性魚類)全 次ギニ漁業ノ狀態ニツキテ述ブレバ

漁業者ノ多クハ唯漁撈ノ方法ヲ精巧ニセシモノニミ焦慮シテ魚類ノ衰亡ニ注意スルモノ少ク甚シキハ魚類ノ無盡藏ヲ妄想シ居ルモノ少ナカラズ抑々魚類ノ如キハ魚類相互間ニ激甚ナル生存競争行ハレ且種々ナル害敵アルヲ以テ多數ノ卵ヲ産スルニ非レバ種類ノ繼續ヲ謀ルヲ能ハザルナリナリナガラ天然ニ於ケル此等ノ生存競争及迫害ハ動物相互ノ數量ニ於ケル權衡ニ基ツクモ

ノナレバ深ク憂慮スルニ足ラザルモ若シ人爲ノ濫獲ニ會フトキハ直チニ魚類ノ衰亡ヲ來スニ至ルモノナレバ大ニ注意セザルベカラズ即チ本湖ノ如キモ維新後ニ於ケル魚族濫獲ノ結果ハ遂ニ魚類ノ減少ヲ來セリ

維新前ニアリテハ由緒アル神社佛閣ノ近傍ニハ殺生禁斷ノ場所ト稱シテ漁業ヲ許ササル禁漁區域アリタリ滋賀郡石山寺々領、膳所町零照院地先、滋賀村園城寺々領、下阪本村延曆寺及ビ滋賀院領、小松村鶴川白髭神社ノ近傍蒲生郡長命寺地先、犬上郡清涼寺地先、東淺井郡竹生島ノ周圍等之レナリ又彦根膳所ノ近傍ニハ藩主ノ漁場トシテ一般ノ漁業ヲ許ササル區域アリ又此時代ハ交通ノ便開ケズ肉食盛ナラズ加フルニ水産製造ノ業極メテ幼稚ナリシヲ以テ魚類ノ販路少キガ故ニ從ツテ漁業ニ從事スルモノ少ク然カノミナラズ當時ハ農業ニ重キヲ置キタルヲ以テ定置漁具ノ如キハ耕地ノ多少ヲ斟酌シテ漁場ニ限定ヲ加ヘ濫リニ之ヲ許サズ又運用漁具ノ如キモ其重ナルモノハ夫々限定シアリタリ此等ノ事柄ハ何レモ魚族保護ノ目的ニハアラサリシモ其結果ハ大ニ魚族ノ蕃殖ヲ助ケタリシナリ然ルニ維新以後ハ殺生禁斷ノ場所ナキニ至リ定置漁具ハ情願ニ依リ新設ヲ許可シ運用漁具ハ自由ニ使用シ得ルニ至リ漁業ノ方法ハ次第ニ進歩シ交通ノ便利ハ消費ノ範圍ヲ擴メ魚類ノ販賣自由ナルニ至リ其結果ハ魚類ノ濫獲トナレリ此ノ如ク漁撈ノ方法ノ自由ニ發達シ魚類ノ蕃殖保護ノ途更ニ講セラレザルガ故ニ魚類ノ自然蕃殖ハ漁業ト相伴ハズシテ次第ニ減少シ維新後僅カニ旬年ナラズシテ明ラカニ魚類ノ減少ヲ認ムルニ至レリ此ニ於テ大ニ蕃殖保護ノ必要ヲ生シ明治十二年七月湖川漁採藻規則及ビ鮎漁遞減法ヲ制定シタルヲ手始メトシ其後種々規則ノ改廢ヲ行ヒ或ハ禁漁場ヲ設ケ以テ消極的ニ魚類ノ蕃殖保護ヲ計リ又一方ニ於テハ積極的方針ニヨリ重要魚類鮎鰻等ノ魚苗放流ヲナシタリト雖世ノ進歩ニ連レ一般魚肉ノ需要ハ益々増加シ運搬ノ至便水産物製造技術ノ進歩ハ需要ノ範圍ヲ擴大シ販路

益々自由ナルニ至リタルヲ以テ漁業者ノ數次第ニ増加シ漁業ノ技術ハ益々進歩シ其方法精巧細密ヲ極メテ遺憾ナキハ勿論甚シキハ保護制度ヲ犯シテ密漁ヲナスモノアルニ至レリ故ニ折角ノ保護蕃殖モ十分ニ其功ヲ見ハスコト能ハズ鮎鮎ヲ除キテ其他ノ魚類ハ尙年ヲ追ヒテ減少シツ、アリ殊ニ鰻ハ淡水ニ於テ産卵スルモノニ非ズシテ生殖期ニ向ヘル親魚ハ河川ヲ傳ヒテ深海ニ下リ其海底ニ於テ産卵孵化シ稚魚ハ河川ヲ沂上シ淡水ニ於テ成長スルモノナルニ本湖ハ勢田川ノ洗堰ヲ以テ魚道ヲ遮斷セラレタルガ故ニ若シ盛ニ鰻苗ヲ放流スルニ非レバ近キ將來ニ於テ本湖ノ鰻ハ全滅スルニ至ルベシ今近江水産組合ノ調査ニ係ル明治二十八年ヨリ全四十年ニ至ル間ニ於ケル漁獲ヲ見ルニ(畧表ヲ掲グ)

次 年	魚 類	鮎	鰻	鯉	鰻	水魚	鮎
明治二十八年	九萬三千八百圓	三十一萬七千三百圓	二萬七千四百圓	四萬二千六百圓	二萬二千四百圓	四 千 圓	二萬九千五百圓
明治三十一年	六萬八千五百圓	十萬八千八百圓	三萬二千二百圓	三萬九千四百圓	一萬九千三百圓	五 千 圓	三萬四百圓
明治三十四年	六萬三千七百圓	十萬二百圓	三萬五千九百圓	二萬六千三百圓	一萬五千六百圓	五 千 圓	二萬五千五百圓
明治三十七年	五萬九千五百圓	九萬六千八百圓	五萬七百圓	一萬四百圓	一萬四百圓	四 千 圓	六萬八千四百圓
明治四十年	五萬八千九百圓	八萬四千九百圓	十二萬四千三百圓	一萬三千圓	一萬七千五百圓	一萬五千九百圓	十二萬二千六百圓

鮎ノ増加ハ放流ノ効果ニシテ鮎ノ減少セザルハ蕃殖力強キニヨル

次ギニ漁業者ノ員數漁船等ニツキ述べムニ  
 漁船數ハ二千四百隻ニシテ專業者千九百十一人副業者四千二百四十三人アリ  
 漁具ハ其重ナルモノト漁獲高トヲ擧グレバ

- 鮎 十七萬四千四百圓
- 小糸網 三萬二千百圓
- 地曳網 八萬五千八百圓
- 流シ釣 一萬二千圓
- 沖曳網 四萬三千四百圓
- 鏡 四萬二千百圓

漁具ノ種類ハ三十有餘アリ何レモ魚ノ性質ヲ利用シ精巧緻密ヲ極ム若シ今後モ從前ノ儘ニテ進  
 マンカ琵琶湖ノ魚族ハ恐ルベキ衰亡ヲ來スベシ

此ニ於テ積極的ニ十一ヶ年繼續ノ鯉鱒鰻ノ魚鱒放流計劃成リ消極的ニハ明治四十一年縣令第十  
 四號ヲ以テ漁業取締規則ヲ及明治四十三年五月縣令第三十三號ヲ以テ魚商人取締規則ヲ定メヌ  
 明治四十五年一月縣令第十四號ヲ以テ漁業取締規則ヲ改正發布シ從來ノ漁具中禁止セラレタル  
 モノアリ又其場所ト使用法トヲ制限セラレタルモノアリ即チ湖面ニ六箇所ノ禁漁區ヲ設ケ魚類  
 ニヨリテ禁漁期ヲ定メ其大サヲ制限シ稚魚ヲ捕獲スルヲ禁スル等大ニ保護蕃殖ノ方法ヲ盡シ將  
 來漁業ノ發展ヲ策スルコトナレリ

魚鱒ノ放流ニツキテハ  
 明治十五年高島郡百瀬村大字知内及全郡本庄村大字北舟木ニ設ケタル私立養魚場ハ明治四十年  
 マデ繼續セラレ毎年數萬ノ鮠苗ヲ放流シ明治三十二年近江水産組合事業トシテ知内并ニ野州郡  
 兵主村大字六條ニ孵化場ヲ經營シタルヨリ以來ハ年々數十萬ヲ放流シ明治三十九年及ビ全四十  
 年ニハ百餘萬ヲ放流セリ其ノ年々ノ放流總數左ノ如シ

知内及ビ北舟木養魚場ノ放流數 百七十九萬七千尾

近江水産組合養魚場ノ放流數 四百二十三萬七千尾

此効果空シカラズ他魚類ハ年々減少シツ、アルニ獨リ鮠(鱒)ノ生産ハ年々増加シツ、アリ  
 鯉苗ノ放流ハ明治二十四年近江水産組合ガ奈良縣郡山ヨリ鯉苗ヲ購入放流シタルヲ嚆矢トシ二  
 十七年マデ續ケシモ一時中絶シ全三十一年同組合ガ犬上郡福滿村大字平田ニ鯉苗ノ孵化場ヲ經  
 營シタリシモ全三十三年縣水産試驗場ノ設置セラル、ヤ擧ゲテ之ヲ寄附シ以來水産試驗場ニ於  
 テ孵化放流ヲ爲セリ其放流數左ノ如シ

水産組合ノ購入放流數 七十四萬四千尾

水産試驗場ノ孵化放流數 四百十二萬七千尾

猶生産額ヲ左右スルコトヲ得ザルモ漁業者ノ言フ處ニヨレバ近年捕獲ノ鯉ハ琵琶湖固有ノモノ追々  
 減少シ大和鯉大ニ増加セリト云フ以テ放流ノ効果空シカラサルヲ知ルベシ

鯉苗ノ放流ニツキテハ  
 明治三十八年ヨリ四十年ニ至ル三ヶ年間ニ近江水産組合ニ於テ七十四萬四千尾ヲ放流シタリ  
 公魚魚苗放流ニツキテハ  
 水産試驗場ニ於テ常陸國霞ヶ浦産ノわかさぎ魚苗ヲ明治四十三年ニ十六萬二千尾全四十四年ニ  
 百四十七萬七千尾ヲ放流セリ十一ヶ年繼續計畫ハ年々鯉苗八百萬鮠苗五百萬鰻苗百萬ヲ放流ス  
 ル豫定ニシテ已ニ三ヶ年間ニ左ノ如ク放流セリ

年次	鯉	鮠(鱒)	鰻	鯉鱒
明治四十二年	五、二七六、四四四尾	五、一六八、〇〇〇尾	二、五二六、六九五尾	二七四、〇〇〇尾

全 四十四年 七、一八一、八五五尾五、四五六、五〇〇尾 一、三三四、一九七尾 二七四、〇〇〇尾  
 全 四十四年 七、一七五、六三七尾五、〇四〇、五〇〇尾 一、三三八、三一六尾 二六五、八〇〇尾

思フニ今後本湖重要魚類ハ著シキ増加ヲ來タスナラム  
 最後ニ琵琶湖ノ交通ニツキテ述ベム

昔年唯帆力ニヨル扁舟ヲ以テ湖上ヲ來往セシ時ハ比良おろし叡山おろし又ハ鹽津口大浦口ト稱スル倏忽吹キ起ル所謂ばら風ト云フ強風ノ爲メニ悲惨ナル話柄ヲ殘スコト屢ナリシモ今ヤ明治十五年四月ノ創立ニシテ資本金三十萬圓ヲ有スル太湖汽船會社ハ大津ヲ起点トシ北伊香郡鹽津高島郡海津トノ間ヲ往復シ東回リハ湖東ヲ西回リハ湖西ヲ航運ス明治四十四年ノ統計ニヨルニ乘客三十九萬人荷物五十四萬個賃金合計十三萬八百十六圓ニシテ汽船ノ乗降ハ皆靜ニヨリシモ近年ニ至リ二三ノ地ヲ除キ棧橋ノ設ケアルニ至レリ

明治十九年十月ニ創立セラレタル湖南汽船會社(資本金三萬五千圓)ハ百噸以下ノ小汽船ヲ以テ本湖南部淺底ノ湖面ニ於テ西岸ハ雄琴以南東岸ハ野州郡吉川以南ト南ハ南郷トノ間ヲ一日數回往復シ近年益々好況ニシテ明治四十四年ニハ乘客八十萬貨物三十四萬個賃金合計八萬千五百八十一圓ニ上レリ  
 其他湖上ニ浮ベル各種ノ小船ハ一萬二千九百艘アリサレバ本湖ハ殆ンド潮汐ノ滿干セサル海面ノ觀アリ

(三) 滋賀縣立水產試驗場

犬上郡福滿村ノ水產試驗場ニ至リ淡水魚ノ幾十種ヲ標本室ニ見ル余等一種ノ鮭トシテ卑ミタリシ鮭モコノ數種アリテ其大サ鮭ハ尺數寸鮭マタ四寸ヲ出ルモノアリ 鯉 鮪ノ肥ヘタル鯉ノ太リタ

ル等其種類多ク鱒ハ同物ニシテ或時期ニハ之ヲ 鮭ト呼ブ等新ラシキ見聞多シ殊ニ米國種河鱒虹鱒ノ二種ハ体ノ鮮ヤカナル味ノ美ナル養殖魚類中ノ白眉ト稱セラル、モノナリ  
 本場大正二年度ノ豫算ハ六千七十一圓ニシテ淡水魚ノ養殖ニツキ諸種ノ試驗ヲ行フヲ以テ其本來ノ事業トナスト雖彼ノ十一ヶ年繼續事業タル琵琶湖魚鉢放流ノ中鯉苗ノ育成ハ當場ニ於テ大規模ノ施設ノ上ニ續行セラレツ、アリ

1、鯉苗ノ養成放流事業

明治四十四年度鯉苗放流豫定數ハ七百五十萬尾ニシテ内百五十萬尾ハ本場ガ民間養殖業者ヲ指導獎勵シテ生産セシメタル魚苗ヲ購入スルコトシ他ハ本場ニ於テ養成セントスルモノニシテ十一年計劃ノ第三回目ナリ  
 親魚ハ大和鯉ニシテ總數三千四百二十六尾ヲ飼養池十七箇(一千百五十坪)ニ分養シ給餌ハ三月二十一日ヨリ始メ生殖素ノ成熟シタルモノヨリ漸次産卵セシムルコト、シ五月四日ヨリ七月二十六日ニ至ル前後三十二回ニ行ヒタリ

前記親魚ヲ(体量總計約千二百七十貫)飼養スルニ要シタル給餌總量ハ蠶蛹千八十五貫七十六匁田螺二千七百五十四貫五百匁ニシテ給餌日數ハ三月二十一日ヨリ十一月六日ニ至ル二百二十四日間ナリ

産卵池ハ叩キ池面積八坪水深二尺ノモノ四個ヲ使用セリ飼養池ヨリ撰ミテ移サレタル親魚ハ大抵其翌朝ヨリ産卵ヲ始メ二日乃至三日ニシテ全ク産卵シ了ル(大抵雌二十雄四十ヲ産卵池ニ移ス)五月四日ヨリ七月二十六日ニ至ル八十四日間ニ前後三十二回ニ採卵ス産卵セシ親魚數雌八百六十四尾之ニ使用セシ雄千八百八十四尾ナリ(殘餘ハ胎卵及精囊ノ發育完全ナラズ遂ニ産卵セズシテ終リタルモノ及ビ池中自然放卵ヲナシタルモノナリ)魚巢ハ専ラ日蔭變ヲ使用シ採卵

總數九千七百八萬二千二百粒ヲ得此中本場鯉卵配付規程ニヨリ管内稻田養鯉者ニ無償配付ヲナシタルモノ一千九百二十八萬粒ナリ其殘卵七千七百七十萬三千三百粒ハ本場孵化池(叩キ池二間ニ一間水深八寸)ニ收容シテ孵化魚兒總數一千二百六十一萬八千尾ヲ得魚兒ハ魚巢撤去後三日乃至十日間其儘飼育シテ取揚ゲ内一千二百四十二萬六千尾ヲ彦根養魚場へ五月十七日ヨリ七月三十一日マデ四十八回ニ搬出放養シ十九萬二千尾ハ試驗魚トシテ本場試驗池ニ放養セリ一回ノ孵化ニ要シタル日數ハ六日乃至十四日ニシテ魚兒搬出後ノ孵化池ハ直チニ洗濯シテ日ニ乾カシ次回ノ卵ヲ收容スベキ準備ヲナシ斯クシテ百四十六ヶ所ノ孵化池ヲ平均四回半ニ使用セリ(一回卵約十萬)魚兒ノ孵化率ハ平均一六・二%ヲ示シタリ前年ニ比シ二・三%ヲ減シタルハ梅雨期中降雨連續シタルニ基因ス

彦根養魚場ハ飼養池二十七箇所面積一萬四千五百七十三坪ナリ一池面積三百四十坪乃至一千坪ニシテ一坪ニ八百五十三尾ノ割合ナリ飼養法ハ前年魚取揚後池ヲ落水シテ冬季間池底ヲ乾涸シ四月ヨリ準備トシテ害敵ヲ驅除シ池底ニ沈堆腐蝕藻類及ビ市中ヨリ流入シタル有機物ヲ分解セシメ餌蟲ヲ繁殖セシメムガ爲池面百坪ニ對シ二俵二分ノ生石灰ヲ撒布ス總量石灰二百四十俵介灰七十八俵ヲ使用シ各池ノ水門ヲ箝シ水ヲ停滯セシメ數日後石灰ノ反應ナキニ至リ施肥ヲ行フ施肥ハ池面一坪ニツキ馬糞一貫百九十八匁ノ割合ニテ總量一萬七千四百五十五貫匁醬油粕ハ二百九十五匁ノ割合ニテ總量四千三百七貫五百匁ノ施肥ヲナシ天然餌料ノ繁殖ニ努メ石灰撒布ハ四月二十七日ヨリ六月十四日ニ終リ施肥ハ五月八日ヨリ七月二十六日ニ亘リシガ餌蟲發生池中ヲ蔽フニ至レリ

放養後五日乃至二十日ニシテ池中ノ天然餌料ヲ食了スルヲ認メ人工餌料トシテ專ラ蠶蛹粉小麥粉麥荒粉ノ三種ヲ給シ常ニ池水ノ調節水藻及萍ノ除去ニ努メ水深五寸乃至二尺トシ五月中放養

シタル一池ニツキ生育ノ調査ヲナシタルニ

五月十七日放養時体長平均四分八厘  
 六月十六日 一寸一分九厘  
 七月十七日 一寸八分六厘  
 七月二十七日 二寸二分

給餌期間六月七日ヨリ十月七日マデ百二十三日間ニ蠶蛹八百七十貫三百二十匁小麥粉百十三貫四百匁麥荒粉六百四十一貫ヲ要セリ飼養期間ハ放養始メ即五月十七日ヨリ取揚終了十月三十一日マデ百六十六日間ナルモ放養ヲ始メタル翌日ヨリ取揚ヲ爲給餌ヲ止メタル十月七日マデヲ計算セバ飼養期間ノ長キモノハ百四十二日短キモノハ六十六日間ニシテ九月一日ヨリ十月三十一日乃至ル四十七回ニ取揚ゲタルニ魚苗体長平均一寸五分体量零匁五分ニシテ總數六百萬九千五百五十五尾ヲ得タリ

又農家ニ配付シタル卵ニシテ農家ノ孵化養成シタルモノヲ獎勵ノ爲左ノ如ク購入シタリ  
 尾數百十四萬八千七百八十二尾  
 價格五千七十七圓三錢 百匁ノ價格(自一寸五分至三寸 二十四錢 自三寸一分至四寸 十六錢)

其他ニ前年度ノ殘魚ヲモ合セ總計七百十七萬六千五百五十六尾ヲ八月二十五日ヨリ十一月一日マデ四十九回ニ本場所屬琵琶湖丸ノ外傭入活州船四隻ヲ使用シテ之ヲ湖水ニ放流シタリ

- 湖南區 二百四十五萬九千七百六十六尾
- 湖東區 四百十萬六千九百五十九尾
- 湖西區 六十萬九千八百九十一尾

2、鱒苗養成放流事業

親魚漁場ハ河川八個所沿湖六箇所採卵場ハ沿湖七ヶ所ニ設ケ共ニ前年ニ同シ十月十九日採卵ヲ始メ十二月六日各採卵場ヲ閉鎖ス

親魚雌六千七百七十六尾雄三千八百二十九尾採卵總數六百七萬五千六百粒ニシテ各採卵場ニテ採卵シタル卵子ハ其當日又ハ翌日知内孵化場ニ收容セリ

採卵ヨリ孵化マデニ要シタル日數ハ二十八日乃至六十七日ニシテ孵化總數五百四十八萬五千四百三十三尾外ニ試驗用トシテ小松養魚場及醒ヶ井養魚場ニ搬出シタル發眼卵九萬粒アリ孵化率前年ニ均シク九〇、%ナリ

仔魚ハ十二月二十六日ヨリ翌年四月一日マデニ全部臍囊ヲ吸了シ漸次浮游スルニ至リタリモノヨリ室外放養池ニ分養シ浮游當時ハ雞卵ノ糞沸セルモノヲ與ヘ漸次蝦粉小麥粉蠶蛹粉ノ三種混合餌料ヲ給シ飼育スルコト三十日乃至六十日間總投餌量雞卵黃三貫百六十五匁混合餌料百六十二貫八百七十五匁ニシテ體長平均一寸五分内外ニ成長セシメ放流セリ放流ハ三月十六日ヨリ始メ四月二十九日ニ至ル合計十回ニシテ五百三十二萬五千七百七十八尾ヲ湖東區へ三百二十五萬尾湖西區へ二百七萬五千七百七十八尾ヲ放流セリ

3、鰻苗放流事業  
魚苗ハ濱名湖渥美灣伊勢海ニ於テ漁獲シタルモノヲ購入セリ體長五寸一分乃至六寸四分ノモノニシテ購入總量千六百十五貫八十匁(百二十三萬八千三百十六尾)ニシテ價格ハ本場受渡シ百貫匁ニツキ平均金八十九圓九錢強ニ當ル購入ハ四月ヨリ六月ニ亘リ放流ハ四月十七日ヨリ六月二十八日マデ十回ニ了レリ

湖南區 二十六萬七千二百三十尾  
湖東區 九十萬三千五百二十尾

湖西區 十六萬七千五百六十六尾  
猶鮎ノ放流ヲナササルハ鮎ハ天然產卵盛ナルモノナレバ放流ノ必要ナシト云フ

4、試驗部事業  
一、鱒池中養殖試驗(小松養魚場)  
二年魚飼育經過  
四十四年九月十七日池面ヲ整理シ現在數百四十二尾ヲ第四號池(水面積三十一坪)ニ放養飼育スルコト二百四日四十五年四月九日取揚調査シタルニ

放養時 尾數百四十二尾 總量十七貫四十匁 平均體長五寸二五 平均體量十二匁  
總餌量 混合餌料(蠶蛹粉干蝦粉小麥粉)五貫五百六十五匁  
取揚時 尾數百三十尾 總量二十九貫匁 平均體長七寸 平均體量三十匁  
一年魚飼育經過

魚苗ハ知内孵化場飼育ニカ、ルモノヲ主トシ四十四年四月二十二日稚魚三萬尾ヲ運搬放養シタルモ爾來地面ノ修理其他通水上不得止故障ニ遭遇シ九月十七日池面ヲ整理シ現在數九百七十九尾ヲ撰別シテ二號池三號池ニ分養シ飼育スルコト二百四日ニシテ四十五年四月九日取揚調査シタルニ

尾數	二號池 面積 百七坪		三號池 面積 百三十坪	
	放	取	放	取
總量	六百九十六尾	六百十四尾	二百八十三尾	二百三十九尾
平均體形	二貫五百五匁 體長二寸八分 體量三匁六分	五貫五百八十七匁 體長五寸三分 體量九匁一分	四貫六十七匁 體長一寸九分 體量一匁七分	二貫三十一匁 體長四寸五分 體量八匁五分
總餌料	混合餌料十七貫二百十二匁		混合餌料五貫五百六十五匁	

共ニ第一號池(水面積百八十坪)ニ放養シ混合飼育スルコト、セリ  
二、米國種河鱒虹鱒養殖試驗

河鱒、虹鱒ノ二種ハ養殖魚類中ノ優良ナル種類ニシテ味ノ美ナル形態ノ鮮麗ナル鱒族中ノ第一トシテ各國ニ賞揚セラル、所ナルヲ以テ該種ノ移殖ヲ行ヒ親魚トシテ養成シ將來山間部ノ湖池養殖魚種トシテ普及ヲ計ランガ爲滋賀縣知事ヨリ農商務省水產局ヲ煩ハシ米國政府ヨリ河鱒發眼卵二萬粒虹鱒發眼卵四萬粒ノ寄贈ヲ受ケ茲ニ該種ノ養殖試驗ヲ行フコトナレリ

(甲)河鱒

發眼卵ハ北米ころらど洲りごうゐる養殖場飼育ニカ、リ二萬粒ヲ長二尺五分巾二尺二分高ナ一尺三分ノ木函一個ニ入レ一月十六日しやとるヲ發シ二月一日午前七時橫濱港ニ到着三日午後五時三十分本場知内孵化場ニ収容シタル孵化槽ハ長十二尺巾一尺八寸深一尺一寸ニシテ孵化盆七枚ヲ用ユ収容時檢卵ノ際精査シタル卵數ハ一萬九千三百八十七粒ニシテ卵ハ徑一分五厘位粒位ニ不同アリ淡紅ヲ帶ベル橙黃色ニシテ粒々濃淡一ナラズ収容後十三日間ニシテ二月十六日孵化ヲ始メ十日間ニシテ大部孵化シ二月二十九日全ク孵化ヲ終ル

(運搬中及ビ孵化槽ニ移ス前後温度ノ調節ニハ非常ノ注意ヲ要スルナリ)

死卵數四百六十六粒孵化數一萬八千九百二拾一尾孵化率九七、五六%ノ良成績ヲ得タリ浮立ヲ始ムルマデニ斃死シタル仔魚ハ四百六十八尾ニシテ四月十日全部臍囊ヲ吸了シ四月十二日ヨリ毎日煮沸セル雞卵一個ヲ投與セリ斃死仔魚累計ハ七百九十一尾ニシテ其欠損ハ孵化數ノ四、一八%ニ當ル魚兒ハ頗ル健全ニシテ七日ノ後平均體長七分五厘體量〇、四四分ニ成長セリ次ノ如ク放養シテ今後ノ成育經過ヲ試驗スルコトセリ

四月十八日本場醒ヶ井養魚場放養 (面積三十坪) 二千九百二十六尾

全 宗谷藤野養魚場委託放養 (面積五十坪) 五千二百十六尾  
全二十五日高島郡西庄村石庭溜池放養 (面積三千坪) 七千五百三十六尾

(乙)虹鱒

發眼卵ハ北米かりふをるにお洲ほらんぶるく養殖場飼育ニ係リ四萬粒ヲ一尺七寸二分四方高ナ一尺六寸九分ノ木函一個ニ納メ四月二十五日桑港出帆五月十三日午前十時神戸港ニ着十四日午後二時三十分本場小松養魚場ニ到着ス

収容セル孵化池ハ長二間巾四尺深六寸ニシテ長五尺巾一尺七寸ノ河水孵化器二個ニ分養セリ卵ハ徑二分以内粒位ニ不同アリ橙黃色ニシテ卵ノ發育狀態ヨリ推測シテ二様ノ卵アルヲ認メタリ収容後五日間ニシテ五月十八日孵化ヲ始メ四日間ニシテ大半孵化シ二十三日全部孵化ヲ終ル死卵數二千四百二十六粒孵化數三萬七千五百七十四尾孵化率九三、九四%ナリ魚兒ハ五月二十八日浮立ヲ始メ六月二日マデニ大半臍囊ヲ吸了シ六月六日ヲ以テ全部浮游スルニ至レリ同日ヨリ煮沸セル雞卵ヲ投與シ六月十日ニ至ル十五日網ニ合計四十六個ヲ使用ス魚兒ハ健全ナルモ容易ニ餌ニ親シミ難ク捕食動作亦本縣種ノ如ク敏活ナラズ多ク水中層以下ニ於テヌルヲ見ル投餌後六月二十日ニ至ル斃死數千四百八尾ニシテ平均體長九分五厘左ノ如ク放養シ今後ノ經過ヲ試驗スルコトトセリ

六月二十二日 琵琶湖放養 一萬七千五百十四尾

同 二十日 小松養魚場四號地放養 (二個面積六十二坪) 一萬六千六百尾

三、三種混養試驗(本邦種鱒、間性鏡鱒、源五郎鱒)

四十二年度ヨリ試驗ヲ繼續シテ其經過ヲ檢シタリ今各種生存發育ノ狀況ヲ記スルバ

魚種	放養時		飼養一箇年		飼養二箇年		飼養三箇年	
	尾數	體量	尾數	體量	尾數	體量	尾數	體量
源五郎(甲)	一九五	五〇	一一二	五一〇	一〇〇	二、四四五	九七	三、三〇〇
鯉(乙)	一四七	五〇	一三九	九〇五	一〇一	一七、一二〇	九〇	二、四七〇
鏡鯉(丙)	一四三	五〇	一〇四	六八六	七五	五、六七〇	六二	八、二五〇

魚種	滿二年經過ノ大サ			滿三年經過ノ大サ		
	最	大	最	最	大	最
甲	七	寸四十一	寸五十二	寸八	寸六	寸十
乙	一尺〇三分	百二十二	寸六寸五分	三十二	寸二分	二百五十七
丙	一尺一寸六分	百七十五	寸七	寸四十三	寸六分	三百三十三

其他流水池集約的養鯉試驗、施肥材料試驗、籠養殖試驗、獨逸種華鯉鏡鯉養殖試驗、鰻養殖試驗、姬鱒移殖試驗、わかさぎ移殖試驗ヲ行ヘリ

縣内養鯉事業稍々發達シ溜池利用養殖ヲ爲スモノ千二百三十六人面積五百二十二町放養數八十九萬七千六百八十八尾收穫數量一萬五千七百七十四貫價格貳萬四千五百貳拾六圓七拾叁錢稻田利用養鯉ヲ爲スモノ四千六百八十五人面積四百五十九町放養數五百三十六萬六千九百四十九尾收穫量百八十三萬五千六十六尾價格壹萬四千八百六拾貳圓ニ達ス

附記

一、明治四十三年四月高島郡知内殿田川ニ始メテ霞ヶ浦産わかさぎ魚苗ヲ放流シタルニ四十四年三月滋賀郡堅田町地先ニテ漁獲セラレタルモノアリ又四十四年四月孵化放流セル仔魚四十

五年三月ニ至リ放流地点ヲ去ル約十二里餘ノ堅田町地先及湖東野州川地先ノ贊臥ニテ時々漁獲セラレ又吉川沖ニ於テ小糸網テニ漁獲セラレタルモノハ長サ四寸九分五分五ノモノナリシト云フ

一、琵琶湖ニ放流セルモノハ恰カモ庫中ノ財産ノ如シ之レ勢田川下流洗堰ニテ一方口ナル魚道ヲ止メ他ノ湖水ニ流入スル河川ハ其上流皆縣内ニ限ラル、ニ依ル

一、鯉苗無償配付ハ前年ヨリナシ來リタルモノ今ヤ縣下ニテ鯉苗養成ニ着手セルモノ五十五箇所鯉兒ノ孵化ノ養殖ニ從事スルモノ九十二箇所親魚數雌千四百十八尾雄二千六十九尾ヲ飼養スルニ至リタレバ四十四年度ヨリ之ヲ廢止セリ

一、淡水魚養殖講習會ヲ開クコト六回講習生六十名ニ上リ是等ノ者ハ率先シテ活動スルヲ以テ將來稻田養鯉業ノ如キハ益々發達ノ傾向アリ

一、稻田植付後十日位ヲ經テ五分乃至八分位ノ鯉仔ヲ放養セバ之レカ爲メニ除草一回位ハ省クコトヲ得ベシ水ノ乏シキ地方ニ於テハ水汲ミニモ養鯉ノ目的アルヲ以テ一層努力心ヲ生シ從ツテ用水ヲ欠乏セシムルコトナク稻ノ爲メニモ好都合ニシテ一千尾乃至三千尾位ハ飼養スルコトヲ得ベシ七分止リトスルモ參圓乃至八圓位ノ利益ヲ得ラルト云フ

一、縣下ノ十六河川中平時河水アルモノハ僅カニ四川ナレバ河川ノ放流養殖ハ有望ナラズ一、紫雲英ノあくハ魚族ノ大毒ニシテ明治四十四年附近耕地ヨリ場内ニ流レ込ミ多數ノ鯉魚ヲ斃死セシメ流水池集約的養鯉試驗ニ大失敗ヲ蒙リシコトアリト云フ

一、鮎ノ食用ニ適當ナルハ百五六十尾位ノ五百尾位ノモノニシテ川魚ハ肉締リ養殖魚ハ肉柔ラカナリサレド養殖魚ハ脂肪多ケレバ味良キ筈ナルモ養殖魚ノ味ニハ所謂癖ヲ有スルヲ以テ普通川魚ノ方人ノ嗜好ニ適スルガ如シ

滋賀縣ノ漁業ハ其地勢上特殊ノモノナレドモ淡水魚ノ養殖ハ移シテ以テ我縣農家ノ副業トナ  
 スコトヲ得ム殊ニ山間ノ事業トシテハ淡水魚養殖ハ一考ノ價値アルベシト信ス已ニ名賀郡矢  
 持村ニ鱒養殖試験池ヲ設ケラレシハ大ニ機宜ニ適セルモノナラム滋賀水産試験場ガ米國種ノ  
 鱒獨逸種ノ鯉ヲ取り寄セ其移殖ヲ謀リ三種混養試験ヲ行フ等其成績ハ將來採リテ以テ參考ニ  
 資スベキモノアラントス

(四) 野州郡兵主村自治状態

琵琶湖東ハ沃野多シ即チ縣陸地面積ノ約二十五%ヲ有スル沖積層地ノ大部分ハ愛知川日野川野  
 州川ノ灌漑ニアリ兵主村ハ野州川日野川ニ挾マレタル湖岸ノ一村落ナリ

- 一、戸數六六三
- 一、現住人口三千五百四十四(本籍人口三千八百三十一)
- 一、田四百四町九反
- 一、畑七十六町
- 一、山林二十町四反
- 一、原野十五町六反
- 一、池沼二十八町二反
- 一、農業者五百五十戸
- 一、大正二年度經費豫算壹萬九百貳拾貳圓貳拾參錢七厘
- 一、副業
- 養蠶ニ従事スルモノ 男四百三十七人 女五百十五人

春蠶百九十八戸 收購額百七十五石  
 夏蠶百五十戸 收購百三十四石  
 桑園二十五町九反

漁業專業者ハ二三人ニシテ(縦百二十間横六十間縦百八十間横九十間ノ畝ヲ有ス)副業者ハ五  
 十六人アリ

漁獲物ノ重ナルモノハ

鮒貳千七百拾八圓 鰻七百圓 鯉五百五拾五圓 鮎貳百八拾六圓 鱒貳百八拾四圓ナリ

一、米作上ノ狀況

米ノ收穫ハ良キ所ハ八俵以上ノモノ少ナカラズ是全ク土性ノ肥ヘタル爲ナラム肥料ノ主トシ  
 テ用キラル、ハ堆肥ニシテ紫雲英ヲ蒔キ付ケ又湖水ノ泥土水藻ヲ採取シテ用ユ水藻ノ採收ハ  
 八萬九千七百貫ニ上リ價格七百拾八圓井口六條ノ二大字ヲ除キ他ノ五大字ニテ小船五百艘ヲ  
 所有ス小船ノ六十二輛ト比較スレバ其採藻水運ノ盛ナルコトヲ知ルベシ全肥ハ鮮粕ヲ幾分用  
 ユ又深耕ヲ獎勵シ六寸内外ニ及ブ二回ズキニシテ福岡犁鋤ヲ用キ畜牛ハ八十頭余ナルモ漸次  
 増加ノ傾キアリ又各部落ニ共同苗代アリ大ナルモノハ一町一反歩ニ及ブ共同苗代申込臺帳ヲ  
 備ヘ作附一反歩ニ對シ巾四尺長サ二間二分五厘ノ苗代ヲ充ツ其費用ハ作付一反歩ニツキ玄米  
 七合ツ、ヲ出サシメ苗代跡地宛テ米トヲ合セテ之ヲ支辨シ若シ殘餘アレバ苗代組ノ積立トス  
 稻種ハ眞力善光寺壽渡船(眞力ニ似タル大粒ノモノナリ京都市場ノ氣受宜シ)挿秧ハ片正條長  
 方形ニシテ五十六株余ナリ

一、富ノ分配

稍々均衡ヲ得タリ最多ク田ヲ有スルモノ十町内外以下十數人ヲ除ケバ他ハ二町ヨリ一町内外

ヲ有スルモノ頗ル多ク是等ハ皆手堅キ自作農ナリ小作農ト雖全ク一步ノ地所ヲモ有セザルモノハ少數ナリ地主ト小作人トノ間ハ極メテ圓滑ニシテ昨年ノ凶作ノ如キモ小作人ヨリハ何等ノ申出デナク地主ノ意思ニヨリ相當ノ部引ヲナセリ田ノ價格一反四、五百圓ニシテ最近賣買セラレタルモノハ一反二畝ニテ九百圓以上ノモノアリタリ

一、村治教育民風作興等ニ關係アル諸種ノ會

(1) 初集會

毎年一月ニハ村長校長等各大字ヲ巡回シテ村治上教育上勸業上ノ講話ヲナス

(2) 兵主四恩會

村內各寺院住職ヲ以テ組織セル布教上ノ會ナレドモ村役場職員學校職員各大字區長區長代理者ヲ名譽會員トシ相提携シテ大ニ村治ヲ助ケ教育勸業衛生等ノ上ニ貢獻スル處少ナカラズ會長石原惠照外二三氏ノ如キハ自ラ進ミテ郡縣ノ衛生講習會或ハ憲法講習會ナドニ出席シ宗教家ニハ綠遠キ智識マデモ收得シ村內凡ベテノ會ニモ出席講話ヲナシ大ニ村民ノ指導ニ盡瘁スル處アリ會員三田了善今岡信岳師ノ如キ屢々演壇ニ立テテ會合ノ村民ヲ感動セシメ頗ル活動的ノ會ナリ試ミニ四恩會日誌ニツキテ之ヲ見ルニ其講演ノ題目普通說教師ト趣ヲ異ニセリ

一等國民ノ資格 (石原惠照)

佛教ノ衛生學

(同 上)

信用組合ト信仰心 (今岡信岳)

濟生會ノ主意

(三田了善)

現下衛生方法 (今岡信岳)

現代ニ於ケル青年思想 (望月我來)

等アリ現ニ石原會長ハ大字野田ノ諸頭ヒデ(明治三十四年九月十日生)ト云ヘル不良孤兒ヲ四十二年八月ヨリ收容シ手續ヲ履ミテ自宅教授ヲナシツ、アリ望月我來師マタ孤兒ヲ養ヒ

居タルコトアリ猶四恩會感化救濟規程第十一條ニヨリ之ヲ村內篤志家ニ依頼シテ養育スル場合アリ一時ハ之ニヨリ養育セララル、モノ三人アリタリ村ノ慈惠家ハ今後孤兒ナラバ引受ケムト申シ込ミヲナスモノ數人アリ孰レモ慈善ヲ競フ風ナリト云フ

(參照)

兵主四恩會規則

第一條 本會ヲ兵主四恩會ト稱シ事務所ヲ村役場ニ置ク

第二條 本會ハ皇化ヲ翼賛シ佛教ノ眞義ヲ發揚スルヲ以テ目的トス

第三條 本會ノ目的ヲ達セム爲左ノ方法ヲ設ク

- 一 時々法筵ヲ開設シ前條ノ趣旨ニ基キ教理ヲ敷演スルモノトス
- 一 毎年一會知名ノ師ヲ聘シテ大會ヲ開クコト
- 一 本會ハ本村行政教育勸業等ノ機關並ニ村內各團體ヲ通シ地方自治ニ對シ一致ノ方法ヲトルコト

第四條 本會ハ時代ノ要求ニ應ジ目的ヲ遂行スルニ必要ナル事業ヲ企圖スルコト但シ其程度顧問並ニ會員一般ノ協議ヲ要ス

第五條 本會ノ會員ヲ分チ正會員名譽會員贊助員ノ三種トス

- 一 名譽會員ハ役場員學校職員區長並ニ代理者村會議員等ノ公職ニアルモノ
  - 一 贊助員ハ本會ノ趣旨ヲ贊助セラル、名望家ヲ乞フモノトス
  - 一 正會員ハ村內各大字寺院ノ住職ヲ以テシ本會ハ入會スルノ義務アルモノトス
- 但シ正會員ハ會費トシテ毎月金拾錢ツ、ヲ出スモノトス

第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 會長一名 顧問一名 幹事一名 會計係一名
- 一 會長及幹事ハ正會員中互選トス但任期四箇年トス
  - 一 會長ハ本會ノ事務ヲ總理ス幹事ハ會長ノ事務ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其任ヲ代理ス
  - 一 顧問ハ兵主村長ニ囑托ス
  - 一 顧問ハ本會ノ諮問ニ應答シ且本村諸機關團體ト連絡ヲ圖ルモノトス
  - 一 會計係ハ兵主村收入役ニ囑托ス
  - 一 會計係ハ本會出納一切ノ事務ヲ處理ス

## 附則

第七條 本則ノ改廢ハ會員十分ノ七以上ノ同意ヲ得ルニ非レバナスコトヲ得ズ

## 兵主四恩會感化救濟規程

- 一、本會ハ兵主村内ニ不良少年及孤兒ノ現出シタル時感化救濟ヲナシ他ノ保護救濟ヲ仰カシメザル事ニ努ムルモノトス
- 二、村内居住少年ニシテ不良少年ト認ムル行爲アルコトヲ聞知シタルトキハ直チニ會長ニ報告スルモノトス
- 三、會長前項ノ報告ニ接シタル時ハ直ニ其家庭ヲ訪問シ不良行爲惡癖家庭教育狀態及職業周圍境遇其他凡ベテノ方面ニツキ詳細調査ヲ爲シ之ガ感化ヲ會員中適當者ニ囑托スルモノトス
- 四、小年不良行爲重大ニシテ警察署ニ引致セラレタル場合ハ法律命令ニ抵觸セザル限リ本

但シ不良少年小學校生徒ナルトキハ學校長ノ意見ヲ聞キ相當ノ措置ヲナモノトス

會ハ保證ノ任ニ當リ引受感化ヲ申請スルモノトス

- 五、感化ノ囑托ヲ受ケタル會員ハ誠心誠意之ガ感化ヲ擔任シ十日毎ニ其成績ヲ會長ニ報告スルモノトス

但感化方法ハ會長及家庭主ニ協議ヲナスモノトス

- 六、感化至難ニシテ其効果表ハレザルトキハ特ニ總會ヲ開キ決定ノ方法ニヨリ感化ヲナスモノトス

- 七、會員ニシテ正當ノ理由ナクシテ感化囑托ヲ拒絕スルコトヲ得ザルモノトス

- 八、村内居住ノ孤兒アルコト聞知シタルトキハ直チニ會長ニ報告スルモノトス

- 九、前項ノ報告ニ接シタルトキハ會長直チニ其居所ニ出張シ本籍年齢及原因其他扶養義務者ノ有無等詳細調査ノ上ニ時會長ノ許ニ收容スルモノトス

- 一〇、一時孤兒ヲ收容シアルトキハ直チニ總會ヲ開キ左ノ方法ニヨリ之ガ救濟ヲナスモノトス

- 1、孤兒ニ對シ扶養ヲナシ得ベキ資格アル義務者ヲ發見シタルトキハ之ニ相當ノ訓戒ヲナシ孤兒ヲ引渡シ會員中適當者ニ監督ヲ囑托ス

- 2、孤兒ヲ扶養義務者ニ引渡シ其監督ヲ囑托セラレタル會員ハ時々其情況ヲ會長ニ報告シ會長ハ時々義務者ノ家庭ヲ訪問スルモノトス

- 3、孤兒ガ棄兒ナルトキハ村役場警察署ニ報告シ相當ノ措置ヲ乞フモノトス

- 一、扶養義務者ヲ發見セザル孤兒ハ會員或ハ篤志家ニ之ガ慈善養育ヲ依頼スルモノトス但シ孤兒ノ義務教育ヲ完了セシムルニ要スル學費ハ本會ヨリ支出スルモノトス

- 二、孤兒救濟ニ要スル經費ノ補填ヲ計ル爲村内外各大字ニ慈善團ヲ設置シ有志者ノ金品投

入ラ乞フモノトス

一三、慈善函開閉ハ當該大字區長ノ立會ヲ求メ毎月一回之ヲ行フ  
一四、篤志家ヨリ特別ノ方法ヲ以テ金品ノ寄贈アリタルトキハ役員會協議ノ上孤兒ニ之ヲ分配スルモノトス

一五、慈善函ニ投入セラレタル金品ハ役員會ノ協議ニヨリ慈善養育者ニ贈呈ス

一六、養育者ノ善行表彰且感謝ハ左ノ方法ニヨル

1、學齡ニ達セザル孤兒ヲ囑托シタルトキハ一箇年金五圓ヲ養育謝義トシテ贈呈ス

2、七歳以上十歳未滿ノ孤兒ヲ囑托シタル時ハ一箇年金壹圓ヲ養育謝義トシテ贈呈ス

一七、滿十歳以上ノ孤兒ハ養育者ヨリ相當職業ヲ授ケ賃金ヲ得セシムルモノトス

一八、前項ノ賃金ハ孤兒ノ所得トシ養育者ヨリ貯蓄セシム

但シ精算ハ會長之ニ當ル

一九、孤兒獨立ノ生計ヲ營ニ至リタルトキハ總會ニ於テ之ヲ報告スルモノトス、

(四恩會ノ設立ハ古キモ右規程ハ明治四十二年一月二十日成立セシモノナリ)

#### 施療施藥規程

一、本村現住者ニシテ疾病ニ罹リ貧困ノ爲メ醫師ノ療藥ヲ得難キモノニ對シ施療施藥ヲ爲スモノトス

二、疾病者又ハ其親族知己ヨリ施療藥ノ申出アリタルトキハ貧困ノ狀況ヲ調査シ正當ト認メタルトキハ本會ノ名ヲ以テ醫師ノ治療ヲ乞フモノトス

三、其ニ要スル診察料藥價ハ本會ヨリ支辨スルモノトス

(明治四十三年十月十五日成立)

#### (3) 兵主村戸主會

本會ハ明治四十一年九月十三日成立ス本會ノ外各種ノ會ニツキテハ必ズ村内ノ七大字ハ村ノ支部ノ形チヲナシ區長ハ小村長ノ如クナリテ活動ス

(參照)

#### 兵主村戸主會規則

一、戸主會ノ目的ハ教育勸語ノ御趣旨ヲ遵守シ本村自治ヲ扶翼シ其完全發達ヲ企圖スルニアリ

二、戸主會ハ凡テ本村長ノ統督ニ屬スルモノトス

三、戸主會ハ各大字區ヲ一團トス

四、本籍ト寄留ヲ問ハズ一戸ヲ構フル現住戸主ハ凡テ會員トス

五、役員ハ會長一名幹事若干ヲ置キ會長ハ區長又ハ代理者ヲ推戴シ幹事ハ協議員之ニ當ル

モノトス

六、役員ハ凡ベテ名譽職トス

七、會長ハ會務一切ヲ整理シ幹事ハ周旋ノ任ニ當リ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

八、戸主會ニ於テ是認シタル事柄ハ各戸必ズ實行ヲ誓フモノトス

九、開會ハ隨時必要ニ應シ之ヲナスモノトス

一〇、戸主會ニ於テ行フ事業左ノ如シ

(イ) 教育ニ關スル件

(ロ) 勸業ニ關スル件

(ハ) 兵役納稅ニ關スル件

(ニ)風紀衛生ニ關スル件

(ホ)節儉勤勞ニ關スル件

(ハ)慈善ニ關スル件

(ト)土木水利其他警備ニ關スル件

(チ)祭典及神佛事ニ關スル件

(リ)青年會處女會ニ關スル件

(ヌ)行政諸廳ノ獎勵事項其他必要ナル件

一、戶主會ニ於テハ各家族ヲ集合セシメ有益ナル談話會ヲ開ク

一二、戶主會ニハ相當ノ記錄簿ヲ存シ會員名及開會毎ニ協定シタル事項其他實行シタル事業ヲ記錄ス

業ヲ記錄ス

一三、經費ハ凡ベテ其區ノ負擔トス

一四、會計決算ハ會員ニ報告スルモノトス

一五、戶主會ノ事業狀況ハ毎年郡長ニ報告スルモノトス

(4)兵主青年團

舊來本村各大字ニ若衆組ト云フモノアリ其大字ノ青年ハ十四五歳ニ至レバ必ず之ニ加入シ互ニ品行ヲ慎ミ公共ノ事ニ盡力スルコトトナリ居タリシモ徒ラニ舊習ニ拘泥シテ時勢ト共ニ推移スルヲ知ラズ弊害百出折角新教育ヲ受ケタル小學校ノ卒業生モ一度之ニ加入スルヤ直テニ其弊風ヲ感染シ墮落スルモノ多キハ慨カハシキコトナルヲ以テ明治四十一年九月九日此等各大字ニアル青年集團ヲ統一シテ兵主青年團ヲ組織シ以テ本村青年ノ智徳ヲ増進シ社會ノ進運ニ伴ヒテ向上發展セシメンコトヲ計レリ

其兵主青年團規程、夜學會規程、兵主青年團農產物品評會規程、兵主青年團貯蓄會規約等ノ成文ハ省略シ其狀況ヲ略述セムニ

一、會員約百名

一、評議員二十二名(大字各青年社正副社長及ビ各大字區長)

事業實施方法經費豫算決算其他ノ事項ヲ議スルモノトス

一、九、十、十一ノ三箇月間壯丁講習會ヲ開キ入營準備ノ修養ヲナス

一、毎年九月十日ヨリ翌年三月二十五日マデ毎週月火木金ノ四曜日ニ夜學會ヲ開ク

一、毎年縣郡ノ講習ニハ必ず團員ノ一部出席ス

一、毎月一回即一日ニハ談話會ヲ開ク此時ニハ四恩會員學校職員村長等ノ出席講話アリ

一、毎年一回總會ヲ開キ相當ノ人ヲ聘シテ修養上實業上ノ講話ヲ聽聞ス

一、試作田一反五畝歩ヲ置キ農事ノ實習ヲナス

一、毎年一回農產物品評會ヲ開キ團員二十歳以上ニシテ農業ニ從フモノハ出品ノ義務アルモノトシ品質優良ノモノニ授賞シ出品物ハ競賣シテ餘金ヲ基本金ニ積立ツルモノトス

一、貯蓄規約第四條ニ左ノ規定アリ

本團員ハ左ノ各項ヲ嚴守スルモノトス

1、奢侈ヲ戒メ宴飲ノ冗費ヲ節スルコト

2、從來慣行ノ休暇日ヲ廢スルコト

3、時間ヲ重シ就業及ビ集會等ノ時刻ヲ守ルベキコト

(本項ニツキ果シテ時間ノ勵行セラルルヤ否ヤヲ質問セシニ若シ時間ヲ確守セザルモノアルトキハ父兄又ハ親族ヲ呼び寄セ嚴戒ヲナスヲ例トス此レニヨリ凡ベテノ

會合ハ其成績良好ナリト)

- 4、品行ヲ慎ミ風紀ノ矯正ニ勉ムルコト
- 5、生業ノ改良發達ヲ計リ副業ノ研究ニカムベキコト
- 6、毎月一回金拾錢以上ヲ世話係ニ差出スベキコト

(5) 兵主村縫裁教師會

女子教育ヲ忽諸ニスルハ由來農村ノ通弊ナリ當村ノ如キモ女子教育ヲ輕視シ子女漸ク義務教育ヲ終ルヤ直チニ家庭ニ於テ農業ニ從事セシメ唯農閑ノ期ニ際シ私設裁縫場ニ通ヒテ裁縫ノ一事ヲ修メシメ是ヲ以テ女子ノ教育ハ全ク足レリトナセリ又私設裁縫教師中ニハ時ニ誘惑的ニ裁縫ノ必要ヲ說キ學校教育ヲ中傷阻害スルモノアリ此弊ヲ矯正シ小學校ト私設裁縫場トノ意思疎通ヲ計リ併セテ處女ノ修養訓育ヲナシ女子教育ノ大切ナルコトヲ一般父兄ニ知得セシメンガ爲メニ本會ヲ創立ス

(參照)

兵主村裁縫教師會規定

- 一、本會ハ兵主村裁縫教師會ト稱シ兵主小學校ヲ會場ト定ム
- 二、本會ハ兵主村内裁縫教師ヲ會員トシ小學校教員其他ノ名望家ヲ請ヒテ賛助員トス
- 三、本會ハ裁縫教授上ノ打合せヲ爲シ兼ネテ本村處女ノ風紀改善ヲ計ルヲ以テ目的トス
- 四、本會ハ其目的ヲ達センガ爲メ左ノ事項ヲ實行ス
  - (1) 毎月一回開會シテ裁縫教授上ノ打合ヲナシ處女ノ風紀改善ノ方法ヲ講究スルコト
  - (2) 講師ヲ聘シテ女子修養上ノ講話ヲ請ヒ各裁縫場ノ針子ニ聽講セシムルコト
  - (3) 會長各裁縫場ヲ巡視シテ針子ノ風紀ヲ監督スルコト

(4) 其他本會ノ目的ヲ遂行スルニ適當ナル事項

(5) 本會ハ左ノ役員ヲ置キ會務ヲ整理ス

- 一 會長 一人 當分 賛助員中ヨリ推選ノコト
- 二 副會長 一人 同上
- 三 幹事 二人 會員中ヨリ會長指名ノコト

(明治四十一年十一月八日成立)

別ニ同年十一月二十七日成立セル處女會アリ村内十四歳以上二十五歳以下ノ處女ヲ以テ組織シ其事業ハ裁縫教師會ノ指導監督ヲ受ケ役員モ亦同會ノ役員ヲ推戴スルコトトス  
 二箇月ニ一回講話會ヲ開ク(裁縫教師會ト連合シテ)京都家庭新聞記者某ヲ聘シテ屢々其講話ヲ聽キ其他四恩會役員村長小學校職員等ノ講話會ヲ開クコト數十度ニシテ私設裁縫場所謂おはりやノ弊風ヲ除去シ大ニ處女ノ修養ニ資スル處アリ父兄モ稍々覺醒シ將來大ニ有望ナリト云フ

(6) 兵主村大字野田翁組規程

敬神尊老ノ主意ニヨリ各大字ニ老人會ヲ設ケ村長之ヲ監督セリ上記ノモノハ其中ノ一ナリ

兵主村大字野田翁組ハ往古ヨリノモノニシテ創立年月詳カナラズ要スルニ敬神老壽ノ主意ニヨリ組織セラレ氏神ニ係ル行事其他諸種ノ古禮式ヲ保存スルノ任務ヲ有ストノ言傳ヘアリサレド時勢ノ進展ト共ニ改善進歩ヲ計ラサルベカラサルヲ以テ古キ定メニ準據シ左ノ規程ヲ設ク(明治四十三年三月二十三日改訂)

- 一、大字野田現住男子ノ高齡者五人ヲ以テ組織ス

- 二、組員死亡其他ノ理由ニヨリ居住ヲ離レタルトキハ七日以内ニ區長ノ紹介ヲ得テ組入レヲナスモノトス
- 三、新ニ組入ヲナスモノハ組入披露宴ヲ開キ組員一同ヲ招待スルモノトス
- 四、組入披露宴ハ當人資力分度ニ相當スルヲ要ス
- 五、氏子安全豊熟祈年ノ爲左ノ定日ニ氏神ニ參拜神饌献備ヲナス
  - 一 毎年一月元日ヨリ三日間日出時刻
  - 一 毎年春秋二回其他祭日 正午
  - 一 毎月一日十五日 午前八時
- 六、氏神境内ノ清潔ヲ保存スル爲參拜ノ當日境内全部ノ掃除ヲナシ神饌直會ノ宴ヲ開キ親睦ヲ暖ムルコト
- 七、三大節ニハ校長或ハ村長ノ紹介ヲ得テ拜賀式ニ參列スルモノトス
- 八、神事神饌幣帛献備方ハ組員ニ順次當番ヲ定メ凡ベテ献立ヲナシ献備スルモノトス
- 九、大字ニ於テ家庭不和其他故障アリタルトキハ需メニ應シ仲裁ヲナスコト
- 一〇、組内ノ家庭ニ不和ヲ生シタルトキハ請否ニ拘ハラズ仲裁ヲナスコト
- 一一、組員ハ尤モ睦クナシ一般ノ模範ヲ示スコト
- 一二、組員ニシテ病氣其他災厄ニ罹リタルトキハ相當見舞物ヲ持參シ訪問慰藉スルコト
- 一三、組員死亡シタルトキハ香料トシテ金貳拾錢ヲ贈リ會葬スルコト
- 一四、組内ノ任務ニ係ル立チ働キハ新入組員ノ義務トス
- 一五、組内ニ要スル費用ハ區長ヨリ養老米トシテ收受スル範圍ヲ限度トス

附則

- 一、組入披露献立標準
  - 膳部 燒物 壺 平 中置 汁 吸物 茶碗蒸 菓子椀 皿盛 硯蓋 臺引 酒 飯 菓子
  - 一、式順
  - 高齡者ヨリ順次着席
  - 式挨拶 高齡者
  - 答挨拶 新組入者
  - 膳部挨拶 右親族
- 余等ハ此會ニツキ質問シタルニ次ギノ答ヲ得タリ
- (い)規程第二ノ新組入ハ全ク年齢順ニヨルカ或ハ其人格ヲモ斟酌スルカ或ハ年齢人格ヲ折衷シテ區長ノ推薦的紹介ニヨルカ
- 答 全ク年齢順ニヨリ區長ヨリ新組入者ニ通知ス
- (ろ)同上第三ノ組入披露宴ノ如キモノハ假令献立ハ略々定マレルモ世ノ常トシテ追々奢リニ流レ易キモノナルガサル憂ヒハナキカ
- 答 古風保存ノ爲決シテ奢侈ニ流ル、ヲ許サズ
- (は)同上第九ノ紛擾仲裁ノ如キコトハ組員若シ人格標準ノ推薦ニナレルモノナラバ兎ニ角只高齡ト云フバカリノ老翁ニテ果シテ調停ヲ爲シ得ルヤ
- 答 勿論老翁ニ仲裁ノ依頼アルモノ少シサレド翁ノ言ハ一般ガ天ノ命ノ如ク思ヒ之ニ從フ習ヒナリ若シ仲裁ニ應セサルモノアルトキハ村民ヨリ人非人ノ謗リヲ受ケ社會ヨリ疎外セラル、ヲ以テ之ニ背クモノナシ數年前隣家ノ間柄ニ宅地境界ノ争ヒアリ翁組ヨリ

仲裁ヲナシタルニ一言ノ下ニ和解ヒタリ近來ハ仲裁ヲ要スヘキ紛擾事件ナキヲ以テ其例ヲ舉クルコト能ハズ

(ニ)同上第十五ノ養老米ハ目今幾何程ナルカ

答 大字ニヨリテ多少相違スレドモ大字野田ハ一箇年玄米五俵ナリトス

(ハ)各大字ノ翁組ヲ連合シタル一村ノ耆老會ノ如キモノアリヤアラバ其狀況如何

答 大字毎ニ設ケアル組々ノミニテ村ニハナシ然レドモ村ニ於テ式日或ハ祭日ニハ各大字ノ翁組ヲ招待シ之ニ參列セシメ優遇スルコトアリ又當村施設ノ諸團體ハ時ニ之ヲ招請シテ其會合ニ參列セシメ現代ノ活動振リヲ參觀セシメ之ヲ慰藉スルコトアリ

(ヘ)規定以外ニ翁組ガ或ハ其德望ヲ以テ或ハ其發意ニヨリテ村治ニ貢獻スルコトアリヤ

答 翁組ガ村治ニ貢獻スルガ如キコトハ仲裁事件ノ外ニナシ

(ニ)翁組ノ存在ハ往古ヨリノコトナラムガ如何ナル動機ニヨリテ明治四十三年三月規程ヲ改訂セラレシカ古來ヨリノ由緒如何

答 各大字ニ各一或ハ二三ノ無格社アリ舊來翁組ガ其守役タリシナリ然ルニ數多ノ無格社ヲ一村社ニ合祀シタルヲ以テ守リ役ハ不要トナリタレバ更ニ翁組ヲ組織シタルナリ全ク敬神尊老ノ思想ヲ涵養スル趣旨ニ外ナラズ古來ノ口碑ハアレドモ別段ノ價值ナシ規程ハ古來不文ノ慣行ヲ幾分修正シテ成文トナシタルニ過キズト

他ニ兵主村社交一致改良會ナルアリ該會ハ奢侈ヲ戒メ各自度ヲ守リ質素儉約ヲ心掛クベキ規約アリ、兵主村貯蓄會ハ金穀蓄積ノ規約アリ其他兵主村二十二日貯金會ハ月給取リノ貯蓄規定ヲ設ケテ積金セルモノニシテ右等ハ多ク四五年来ノ創立ニカ、ルモノナリ又有志ノ青年ガ村内ノ藏書家ニ乞ヒテ書籍ノ寄贈ヲ受ケ有ヤ家ノ助力ヲ仰キテ明治三十三年四月設立シタル兵主

書籍館アリ兵主尋常小學校ノ一室ヲ以テ之ニ充ツ今ヤ藏書三千余冊大正二年度ニ於テ村費ヨリ拾圓ノ補助アリ閱覽人ハ平均一日二人位ナルモ祭日休日等ニハ頗ル多シ書籍借受ハ三十日以内見料一日壹厘ノ割ナルモ一時ニ見料五拾錢ヲ豫納スレバ其年度内ノ書籍借受ヲ自由トス又各大字ニ便利ノ爲本年ヨリ分館ヲ設クルコトトセリト以上ハ司書久松縫三氏ノ談ニシテ同氏ハ兵主小學校ニ教鞭ヲ執ルコト三十年以上ナリト云フ  
又村落娛樂ノ弊害ト其必要トノ兩面ヲ認ムルガ故ニ明治四十四年九月左ノ規程ヲ作り之ヲ善用シツツアリ

兵主村集團的娛樂規程

農村ニ於テ集團的娛樂ノ必要缺クベザルモノタルハ宗教家教育家將タ政治家等ノ齊ク首肯スル所タリト雖其種類ノ選擇ト方法ノ如何ニ就キテハ大ニ注意ヲ要スベキハ勿論ナリ依之自今本村ニ於テハ左ノ規程ヲ設ケ其弊害ナカラシメンコトヲ期ス

第一條 村長ハ斯道ニ於ケル經驗ニ富ミ且信用アルモノ一人ヲ舉ゲ其一切ノ取締ヲ委囑ス

第二條 村役場ヲ經由スベキ觀セ物興行ハ毎年二回ヲ限リトス

一 一時二件以上申出ルモノアル時ハ抽籤ヲ用ユ

一 納稅義務ヲ怠リタル者ノ興行願ハ受附ケザルコト

第三條 興行ノ季節ハ一月一日ヨリ四月十五日マデ一回十月一日ヨリ十一月三十日マデ一回

トス但申込期限ハ前季ハ十二月二十五日マデ後季ハ九月三十日マデトス

第四條 興行期日ハ一興行三日ヲ超過スルヲ得ズ

但雨天順延ハ差支ナシ

第五條 本村若クハ附近ノ村落ニ於テ傳染病發生蔓延ノ虞アルトキハ堅ク制止スルコトアル

第六條 水災旱魃等農産物ニ甚シキ減收アル時ハ前條ニ同シ

第七條 興行ヲ爲サムトスルモノハ明治二十二年四月縣令第五十六號劇場寄席取締規則同年

四月縣令第五十七號觀セ物取締規則ノ外猶左ノ各項ヲ嚴守スベシ  
一 時間ハ午後一時ヨリ同十一時マテノ間トス

二 構内ニ酒肴賣店ヲ設ケザルコト

三 最負花札物品ヲ配布セザルコト

四 觀セ物場ハ人家ヨリ直徑二町以上ヲ離レタル處ニ設クルコト

五 場内ニ於テ泥酔喧嘩又ハ不潔ノ行爲ヲナシ他ノ障害トナルモノアルトキハ拒絕退場セ  
シムルコト

六 興行時間中差支ヘザル場合ニ於テ農村改良ニ關スル講話ヲナスコトアルベシ

第八條 棧敷場代木戸錢ハ願出許可ノ通リトシ入口ニ詳細榜示スベシ

附則

一 本規程ハ明治四十四年九月十五日ヨリ施行ス

一 社寺ニ關スル祭典祝ヒノ餘興ニナス無錢興行類ハ本規程ニ準ズト雖第二條ノ回数ニ算セ  
ズ

一 本規程ノ改訂ハ其必要ニ應シ之ヲ爲ス

一 猶兵主村近年ノ大工事タリシ大字野田立會堰埭開門ハ勢田川浚渫淀川改修ノ結果琵琶湖ノ水  
位三尺以上モ低クマリシニヨリ耕地灌漑ノ便ヲ失シ内湖航運困難トナリ村内ノ利益ニ大打撃  
ヲ受クルヲ以テ内湖ト外湖トノ咽喉ニ關門ヲ設ケ内湖ノ水位ヲ保タントノ計劃ナリシガ當時

異論囂々タリサレド當事者ハ斷乎タル決心ヲ以テ明治三十九年三月十日假工事ニ着手シ同四  
十二年六月二十日本工事竣工費約一萬貳百圓ヲ要シタルモ農事開墾養蠶水産航運等ノ利益  
ヲ計上スルトキハ一ケ年約壹萬八千六百圓ノ利益ヲ得ルコト、ナリ稀有ノ大成功ナリト云フ

意見

本村々治中注目スベキハ宗教家ノ村治ニカヲ添ユルコトニシテコハ大ニ望マシキコトナリ農  
村ノ治績ヲ舉ゲムトセバ如何ナル伎倆アル人ナリトモ村長一人ノ力ニハ其仕事餘リニ重大ナ  
リ小學校長村寺ノ住職村社ノ社掌村醫ナドノ助力ヲ得バ事大ニ成シ易カラム唯是等ノ人々ノ  
人格如何ニヨリ其効果ヲトスベキナリ次ギニ裁縫教師會ノ如キハ矯風ノ方法ヲ好處ニ着ケタ  
ルモノニシテ大ニ參考トスベキ價値アルベシ翁組ノ如キモ故ラニ設クルニハ一考ヲ要スト雖  
舊慣アラバ漫リニ打破セズシテ「利不百則不變法」ノ古語ニ思ヲ致スベキナリ尙老亦是民風作  
興上ノ一美事ナレバナリ

(五) 野州郡小津村自治狀態

一、村ハ七ヶ大字ヨリ成リ維新前ハ各六領主ニ分屬セリ

一、田三百七十八町 畑二十五町 山林四反

一、戸數四百九十二戸 人口二千七百七十一人

一、農業者四百十五戸

自作農百十戸 自作兼小作百九十戸 小作農百十五戸

一、大地主二十町步所有者二人七町一人他ハ大ニ下リ一町内外ノ所有者多數ナリ

一、副業ハ純農村ナレバ殆んどナシ

一、畜牛二百十頭ナリサレド稚牛ヲ買入レ之ヲ飼育肥滿セシメ又稚牛ト賣リ換ヘテ利益ヲ獲

ル慣行アリ爲メニ耕鋤力ニ影響ヲ及ボスヲ以テ規約ヲ設ケテ或ル年限ヲ經ルマデハ賣リ換ヘ  
テ禁シタル爲今ハ平均六寸位ヲ維持セリ耕起ハ目今三寸五分位ナレバ標準ヲ五寸トシテ十ヶ  
年間ニ徐々之ヲ到達スル考ヘナリト云フ

苗代ハ四十年來益々整ヒ七ヶ大字各一箇所ノ共同苗代ヲ有ス

肥料モ共同購入トシ跡地ハ共同作トシ立毛ヲ競賣ニ附シ其利益ヲ以テ費用ニ充ツ若シ不足セ  
バ作附別割トシ剩餘アレバ組合ノ積金トス

稻作ノ肥料ハ大津ノ人糞尿琵琶湖ノ探藻揚泥及ビ堆肥ニシテ金肥ヲ用ユルコトハ少量ナリ鯉  
肥料過グレバ稻ノ葉先白ク枯ル、ヲ以テカ、ル田ヘハ石灰ヲ四五俵用ユ收穫ハ平均一反ニツ  
キニ石四斗餘小作米ハ一石四斗賣買格價普通田ニテ四百圓ナリ麥ノ收穫ハ一石三斗ヨリ二石  
マデトス

一、大正二年度歲入出豫算ハ經常費八千八百八拾九圓八拾五錢四厘臨時費三百貳圓五拾五錢合  
計九千九百九拾貳圓四拾錢四厘

内 圖書館ニ百參圓ヲ計上ス

一、村農會豫算高ハ七百八拾五圓五拾八錢九厘ニシテ技術員ハ農學校ノ卒業生ヲ採用シ月俸貳  
拾壹圓ヲ支給ス是村長以上ノ俸額ナリ而シテ事業費ト獎勵費ニ於テ約貳百圓ヲ計上ス

一、道路委員三名アリ村内道路ヲ保護ス又水利委員三名アリ用排水一切ノコトヲ保護監督ス  
コ、ニ特記スベキハ本村米作増収ニ關スル十年計劃ニシテ殆ソド全力ヲ之ニ傾注ス各種ノ會ノ  
成立セルモノ多ク此計劃ヲ中心トセリ左ニ之ヲ略記セムトス

米作改良増殖ニ關スル計劃法

米ハ本村物産中首位ヲ占メ最近ノ平年産額ハ八千五百一十一石ニシテ一石ノ市價拾參圓ト假定セ

バ拾萬五千九百六拾參圓ノ巨額ニ達シ村内各種物産ノ價格拾貳萬五千七百九圓ノ(重要産物米  
菜種麥)八割四分ニ相當ス亦以テ米作ガ如何ニ本村産業界ニ重キヲ爲ヌヲ知ルニ足ルベシ之ガ  
改良増殖ニ關シ從來各種ノ方法ヲ講シ百方獎勵ヲ加ヘツ、アルモノ即其消長ガ直チニ村ノ盛衰  
ニ繁ルモノアレバナリ然リト雖土地ノ生産力ハ

(一)地積ニ限リアルト

(二)地質上ノ養分ニモ限リアリ

(三)作物ノ被害ハ廣汎ニシテ類繁ナルト

(四)耕作ガ他ノ事業ノ如ク分業的ニ大規模ノ施行ニ適セズ

自然ニ一定ノ限度アリテ無限ノ發展ハ之ヲ望ミ得ベカラザル所ナルモ米作ノ現状ハアラユル改  
良ノ方法ヲ實施シ最早増収ノ餘地ナキ極度ニ達シタリト云フニ非ズ尙幾多ノ改良ヲ施スベキ餘  
地ノ存スルアルヲ以テ茲ニ米作改良増収十年計劃ヲ確立シ其所期ノ目的ニ到達センコトヲ圖ラ  
ントス

計 劃

本縣ニ於ケル米ノ最近平年一反歩收穫高ハ平均二石九升五合ニシテ縣ハ今後十ヶ年ヲ期シ之ヲ  
平均二石五斗ニ上サントスルノ計劃ナリト聞ク本村ハ一般ニ土壤肥沃ニシテ縣下ノ中以上ニ位  
シ既ニ現今ニ於テモ一反歩ノ平年收穫高ハ平均二石四斗餘ニシテ殆ソド縣ノ増収計劃ノ平均額  
ニ近キ收穫ヲ得ツ、アルヲ以テヨリ以上ノ増収ヲ期シ其改良ヲ計ラザルベカラズ故ニ本村ハ明  
治四十四年ヨリ十ヶ年ヲ期シ以下各項ノ實行ニヨリテ一反歩平年收穫高ヲ平均二石七斗以上ニ  
上サントス

實行方法

(1) 品種ノ改良

品種ハ左ノモノヲ選擇スベキコト

早生真力	中生真力	晚生真力
渡船	關取	善光寺

四十三年ノ作付ヲ調査スレバ前記ノ品種ヲ栽培セル反別二百二十六町九反八畝十六歩其他ノ品種ヲ栽培セルモノ百五十一町三反二畝二十五歩ノ割合ナリ

(2) 苗代改良

(一) 穗撰法實行及原種田ノ設置

(二) 鹽水撰

(三) 浸種H數ノ改良

本村ハ四十四年ヨリ苗代組合ニ於テ十日以内ニ限定スルコト

(四) 播種量ノ改良

苗代一坪小粒ハ五合乃至六合大粒ハ六合乃至七合

(五) 害虫驅除

苗代時代ニ充分之ヲ實行ス

(3) 本田

本村婦人農會ハ小學生ヲ督勵シ之ヲ行フハ勿論一方共同苗代組合自動的ニ實行スベシ

(一) 肥料ノ配合表改良

肥料ハ其作物ニ適應スル如ク三要素ノ配合ヲ恰好ナラシメ施肥セザレバ管ニ肥料經濟ヲ損スルノミニ止マラズ收穫上ニ影響スルモノナレバ本村農會ハ本縣農事試驗場若クハ本郡農

會農場ニ於ケル試驗ノ結果ヲ各耕作者ニ周知セシムルノ方法ヲ講ズルト共ニ一面本村各地ノ土壤調査ヲ左記年次別表ノ通り施行シ以テ之レニヨリ施肥セシムトス

土壤調査ハ百六十八ヶ所ニツキ行フコト(別表略ス)  
肥料配合試驗計劃年次別表略ス  
備考

土壤分析試驗ヲ行ヒタル個所ハ翌年度ヨリ毎年本試驗ヲ繼續實施ス

試驗未了ノ個所ハ便宜土質ノ近似セル既了地ノ成績ヲ考察シテ配合ヲ行ハシム

(二) 堆肥ノ製造

農家ノ經濟ヲ順調ナラシメ而カモ施肥量ヲ充分ニシ地力ノ減耗ヲ防ガンニハ勢ヒ堆肥ノ製造ヲ盛ニシ可及的金肥ノ使用ヲ避ケザルヘカラズ故ニ明治四十四年ヨリ十ヶ年ヲ期シ本村内各農家(耕作地約一町歩以上ノ農家)悉ク堆肥舎ヲ建設セシメ之ヲ製造セシムルコト普及方法

本村農會ニ於テ別ニ規程ヲ設ケ堆肥舎建設一ヶ所ニ金參圓ノ補助金ヲ給シ且ツ從來開設シタル堆肥品評會ヲ繼續シテ之ヲ獎勵スルコト

(三) 深耕法實行

本村ハ近來牛馬耕ノ普及セルト共ニ漸ク淺耕ニ流ル、ノ傾キアリテ地力ノ減耗ヲ促進シツ、アルノ感ナシトセズ故ニ今後十ヶ年ヲ期シ耕鋤ノ深度ヲ四寸乃至四寸五分以上ニ達セシメムトス即チ實行年次別表(略ス)ニヨリ漸次目的ノ深度ニ達セシメ以テ地力ノ増進ヲ計ル方針ナリ現ニ行ヒツ、アル深耕獎勵品評會ヲ繼續實行シテ極力獎勵ニ勉ムルコト

(四) 正條植實行

稻ノ正條植ハ空氣ノ流通ト日光ノ透射ヲ充分ナラシメ肥料ノ吸收面積ヲ同一ナラシムルト除草其他作業上利スル所少ナカラズ就中縱橫正條ニアリテハ株間ノ距離一定シ徒ラニ空地ヲ有スルコトナキヲ以テ之ヨリ生スル利益モ亦確カニ少ナカラザルヲ信ズ故ニ今後縱ハ繩ヲ用ヒテ正條植トシ横ハ繩ヲ用キズ熟練ノ効果ヲ待テ年限内ニ縱橫正條植ヲ完全ナラシムルコト

(五) 打稻廢止ノ件

打稻ハ脱粒ノ際飛散シテ損失ニ歸スルモノ少シトセズ加之品質ノ如何ヲ顧ミズ直チニ脱粒ノ難易ニヨリ其種類ヲ定ムル弊アリ然リト雖之ガ全部廢止ノ目的ヲ達スルハ只ニ至難ニ屬スルノミナラズ其利益如何ニ於テ疑ヒナキ能ハザルヲ以テ二三ケ年間之ガ可否ヲ講究シ可トスレバ相當ノ規約ヲ制定シテ全部廢止スルノ計劃ヲ立テムトス

(打稻ハ我縣ニテハ多ク見ザル作業ニシテ稻束ヲ両手ニ把持シテ穀打臺ノ上ニ穗部ヲ打チツクルコト四回乃至八回以テ粃粒ヲ脱落セシムルナリ稻扱法ニ比シ利トスル所ハ未明早朝又ハ点火後ト雖之ヲ行フヲ得ベシ。操作簡易ニシテ技巧ヲ要セズ且業程早シ。やたト種スル不脱粒穗ヲ生スルコト少シ。刈取后直チニ行フコトヲ得ベシ其不利トスル所ハ脱粒シ難キ品種ハ假令良品種ナリト雖之ヲ栽培スル能ハザルコト。米粒ニ擊打ヲ與フル爲腹裂ヲ來スコト。粃粒飛散シテ損失ニ歸スルモノ少ナカラズ)

(六) 除草其他管理周到ノ獎勵

除草其他ノ管理ノ行届クト否トハ收穫上多大ノ影響ヲ來スモノナレバ除草ノ周到畦草ノ刈取稗及白穗ノ拔取リ其他害虫ノ驅除灌漑排水ノ鹽梅施肥ノ配合其他管理ノ綿密周到ナラムコトヲ獎勵スル目的ヲ以テ從來開設セル米作立毛品評會ヲ尙繼續シテ之レガ實行ヲ努ムル

コト

(4) 農業技術員ノ設置

肥料ノ配合其他農事改良上實地指導ノ爲大正元年度ヨリ技術員ヲ設置スルコト

(5) 農事講習會ノ開設

農事ノ改良ハ農民ノ教育ト相待チテ之ヲ行ハザルベカラズ故ニ本村農會ニ於テ開設シツ、アル短期農事講習會ヲ繼續開設シ青年者ニ農事智識ノ普及ヲ計リ尙郡農會ニ於テ講習會ヲ開催セラシタルトキハ本村ヨリ每會三名以上入會セシメテ之ガ養成ヲ計ラムトス

(6) 農事講習生ノ團結

農事講習卒業生ヲ以テ農友會ヲ組織シ農事研究改良事業ノ率先實行ノ任ニ當ラシメ農事改良ノ中心タラシムルコト

(7) 婦人農會ノ設立

農家ノ婦女子ハ農事改良上ノ感念ニ乏シク内助ノ効ヲ奏スル能ハザルノミナラズ稍モスレバ一家ノ主宰者ニ於テ實行セムトスル改良ノ事業モ往々其婦女子ノ爲メニ之ガ實行ヲ妨ゲラル、コト少シトセズ故ニ婚女子ニ農業上ノ新知識ヲ注入シ農事改良ノ觀念ヲ惹起セシムル爲婦人農會ヲ組織スルコトヲ必要ト認メ明治四十四年ニ於テ之ヲ設立シ一面宗教家ニ講話ヲ乞ヒ其修養ニ資スルコト

(8) 原種田品評會ノ開設

原種田ノ進歩ヲ計ル爲四十四年度ヨリ毎年品評會ヲ開設シテ其優劣ヲ批評シ啓發指導ヲ爲スコト

但郡農會其他ニ於テ本品評會開催セラレタル場合ハ之ヲ行ハズ

(9) 産業組合ノ發展

既設ノ産業組合ノ擴張發展ヲ計リ中産以下ノ農業者保護ノ實ヲ舉グルコト  
(10) 小作者ノ保護

既設ノ本村貯蓄兼小作者獎勵組合ノ發展ヲ圖リ産業組合ノ恩惠ニ浴スルヲ得ザルモノニ對シ肥料及ヒ農具購入ノ資金貸附并ニ篤農者ノ表彰等併セテ地主小作者間ノ親密ヲ計ルコト  
(11) 統計調査ノコト

確實ナル諸統計ニヨリテ村ノ現勢ヲ知ルハ農家ニ於テモ農業ノ經營上最モ必要ナル所ニシテ特ニ農事ニ關スル統計ハ其必要一層切ナリトス故ニ本村ハ統計委員ト共ニ村内適當ノモノ若干名ヲ選定シテ實地ノ調査ニ從ハシメ毎年其統計ヲ發表シテ農家參考ニ資スルコト  
但本年ハ本計劃ノ基礎調査トシテ可及の精細ニ調査ヲ爲サントス

(12) 現地講話

農業智識ノ普及發達ヲ計ル爲講習會講話會ヲ開設スルト共ニ實地ニ就キ之ガ應用ヲ示シ作業上必要ナル事項ヲ指導スルハ亦尤モ有利ナルヲ認ムルニヨリ現地ニ當業者ヲ集メ縣若クハ郡ノ技術員ノ出張ヲ請ヒ現地講話ヲナスコト

以上ヲ着々實行スルニハ其事業者層ヲ作成シ置ク必要アリ即チ小津村十年計畫年中行事ノ制定セラル、アリ左ノ如シ

一月

實行委員打合會(本年度ニ屬スル計畫事業ノ打合ヲナス)

俵米品評會審査

園藝作物品評會(農友會ノ事業トシ主トシテ蔬菜ヲ蒐集品評ス)

二月

農友會總會

麻堆肥品評會審査

三月

農事講習會(婦人農會ノ事業トス)

貯蓄組合懇話會

四月

春蠶獎勵(蠶種無償配付 巡回指導 桑苗無償配付 栽培法指導)

麻堆肥倉ノ建設獎勵(補助金交附材料共同購入)

深耕并農產物品評會審査

共同苗代打合會

鹽水撲滅行(用鹽共同購入器具貸附實行指導)

各冬作物病害虫驅除豫防(麥穗拔取病莖刈除)

畦畔木新芽刈取勵行

五月

苗代害虫驅除勵行(器具備付 石油共同購入 螟卵螟蛾買上 燈火誘殺施行 浮塵子驅除)

畜牛家禽品評會審査

深耕獎勵其他品評會

麻堆肥審査

農事功勞者表彰

六月

桑園及生繭品評會

害虫一齊驅除並ニ現地講話

講話會(婦人農會ノ事業トシテ主トシテ家政育兒農業其他公共事業等ニ關スル講話ヲナス)  
夏蠶獎勵(蠶種無償交付巡回指導)

七月

本田害虫驅除(燈火誘殺法施行 採卵捕蛾)

厩堆肥審査

牛種付

農友會試作田審査

秋蠶獎勵(蠶種無償交付 巡回指導)

八月

夏季果樹肥培管理法指導(巡回剪定 手入法指導)

短期農事講習會

農友會總會

九月

婦人農會總會

新芽刈取施行

十月

本田病害虫驅除(白穗拔取 病莖刈除)

原種田採種田審査

共同採種打合會

神田審査

農友會試作田審査

米作立毛品評會審査

厩堆肥品評會審査

稻刈取及玄米調製法改良(適期ノ指示乾燥法改良)

十一月

牡牛種付

果樹肥培管理指導(巡回剪定 手入法指導)

十二月

農事講話會(農友會ノ事業トシテ主トシテ通俗農事ニ關スルコト)

右ノ外各種ノ會及ビ其狀況ニツキ少ク記スル所アラムトス

(A)小津村農會米作立毛品評會

優等ノモノニハ優勝旗劣等ノモノニハ劣等旗ヲ交付シ之ヲ其耕作地ニ立テシム之ヲ拒ムコトヲ得ザルコトトス

其審査方法ハ

(一)立毛生育狀態

植附ノ正條施肥ノ適度穂揃善良除草其他管理周到ニシテ生育ノ良好ナルモノヲ五十点トス

(二)稻種

善良ニシテ收穫多シト認ムルモノヲ二十点トス

(三)反別

- 一 反歩以上 五反歩以上 十反歩以上 十五反歩以上 二十反歩以上
- (B)小津村農友會 其事業ハ

- (1) 農事ニ關スル研究及調査統計ニ關スルコト
  - (2) 稻種ノ改良及肥料ノ配合法並ニ農具ノ改良ニ關スルコト
  - (3) 農業ニ關スル講習會講話會品評會ノ開設ニ關スルコト
  - (4) 農村ノ風紀改善及ビ勤勉貯蓄獎勵ニ關スルコト
  - (5) 農事上ニ關シ村長及村農會長ヨリ指示セラレタル事項
  - (6) 農家ノ副業及農業經濟ニ關スルコト
  - (7) 農事上功勞アルモノヲ表彰スルコト
  - (8) 其他必要ナル事項
- 目下試作田原採種田學術應用田等ヲ經營シ農事改良ノ照會指導ニ努メツ、アルヲ以テ一般農家ハ爲メニ指教ヲ受クルコト多シト云フ其他農友會事業計劃年次表(自四十四年 至大正九年)ハ之ヲ略ス
- (C)小津村婦人農會々則
- 第一條 本會ハ本村農家ノ婦人ニシテ一家ヲ主宰セルモノ、妻ヲ以テ組織ス
  - 第二條 本會ハ小津村婦人農會ト稱シ事務所ヲ小津村農會内ニ置ク
  - 第三條 本會ハ農事ノ改良副産ノ増進其他婦女子ノ從事スベキ業務ノ改善ヲ謀リ一家ノ内助者トシテ其責任ヲ完クセンコトヲ目的トス

第四條 本會ニ於テ施行スベキ事業概目左ノ如シ

- 一 農事改良ニ關スル講習會講話會ノ開設ニ關スルコト
  - 二 副産事業ノ撰擇及獎勵ニ關スルコト
  - 三 婦女子業務ノ改善ニ關スルコト
  - 四 婦人ノ修身上ニ係ル講話會ノ開設ニ關スルコト
  - 五 農家經濟ニ關スルコト
  - 六 勤儉貯蓄及慈善ニ關スルコト
  - 七 農事試驗場視察ノコト
  - 八 農事上ニ關シ村長及村農會ヨリ指示セラレタル事項
  - 九 其他農事上ノ改良及家政上内助者タルノ責任ヲ完クスルニ必要ナル事項
- 第五條 本會ハ小津村農會長ヲ總裁ニ戴キ同會ノ役員ヲ顧問トシテ其指揮ヲ受クルモノトス
- 第六條 本會ハ總會ノ決議ニヨリ名望學識アルモノ又ハ本會ノ爲メ特ニ功勞アルモノヲ名譽會員ト爲スコトヲ得
- 第七、八、九、十、十一條ハ之ヲ略ス
- 第十二條 本會ハ毎年一回總會ヲ開キ經費ノ決算會務ノ報告其他必要ノ事件ヲ決議ス
- 第十三條 總會ハ會長之ヲ招集シ且ツ其議長トナルモノトス
- 但創立ノ當分ハ總裁ガ議長トナルコトアルベシ
- 第十五條 總會ニ於テ決議ヲ要スヘキ事項ニシテ輕易ナルモノハ幹事會ノ議決ニヨリ之ヲ行フコトヲ得(七大字ニ一人ツ、ノ幹事アリ)但シ幹事會ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
- 第十七條 本會ノ經費ハ會員ノ職金基本金ノ利子寄附金其他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第十四、十六、十八條及婦人農會事業計劃年次表ハ之ヲ略ス

(D) 小津村貯蓄兼小作人獎勵組合

(1) 存立期間明治四十二年十二月ヨリ滿十五箇年間

(2) 此會ノ創立マデハ凶作ニ際シ小作米部引ニ付キ地主小作人間ニ折合惡シキコトアリシガ今ハ其惡風大ニ除去セラレタリ

(3) 毎年土地所有者(地主自作者共)田一反歩ニツキ玄米二升小作人ハ玄米一升以上ヲ貯蓄スルモノトス

(4) 本村産業組合員以外ノ者ニシテ肥料農具購入ノ資金及取付飯米料ノ貸付ヲ申出テタルトキハ其信用ノ程度ヲ調査シテ之ヲ貸附スルモノトス

(5) 本組合ハ組合員相互ノ親睦ヲ圖リ且農事改良發達ヲ期スル爲毎年春秋二回懇話會ヲ開クモノトシ相當ノ講師ノ講話アルヘシ

(6) 小作者ノ善行ヲ表彰シ及保護ヲナスコトアルヘシ

(7) 組合員疾病其他不慮ノ災害ニ遭遇シタルトキハ相當ノ救濟ヲ爲スコトアルヘシ

(E) 小津村青年會神田設置規則

青年會ニツキテハ別ニ記スベキコトナキモ之ニ附屬セル神田ニ關シ其設置規則ヲ掲クレハ左ノ如シ

第一條 本會ハ古典ニ準據シテ各支部ニ神田ヲ設ケ村發農達ノ指導ニ任シ以テ報本反始ノ主旨ニ副フト共ニ神社ノ基本財産ヲ造成スルモノトス

第二條 神田ハ各支部ニ一反歩ヲ下ルコトヲ得ズ

第三條 神田ハ適度ノ深耕正條植害虫驅除等一切ノ作業ハ總テ現今一般ニ獎勵シツ、アル農事

改良法ニヨリ之ヲ執行スルハ勿論尙進ミテハ試作其他ノ方法ニヨリ農業改進ノ範ヲ示スモノトス

第四條 神田ニ要スル稻苗ハ共同苗代ニ育成セシメタルモノヲ用ヒ移植ハ本村長ノ指導ニヨリ耕作者及其他氏子一同神社ニ參拜シ奉告祈禱祭ヲ擧ゲタル上之ヲ行フモノトス

第五條 神田ヨリ收得シタル新穀ハ神嘗會當日神社ニ獻備シテ耕作者及氏子一同參拜シ年ノ豊熟ヲ奉告シ祭禮ノ誠ヲ致スヘキモノトス

第六條 神田ハ可成一般農業者ノ目撃シ易キ場所ヲ選定スルモノトス

第七條 神田ニハ神田タルヲ知ラシムル爲第一號様式ノ木標ヲ建設スルモノトス

第八條 神田ニハ日誌ヲ作り置キ耕作ニ從事シタル月日施肥ノ數量其他ノ概況ヲ記載シ置クモノトス

第九條 神田耕作者ハ各支會青年々長者ヨリ採リ五名ノモノヲ以テ之ニ充テ支會長監督ノ下ニ耕作スルモノトス

前項耕作ニ要スル農具ハ各家ニ使用ノモノヲ持テ寄ルモノトス但使用料ハ給セス

第十條 神田ノ耕作者ハ其年ニ於ケル施肥ノ數量其他作業上一切ノ模様ヲ後耕者ニ引繼ギテ爲スモノトス

第十一條 神田ニ關スル一切ノ責任ハ耕作者之ヲ負擔スルモノトス

第十二條 神田ヨリ收得スル農產物ハ耕作者支會長村長立會ノ上之ヲ競賣ニ附シ其得タル代金ヨリ神田ニ要シタル諸費ヲ控除シ殘金ハ之ヲ神社ノ基本財産トシテ寄附スルモノトス

第十三條 本規則ハ本村長ノ認可ヲ受クルモノトス將來ノ改廢亦同シ

(明治四十二年十二月ヨリ施行ス)

一、小學校基本財産造成ニツキテハ  
 村民各戸ニ一等玄米五升末等五合マデノ等差ヲ設ケ之ヲ毎年蒐集シテ基本財産ニ指定寄附ヲ  
 ナス大正二年度ノ寄附額百貳拾壹圓貳拾壹錢  
 生徒ハ毎月一人ニツキ壹錢ツ、ヲ蒐集シ生徒總代ヨリ指定寄附ヲナス  
 大正二年度ノ寄附額五拾壹圓

一、明治四十二年一月ノ創立ニカ、リ村内有志者ヲ以テ組織セル小津村濟美團ト云ヘル團體ア  
 リ其事業ノ第一ニ本村自治問題及ビ公益問題ヲ研究シ村民ヲ誘導啓發シ並ニ村理事者ヲ補佐  
 スルコト第二ニ風俗ノ改善ヲ謀リ勤儉貯蓄ノ美風ヲ涵養シテ實力ノ養成ヲ謀ルコト等アリ彼  
 岡山縣八濱町ノ八濱協會ト類似シタルモノナリ會費ハ一箇年金拾五錢ナリ猶之ニ附屬シタル  
 濟美團尙善規約ト云ヘルモノアリ社會各方面ニ涉リテ綿密ナル儉約法ヲ規定セリ參考ノ爲左  
 ニ之ヲ掲グ

小津村濟美團尙善規約

第一章 總則

第一條 本規約ハ濟美團々則第二條第二號ノ趣旨ヲ貫徹スル爲以下各章ニ掲グル事項ヲ實行  
 スルヲ以テ目的トス

第二章、風紀

第二條 毎朝夕必ズ神佛ヲ禮拜スルモノトス

第三條 公會ト私會ヲ問ハズ凡テノ會合ハ時間ヲ恪守シ必ズ定刻ニ參集スベキモノトス若シ  
 事故ノ爲メ參集スル能ハザルカ又ハ遲刻ノ場合ハ定刻前ニ其旨主催者ニ告知スベキモノト  
 ス

第四條 親族間ハ勿論近隣知已其他ニ於テ災厄ニ罹リタルモノアルトキハ誠意ヲ以テ直チニ  
 之ヲ慰問シ且ツ應分ノ援助ヲ與フル等隣保相扶ノ情誼ヲ厚クスルコトニ勉ムベキモノトス

第五條 在住區内ニ於テ葬式若クハ入退營者アルトキハ必ズ會葬又ハ見送り出迎ヘ等ヲ爲ス  
 モノトス

第六條 演劇相撲ハ勿論其他風紀ヲ紊乱スヘキ處アル興行ハ一切之ヲ爲スヘカラズ

第三章 勸勉

第七條 毎日ノ起床及終業ハ朝夕寺院ノ撞ク梵鐘ヲ相圖トシテ勸勉其業ニ從ヒ常ニ家族ヲ戒  
 メ苟クモ遊惰ノ行爲ナカラシムルモノトス

寺院ノ撞鐘ノ時刻ハ日ノ長短ニヨリ團長之ヲ定メ各寺院ニ囑托スルモノトス

第八條 農圃ノ際ハ勿論夜間ニ於テモ適當ノ副業ニ從事寸陰ヲモ空クセス能ク勸勉ノ美風  
 ヲ馴致スベキモノトス

第九條 一般ノ休業日ヲ左ノ通り定メ之ヲ實行スルモノトス

一 三 大 節 一月一日 二月十一日 八月三十一日

一 年 始 休 一月二日三日 同十五日十六日

一 郷 村 社 祭 日 五月五日 村社ハ其區村社ノ祭日

一 節 句 四月三日 十月九日

一 植 帶 ケ 休 日 六月二十七日

一 中 元 八月十五日十六日十七日 二十三日二十四日

一 秋 休 日 十二月一日

第四章 總約

第十條 婚禮ハ總テ質素ヲ旨トシ左ノ各項ヲ恪守スルモノトス

(1) 嫁入ノ際ノ荷物ハ左ノ制限ヲ超ユベカラズ但本村戸別等級五等以上ニシテ入嫁先ト定約上止ムヲ得ザルモノハ此限リニアラズ

本村戸別等級十等以上ノモノ 同十六等以上ノモノ 同十七等以下ノモノ

- 簞笥 二本 二本 一本
- 長持 二本 一本 一本
- 両掛 一荷 一荷 一荷
- 行器 一荷 一荷 一荷

(2) 出振舞ニ招待スル人員ハ左ノ制限ヲ超ユベカラズ

父子兄弟姉妹ノ間柄ハ二人以内其他ハ一人トス

(3) 婚家ガ弘メニ招待スル人員ハ左ノ制限ヲ超ユベカラズ但膳部ハ分度ヲ守ルベシ

父子兄弟姉妹ノ間柄ハ三人以内其他ハ二人以内トス

第十一條 出產アリタルトキハ左ノ各項ヲ恪守スルモノトス

(1) 産婦ノ親元ヨリ贈與スル産衣産餅ハ總テ料金ヲ以テシ其額ハ左ノ制限ヲ超ユベカラズ但初産ハ此限リニ非ズ

- イ 本村戸別等級五等以上ノモノ 金拾圓
- ロ 同 十等以上ノモノ 金七圓
- ハ 同 十五等以上ノモノ 金五圓
- ニ 同 十六等以下ノモノ 金參圓

(2) 出産見舞ハ料金ニ限ルモノトシ其額ハ參拾錢以内トス

(3) 帯祝ヒ宮參リ誕生日其他名義ノ何タルヲ問ハズ一切贈答ヲ廢止スルモノトス

第十二條 養子婿入ノ場合ハ前二條ニ準ズ

第十三條 神事祭禮ハ左ノ各項ヲ恪守スルモノトス

(1) 祭禮ハ祝ヲ贈與スベカラズ

(2) 祭禮ニ客ヲ招キ若クハ重詰ノ贈與答ヲ爲スベカラズ但他村ニ渉ルモノハ此限リニアラズ

第十四條 伊勢參宮ハ左ノ各項ヲ恪守スルモノトス

(1) 宮廻リト稱シテ親族知已ヲ招待シ饗應ヲ爲スベカラズ

(2) 下向ノ際ハ其大字區域外ニ出迎フベカラズ

(3) 下向ノ際招待スル人員ハ左ノ制限ヲ超ユベカラズ

父子兄弟姉妹ノ間柄ハ三人其他ハ一人トス

第十五條 徴兵入營及退營ノ際ハ左ノ各項ヲ恪守スルモノトス

(1) 入營祝ヒト稱シ親族知已其他ヲ招待スルハ左ノ制限ヲ超ユベカラズ

イ 父子兄弟姉妹ノ間柄ハ二人以内其他ハ一人トス

ロ 本會ノ代表者青年會代表者軍人會代表者ハ饗應ヲ爲スベカラズ

(2) 饒別ハ料金トシ物品ノ贈與ヲナスベカラズ

(3) 退營ノ際ハ父子兄弟姉妹等ノ外招待饗應ヲ爲スベカラズ

第十六條 葬式ハ總テ質素ヲ旨トシ左ノ各項ヲ恪守スルモノトス

(1) 葬式ノ當日招待スル人員ハ左ノ制限ヲ超ユベカラズ

父子兄弟姉妹ノ間柄ハ全部其他ハ二人以内トス  
 (2)膳部ハ一汁二菜以内トシ酒ハ禁止スルモノトス但團體又ハ他村ヨリノ會葬者ハ此限リニアラズ

(3)大字内ニ於テ夜伽見舞忘中見舞トシテ物品ノ贈與ヲ爲スベカラズ  
 (4)忌明ニ招待スルハ血族ノ者ニ限ルモノトス

第十七條 年忌法事ハ齋ノ饗應ヲ爲サズシテ齋米ヲ以テ代ユルモノトス但シ僧侶ハ此限リニアラズ

第十八條 内佛ノ報恩講ニハ齋ノ饗應ハ勿論供養等ヲ爲スベカラズ但シ僧侶ハ此限リニアラズ

第十九條 家屋其他ノ建築ニハ左ノ各項ヲ恪守スルモノトス

(1)家移祝ニ招待スル人員ハ左ノ制限ヲ超ユベカラズ

父子兄弟姉妹ノ間柄ハ二人以内其他ハ一人トス

(2)石搗ノ手傳ハ親族三人以内近隣知已ハ一人ニ限ルモノトス

第二十條 年始中元歳暮ニ物品ノ贈答ハ勿論招キ合ヒヲ爲スベカラズ

但シ他村ニ涉ルモノハ此限リニアラズ

第二十一條 五節句ニ飲食物ノ贈答ヲ爲スベカラズ

第二十二條 刈捨磨捨等ノ名義ヲ以テ招キ合ヒヲ爲スベカラズ

第二十三條 遠曆祝病氣全快ハ父子兄弟姉妹親友ノ外他人ヲ招待シ饗應ヲ爲スベカラズ

第二十四條 病氣見舞留守見舞ハ料金ヲ以テシ其額五十錢以内トス

第二十五條 前各條ノ外各爲シ得ベキ節約ヲ加ヘ荷クモ奢侈ニ流ル、ガ如キ行爲アルベカラズ

ズ

第五章 貯蓄

第二十六條 第三章第八條ノ副業ニヨリ得タル利益ハ團長ヲ經テ貯金ノ手續キヲ爲スベシ  
 第二十七條 第四章ノ節約ヨリ得タル利益トシテ其行事毎ニ別表ニ掲グル金員ヲ團長ヲ經テ貯金ノ手續キヲ爲スベシ但本村産業組合員ハ該組合ノ貯金ヲ拂込ムベシ

- 一 災害ニ罹リタルトキ
- 一 一家興廢ニ關スルトキ
- 一 一時多額ノ出金ヲ要シ團長ニ於テ請戻ス必要ヲ認メタルトキ

各自貯金額

事類	等別									
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
年始	1000	800	600	400	300	200	150	100	80	60
郷社祭	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
村社祭	850	650	450	350	250	180	120	80	60	40
中元	1000	800	600	400	300	200	150	100	80	60
出生	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同



又農村ニ於テハ地主ト小作人間ノ輯穆ヲ計ルコト勤勞者ヲ表彰シ惰農ヲ鞭撻スルコト是緊急ノ事業ナリ

次ギニ村落農業者夫妻間ノ實地ヲ視レバ婦人農會ノ如キモノ大ニ必要ナル機關ノ一ナラム  
濟美團尙善規約第四章ノ各種ノ節約ノ如キハ未ダ俄カニ其可否ヲ斷スベカラズト雖第三章第八條ノ如キハ農村ニ取リテハ重大ニシテ且緊切ナル問題ナリ農家ハ存外多大ノ閑時日ヲ有スルモノナリ此時日ノ利用如何ハ農家ノ生計ニ關係スルコト頗ル大ニシテ農村ノ發展ハ米麥作ノ外ニマタ此「如何ニ農閑ヲ善用スルカ」ト云フ問題ノ解決如何ニ待ツコト多大ナラント信ス  
偏ニ專問家ノ指導ヲ待ツモノアルベシ青年會ノ神田ハ之ヲ試驗用ノ如ク經營シテ農家ノ範ト爲サバ一面ニハ青年農事ノ修養ニ資シ一面ニハ其莊重ナルコトニヨリ守舊的ノ頑爺モ神慮ヲ畏ミテ其作業方法ニ從ガウニ至ルベシ恰好ノ制規ナリト謂フベシ  
次ニ米作立毛品評會規程ノ中審査方法ノ第三ニ反別ノ面積ヲ加ヘテ二十点ヲ附シタルハ流石ニ小津村農業ノ發展シツ、アルコトヲ證明セリト謂フベシ或一筆ノ田ニノミ多量ノ肥料ヲ打ち込ミテ優賞ヲ得ントスル者アルガ如キ間ハ品評會ノ進程モ極メテ幼稚ノ境ニアリト謂ハザルベカラズ

(六) 琵琶湖水產物販賣購買組合

漁撈ノ法モ精巧ナラズ交通モ不便ナリシ時代ニハ漁獲物ハ多ク生産地ニテ消費セシガ故ニ供給過多ナルトキハ價格大ニ下落スルヲ以テ漁業者モ強キテ多漁ヲ望マザリシガ交通機關ノ益々發展スルニ從ヒ生産地ト消費地トノ連絡密接シ其範圍モ亦擴大セラレ多額ノ漁獲物モ之ヲ持餘ス等ノコトナキヲ以テ漁撈ノ法日ヲ追フテ進ミ又一方ニハ維新ノ政變ニヨリテ従前ノ禁漁區ハ皆撤廢セラル、ニ至リシ爲濫漁ノ弊ヲ生ジ其結果ハ自カラ魚族ノ減少ヲ來スニ至レリ

又何レノ漁村ニモ免レザル貯蓄ノ念薄キハ漁業者ノ通有性ニシテ多漁ノ時ハ飲食ニ濫費シ不漁打續ケバ忽チ飢餓ノ厄ニ苦シメラル好悪ナル魚商人ハ此機ニ乘ジ高利ノ金ヲ貸附シ其漁獲物ヲ安價ニ叩落シ其利ヲ壟斷スラレバ漁法愈々惡辣ニシテ宏鱗細鱗亦捕獲セラル、モ漁業者ノ利益ハ却リテ少ク一方ニハ魚類益々減少シ遂ニハ魚夫モ魚族モ共ニ滅亡セントスルニ至レリ  
之ニ加フルニ明治三十四年ヨリ三十九年ニ亘リ瀬田川ノ浚渫淀川ノ改修ノ影響ニ依リ湖面ノ水位殆ンド三尺ヲ減シ從來ノ魚付場タル湖岸ノ好漁地ニ大變更ヲ來タシ漁撈一層困難トナレリ之ヲ救済スルニハ一方ニ魚族ノ人爲蕃殖ノ法ヲ講シ一方ニ漁業者ヲ保護シ又之ヲ取締ラザルベカラズ此ニ於テ縣當局者ハ明治四十一年縣令第十四號漁業取締規則ヲ發シテ消極的ニ濫漁ヲ制シ又約二十萬圓ノ巨費ヲ投シテ十一年間年々千幾百萬ノ魚鱒ヲ放流シテ積極的ニ魚族ノ蕃殖ヲ計ルコト、ナリタルヲ以テ湖岸ノ有志者又覺醒シテ全湖ノ漁業者魚商人ヲ統一シテ一ノ組合ヲ設ケ大ニ漁業者ノ利益ヲ保護發展セントスルニ至レリ即明治四十二年十一月琵琶湖水產物販賣購買組合ハ創立セラレ湖岸ニ數十ヶ所ノ魚揚場ヲ設ケ従前魚問屋ニテ漁業者ノ漁獲物ヲ販賣スルトキハ歩合口錢安キハ一割三分高キハ二割二分ヲ徵シタリシモ口錢ハ凡ベテ一割ト定メ其中八分ヲ販賣擔當人ニ與フルコト、シ擔當人ハ其部下ニ數人ノ使用人ヲ置キ委托物品ヲ處理スルコト、ナレリ

湖水ノ生産ハ従前ヨリ滋賀、高島、栗太ノ三郡ニ多ク消費ハ大津市最モ多カリシガ此組合設立後ハ消費生産自カラ權衡ヲ得夏期ハ多ク製造物トナシ漁業者魚商人皆統一セラレ官廳ノ周到ナル監督ト相待チテ湖水ノ漁業ヲシテ堅實ナル發達ヲナサシムベキ曙光ヲ認ムルニ至レリ  
其後明治四十三年五月縣令第三十三號魚商人取締規則ノ發布アリ又明治四十五年一月縣令第一號ヲ以テ漁業取締規則ノ改正發布アリ、六箇區ノ禁漁場ヲ設ケ漁期漁法漁具等ヲ制限シ其第十六

條ニハ漁業者ハ知事ノ指定シタル魚揚場ノ検査ヲ受タルニ非レバ其漁獲物ヲ販賣スルコトヲ得  
ズト規定シ縣告示第五號ニテ其魚揚場五十三ヶ所ヲ指定セリ此ニ於テ魚揚場ニテハ検査ト販賣  
ト同時ニ行ハレ官私ノ提携益々密ナルニ至レリ

現今組合員ノ數ハ三千六百七十四名ニシテ其口數ハ三千六百七十四口ナリ又出資ハ一口金一圓  
ニシテ其拂込額ハ金五十錢ナルヲ以テ拂込濟總額ハ金一千八百三十七圓ナリ而シテ準備金ハ明  
治四十四年度末ニ金三十錢大正元年度末ニ金三十五錢ヲ配分加算シタルヲ以テ現今ノ拂込出資  
金五十錢ノ外ニ金六十五錢ノ持分ヲ有スルモノニシテ其準備金總額ハ二千三百三十六圓八十錢  
ナリ

明治四十四年度農商務省訓令第一號ヲ以テ漁村經營ノ方法ヲ指示セラレタル共同施設事項中魚  
揚場漁獲物ノ共同販賣漁撈及漁獲物製造ニ要スル原料及物品ノ共同購買貯金獎勵等ノ適切ナル  
事項ハ現ニ之ヲ行ヒ追々基礎ノ鞏固ニ及ブニ從ヒ低利ナル漁業資本ヲ供給シテ經濟ノ保護ヲナ  
シ漸次完全ノ域ニ進マントシツ、アリ

本組合ハ琵琶湖沿岸樞要ノ地ニ五十三ヶ所ノ魚揚場ヲ設置シ組合員ノ漁獲物ハ魚價ノ高低販賣ノ  
便否等ノ關係ニ依リ何レノ魚揚場ニテモ販賣ヲ委托スルコトヲ得ルモノニシテ必ズ自己ノ住所  
地ノ魚揚場ニ限ラザルヲ以テ組合員ガ漁業經濟ノ自覺ヲ増スニ從ヒ消費力ノ大ナル地ノ魚揚場  
へ販賣ヲ委托スル者漸次増加ノ傾向ヲ示セリ

大正元年度ノ販賣總高ハ參拾貳萬六千八百五拾五圓六拾壹錢貳厘ニシテ之ヲ前年度ノ販賣總高  
參拾參萬五千八拾圓四拾九錢壹厘ニ比スレバ八千貳百貳拾四圓八拾七錢九厘ノ減少ナリ斯ク減少  
ヲ見ルニ至リシ事由ハ本年度ハ五月以後數ヶ月早天打續キ太湖ノ水位著ク減少シタルヲ以テ鯉  
鮒鱒等ノ主要魚族ガ湖岸へ近寄ラズ爲ニ釣籠大地曳網等ハ全ク不漁ニ終リタリシニ加ヘ九月二

十二日稀有ノ暴風ニテ舩ハ悉ク流失又ハ破潰シ以後數ヶ月間漁業ヲ休止シタリ如斯旱魃及暴風  
等ノ天災ニテ稀ナル不漁ニ際會シタレドモ前年度ノ販賣高ト格別ノ差ナキマデニ達セルハ全ク  
養殖業ノ効果ナリト信ズ又本年度末現在ノ組合員ハ三千六百七十二人ニシテ之ヲ前年度末現在  
ノ組合員三千五百二十七人ニ比スレバ百四十五人ヲ増加セリ是等ハ前記ノ如キ本組合ガ委託品  
ヲ取扱フ實狀ノ一般ニ知悉スル所トナリ追々新規加入ヲ申込ミシニ依ルモノナリ

一、委託物品ノ處理

沿湖樞要ノ地五十三ヶ所ニ魚揚場ヲ設置シ魚揚場ニハ販賣擔當人ヲ置キ專ラ委託物品ノ處理  
ニ從事シ其上ニ幹事ヲ置キ常ニ魚揚場ヲ管理シ販賣擔當人ノ行爲ヲ監督シ金錢ノ收支並ニ規  
程ノ帳簿ヲ管掌セシム又販賣擔當人ハ販賣代金ノ收支ニ關シ責務ヲ負ハシムルヲ以テ何レモ  
扱高相應ノ保證金ヲ徴ス

一、販賣

主トシテ羅市即賣ノ方法ニ依ルト雖販路狹クシテ生産高多キ地ハ古來ノ習慣ヲ斟酌シ立値販  
賣ヲナシ又以上二種ノ方法ニ依リ難キ場合ノモノハ特ニ協定販賣ヲナシ以テ從來ノ販賣ノ弊  
ヲ除キ居レリ

一、執務

前各項ノ如キ方法ヲ以テ日々業務ヲ處理セルニヨリ幸ニ過誤モナク進捗シツ、アリ然レドモ  
何分繁雜ナル業務ヲ取扱フモノナルニ依リ五十三ヶ所魚揚場中報告ノ延滞又ハ違算等ニテ一  
般ノ執務ヲ澁滞ナラシムルモノ數ヶ所アリ

一、販賣擔當人ノ契約ヲ解除變更セシモノ七件期間満了シテ全契約ヲ更新セシモノ三十一件ア

- 一、本年度末ニ於ケル販賣擔當人保証擔保品左ノ通
- 一 現金 六百七拾圓
- 一 有價証券 四千九百貳拾圓
- 一 土地 九反二十二步

一、購買事業ノ狀況

購買ノ業務ハ大正元年度ヨリ實行シタルモノニシテ同年ニ購買シタル物品ハ魚類製造物ノ原料タル鮎ト漁具ノ材料タル綿糸製網ノ二種ナリ鮎ハ米價ノ騰貴ニ伴ヒ其格價非常ニ昇騰シ從テ在品ノ稀薄ナリシ爲當業者ハ鮎ノ購入ニ頗ル困難シ其狀態見ルニ忍ビザリシヲ以テ本組合ハ京坂地方ノ製鮎業者ニツキ品質製造方法價格等ノ調査ヲ爲シ遂ニ大坂市製鮎業者ヨリ購入シ之ヲ各當業者ニ分チタルヲ以テ唯一時ノ需用ヲ滿シタルノミナラズ代價ハ市價ニ比スレバ四斗樽一打ニツキ金壹圓以上ノ安價ヲ以テ優良品ヲ使用スルニ至レリ亦製網ハ三重、愛知、大坂等ノ信用アル製網業者ニツキ品質製造方法價格等ヲ取調べ考査ノ上三重縣ヨリ購入シタリ從ツテ當業者ハ同一時期ニ一定ノ品ヲ使用シ得ルヲ以テ漁業準備ニ頗ル便ヲ得タリ以上ノ次第ナルヲ以テ此種ノ業務ハ漸次擴張シ漁業經濟ノ保護ヲ完カラシメントシツ、アリ

一、貯金ノ狀況

從來漁業者中多數ノ弱點ハ常ニ貯蓄ノ志ニ乏ク從テ產ヲ治メ難キニアリ故ニ貯金ノ獎勵ハ最モ緊要ナル業務ニシテ本組合ハ漁獲物ノ販賣代金支拂ノ都度百分ノ一ヲ控除シ之ヲ毎月末ニ郵便規約貯金トナシ組合員各自ノ名義ヲ以テ預金トセリ大正元年度中ノ預入額及拂戻額差引現在額ヲ示サハ左ノ如シ

明治四十四年度未現在	大正元年度預入高	拂 脱退ノ爲	戻 困難甚シキ爲漁具仕入ノ爲	額計	差引現在高
七、一〇九、七三六	三、六二、〇九〇	一六、四三三	一五、二八〇	五九、〇〇〇	九九、〇四、二五三

一、損益計算

種目	金額	種目	金額
立 值 販 賣 步 合 金	四、二五九、三八〇	事 務 費	二九、〇〇〇
其 他 販 賣 步 合 金	二五、六八〇	什 器 減 價 償 却	二四八、一三〇
預 金 利 子	七、一五八	支 拂 利 子	三六〇、五〇〇
購 買 品 利 益	一五八、七二一		
購 買 品 利 益	九六〇、〇〇〇		
合 計	三〇、三二一、八〇八	合 計	二九、〇六一、〇〇八
差引剩餘金			一、二五〇、八〇〇

此處分、剩餘金ハ悉ク準備金トス

意見

扱フ處ハ淡水魚ニシテ湖水ト海面トハ狀況ヲ異ニスルヲ以テ吾縣漁村ノ經營ニ採リテハ直接ノ參考ト爲スニ足ラズト雖舊湖魚族ノ蕃殖漁業者ノ統一保護又ハ取締ノ爲公私提携ノ狀況ハ頗ル適當ノ措置ト云フベシ

(七) 近江米同業組合

明治二十年頃當業者ニ於テ米質改良組合ナルモノヲ組織シ米質ノ改良ヲ計リシヲ出發点トシ幾多ノ波瀾ニ漂ヒ曲折ヲ經テ明治三十三年重要物産同業組合法ノ發布セラレ、ヤ被防長米同業組合ト相前後シテ進ミ着々効果ヲ舉ケツ、今日ニ至レリ尤モ縣事業ニアラザレバ其統御ヤ、緩ナルヲ免レザレドモ兎ニ角年ヲ重テ穩健ナル發達ヲナシ來リタルモノナレバ其施設マタ見ルベキモノアリ

組合ハ滋賀縣一圓ヲ地區トシ田地所有者米商人ヲ以テ組織シ組合事務所ニハ組長一名副組長一名評議員五名アリ其他十三出張所ニ各所長アリ其管内ニ委員アリ總代アリ目下組合員八萬七千五百人委員二百六人總代千六百六十七人輸出検査役四十二人地元検査役六百二十人監査役十六人アリ而シテ組合會議員ハ二十九名ナリ

地元検査ハ出張所ノ承認ヲ得タル各大字ノ検査場ニ於テ總代立會シテ地元検査役之ヲ行フ其時期ハ早稻收穫期ヨリ翌年二月マデテ定期トシ其他ヲ臨時トス地元検査料一俵ニツキ定期ハ二錢臨時ハ四錢ヲ徵收シ小作米ノ検査料ハ地主ノ負擔トス輸出検査料ハ一俵金一錢五厘ヲ徵收ス地元検査ノ等級ハ合格甲乙丙ト不合格ノ四トシ輸出米ハ一等ヨリ五等マデ五階級アリ一俵ノ容量ハ四斗一升トス但一斗以上ノ端米ニ限り袋或ハ叭入ト爲スコトヲ得俵裝米ニハ其内ニ玄米中札(半紙六ツ切)其外面ニ外札(竹)ヲ挿入ス三等四等五等ノ券米ヲ(米穀取引所又ハ倉庫會社ノ保管ニ係ル)六月末日以後一等二等ノ券米ヲ十二月末日以後ニ出庫シ輸出セントスルトキハ再検査ヲ行フ

查ヲ行フ

本所並ニ出張所ノ監査役ハ絶エズ検査米ニツキ生産人ノ居宅及輸出検査場ニ臨檢シ不適當ノモノニハ再調ヲナサシム組合ハ連年縣郡農會及縣農事試驗場ト連絡ヲ密接ニシ稻種ノ改良ヲ圖リ又地主小作人ヲ勸說シ集談會ヲ開キ誘掖ニカム農業者亦大ニ自覺シ各郡ニ小作及俵裝獎勵事業、玄米品評會米作立毛品評會等頻々起リ組合ノ事業遂行ニ援助ヲ與フルコト少ナカラズ殊ニ幹部役員ノ視察事項二千二百七十八件ニ上リ尙運送業水車業等ノ取扱米ノ狀況四百五十一件、乾燥方法施行ノ狀況四百五件、自用飯米精米ニ依頼スルモノ、狀況三百二十七件、古俵ヲ賣買スルモノ、狀況百七十五件、車夫船夫等ノ運送米取扱ノ狀況百七十件、使用濟ノ證券竹札取扱ノ狀況百二十九件、其他酒造家梳商ノ端米取扱ノ狀況寄贈米ヲ取り集メ又ハ端米ヲ買集ムルモノ、狀況自用米ヲ貯藏所へ運搬スルモノ、狀況其他府縣へ小作米ヲ納附スルモノ、狀況、粉摺シタル米穀運搬ノ狀況各數十件ニ周到ナル視察注意ヲ拂ヒタルハ其執務ニ細心ナルヲ見ルベシ

明治四十四年地區内ニ於ケル作付反別六萬二千二百二十二町八反取穫高百三十二萬七千三百五十七石五斗八升ニシテ検査數ハ地元検査、玄米二百一萬五千九百七十八俵精米六十七萬七千五百一十一俵輸出検査玄米八十一萬七千四百六十六俵精米五十五萬三千四百四十八俵、外ニ他國産米地元検査二萬七千三百十九俵合計四百八萬八千六百六十二俵ナリ

検査事業ノ施設經營未検査米ノ賣買授受ヲ防遏スルノ目的ヲ以テ極力監査事務ヲ勵行シ一面監査役検査役會ヲ開キ或ハ集談會ヲ各地ニ開催シ役員ヲシテ専ラ技術ノ練磨ト智識ノ修養ヲ圖ラシメ其他乾燥調製俵裝等ノ諸点ニ向ヒテ一層ノ改良ヲ獎勵シツ、アリ其結果市場ニ於ケル近江米バ其信用比年厚キヲ加ヘ價格ヲ進メ販路ヲ擴張シ漸次價格ノ上騰ヲ致セリ輸出先ハ重モニ

京都市ニシテ殊ニ渡船附種ノ如キ大粒ノモノハ最も歡迎セラレ  
違約處分、違約者ノ處分トシテ過怠金ヲ科セシモノ百五十四人嚴戒處分ニ付シタルモノ五十  
七人アリ殊ニ其違約事項タル未検査米ヲ賣買又ハ他ノ使用ニ供セシモノ九十七人俵造ニ違反セ  
ルモノ二十九人米ノ調製及枘入ニ違反セシモノ二十五人アルニ至リテハ遺憾ナリト云ハザルヲ  
得ズ猶監査事項千八百九十件其中地元検査ノ際注意ヲ加タルモノ四百八十八件俵造不完ナルヲ  
認め改調セシモノ二百八十一件無加盟者ヲ説諭セシモノ二百三十一件證票竹札等ノ注意ヲ加へ  
タルモノ二百十件古俵ヲ使用セントセシモノ二百四件未検査米ヲ取引セントセシモノ百件アリ  
シガ如キハ猶組合員督勵ノ餘地充分ナルコトヲ證スルモノナリ  
明治四十四年度ノ組合經費左ノ如シ

歳	入	歳	出
第一欸 證 票 料	三、二六三・五〇	第一欸 事務所費	一四、六三六・二九六
第二欸 檢 査 料	五八、六二五・四二二	第二欸 地元検査費	一三、六二〇・五七一
第三欸 雜 收 入	五三二・〇二四	第三欸 會議費	一、六二二・四五〇
第四欸 前年度繰金	三、九二二・〇二四	第四欸 出張所費	三〇、七九二・一〇五
		第五欸 獎勵費	一、〇六六・七二八
		第六欸 雜 支 出	五五三・六三四
		第七欸 俵米品評會費	一、二六七・九六一
計	六六、三四〇・九七〇	計	一、二六七・九六一

臨時費

第一欸 粃種購入費	三二四・〇〇
計	六三、八八一・七四五
收支差引 殘 高	二、四五九・二二五

(丁) 總ベテニ就キテノ意見

三縣視察中雜多ノ所感ヲ綜合シテニツノモノヲ得タリ曰ク講話會曰ク平凡ナル耐忍家はナリ  
百般事業ノ指導獎勵ニハ頻々講話會ヲ開キテ可及的多數ノ頭腦ヲ開拓スルヲ第一トス勸業上各  
種事業ノ改善郡村凡百ノ會凡ベテ是耳ヨリ注入シテ其頭腦ヲ開拓スルニ非ザルハナシ  
抑々質樸ナル村落人民ノ良心ヲ蠱毒スルモノハ各種選舉ニ伴フ醜汚ナル弊害ニ過キタルモノナ  
シ這般四模範町村ヲ視タルニ皆其上流人士ノ徳操固ク常ニ一般選舉人ヲ指導シ選舉人亦之ニ信  
頼スルニヨリテ殆ソド此弊害ヨリ脱セルモノ、如シ滔々トシテ世ヲ溷濁セシムル此弊ヲ矯正ス  
ルニ於テ余等ハ一面ニハ縣下各市町村ノ有力者ニ望ムニ一般人民ヲ指導スベキ重責ヲ自覺セラ  
レムコトヲ以テシ又一面ニハ縣斯民會ニ對シテ其活動ヲ要望ス即チ頻々人心修養ニ關スル講話  
會ヲ開キ以テ惡弊ヲ矯正シ美風ヲ作興スルノ端ヲ開カムコト是ナリ其事ニ當ルニハ無論會ノ講  
師ヲ煩ハスベキモ講師多ク官途ニアルノ人サナキモノ亦閑日月ヲ有スル人少キヲ以テ周ク講  
師ヲ煩スコトハ難シサレバ其要望ノ大部分ヲ移シテ各支部ノ活動ヲ求ムルノ外ナシ支部亦數萬  
ノ人口ヲ有ス講師トシテ適當ノ人ヲ撰マバ屬托其人ヲ得ル亦難キニアラザルベシ  
單ニ斯民會講話トシテ開催スルニ差支アラハ實業ヲ勸メ教育ヲ談シ貯蓄ヲ誘ヒ徳操ヲ説ク等雜

種的講話會ヲ開催スルモ可ナリ要ハ郡長或ハ郡吏員郡有志者僧侶神官苟クモ其任ニ堪ユルモノハ相携ヘ相助ケ郡内ヲ巡回シテ大ニ講話ヲ爲シ十回ヨリ二十回二十回ヨリ百回ト其多キヲ加ヘナハ講話會ノ功果ハ大ナルモノアラムトス

次ギニ實業教育自治等ノ當事者ハ摯實誠意ノ人ヲ要ス即チ平凡ナル繼續的實行ニ堪ユルノ人ヲ要ス殊ニ村自治ニ於テハ一層其切ナルヲ覺ユ如何トナレバ平凡ノ耐忍即事功ヲ遂グベケレハナリ之ヲ約言スレバ各種ノ事業指導ノ機關トシテハ講話會必要ナルベク其實行者トシテハ平凡ナル耐忍家ヲ要ス

(戊) 補遺

視察事項一ト通り記述シ終リ冗煩ノ恐レアレドモ尙數項ヲ加フルコトトス  
A、岡山縣立農事試驗場ニツキテ

(一) 梨赤星病豫防試驗

(イ) 病徵

春四五月ノ頃ヨリ梨ノ葉ノ表面ニ點々光澤アル橙黃色ノ稍々隆起シタル病斑ヲ生ズ此病斑ハ初メ極メテ微少ナレドモ漸次其大サヲ増シ六七月ノ頃ニ至レバ病斑ノ裏面ニ總狀ヲ爲セル灰白色ノ物質ヲ突出シ病葉ハ未ダ秋色ヲ見ザルニ次第ニ枯死落葉スルニ至ル爲メニ梨果ハ充分ニ充實スル能ハズ枝ハ翌年花芽ヲ生スルコト小ク從テ結實僅小ナルノミナラズ往々枯死スルモノアリ果實ニモ亦病斑ノ病生スルコトアリテ被害果ハ畸形ヲ呈シ多クハ成熟ニ至ラズシテ落下ス

(ロ) 病原

「きむのすばらんきうむ、やはにかむ」ト稱スル一種ノ微菌ノ寄生ニヨリテ起ルモノニシテ六七月ノ頃生ズル病斑裏面ノ總狀物質ハ成熟スルニ從ヒ破裂シテ内ヨリ淡褐色ノ粉末ヲ飛散ス此粉末ヲ銹胞子ト云ヒ總狀物質ヲ銹胞子腔ト稱ス銹胞子ハ風力ニ依リテ杜松ビヤクしん類ノ枝幹葉上ニ落下シ直チニ發芽シテ植物体内ニ侵入シ以テ冬ヲ越ス而シテ年々此處ニ寄生シ毎年春季黃褐色ノ物質ヲ現出ス此物質ハ冬胞子堆ト稱シ四五月頃ニハ降雨毎ニ次第ニ膨脹シ遂ニ寒天狀トナリ黃色粉末ヲ以テ被ハル此粉末ハ小生子ト稱シ雨後直チニ梨ノ葉上ニ飛散シ發芽シテ葉肉内ニ侵入シ約十日間ノ後小病斑ヲ見ハシ赤星病斑ヲ形成スルモノナリ此ノ如ク本病ハ杜松ビヤクしん類ト極メテ密接ノ關係ヲ有スルモノニシテ若シ杜松ビヤクしん類ヲ絶滅スルニ於テハ本病ハ自然發生ヲ見ザルニ至ルベシ

(ハ) 豫防試驗成績

明治四十二年ヨリ三箇年間ノ試驗成績ヲ綜合シテ結論ヲ下セバ

(1) 梨赤星病菌ノ梨樹ニ侵入スルハ梨樹葉芽ノ開綻ヨリ落花後約四五日ニ亘ル間ニシテ此期間内降雨ノアル毎ニ傳染ス而シテ其中最モ重モナル期間ハ開花ヨリ落花マデノ間ナリトス但シ此期間内ニ於テ降雨ナキカ或ハ極メテ雨少キ場合ハ多少期間ニ延長アルベシ

(2) 梨赤星病ハ病菌侵入後一週間ニシテ針頭大ノ病斑ヲ形成ス

(3) 梨赤星病ハばるごう液ニヨリテ豫防スルヲ得

(4) ばるごう液ノ撒布ハ右傳染期間ニ於ケル降雨ヲ標準トスベシ

(5) 降雨後ノばるごう液撒布ハ降雨前ノ撒布ニ比シ効力小シ

- (6) 冬胞子堆ノ膨脹最盛期ヲ過キタル後(普通落花後)ノばるごう液撒布ハ効果小キノミナラズ却リテ果實ヲ損害スルノ恐レアリ
- (7) 果實ノ直徑四五分ニ達シタル時ハ最早ばるごう液ヲ撒布スベカラズ
- (8) 撒布回数ノ多キトばるごう液ノ濃厚ナルトハ果實ヲ損害スルコト多シ
- (9) ばるごう液ノ害ヲ受ケタル果實ハ輕微ナルモノハ單ニ果面ニ薄墨ヲ流セル如クナルモ劇シキモノハ其色濃ク且發育不良肉質粗ニシテ甘味乏シク酸味強シ而シテ外皮ノ變色部ハ貯藏後マス／＼鮮明トナル
- (10) 二斗五升式及三斗式ばるごう液ハ葉及花ニ對シテハ些ノ害ヲモ認メズ
- (11) 砂糖ばるごう液ハ豫防ノ効果大ナルノミナラス普通ノばるごう液ヨリモ害小シ
- (12) 梨赤星病豫防ハ三斗式以上濃厚ナルばるごう液ヲ撒布スルノ必要ヲ認メス
- (13) 冬胞子堆ノ膨脹最盛期間ニ於ケル降雨前後ノ撒布ハばるごう液使用量ヲ節シ努力ヲ省キ果實ヲ損害スルコト小ク而カモ收量ヲ減セザル程度ニ於テ赤星病ヲ豫防シ得ル最良ノ方法ナリトス

(二) 漬物用大根

(イ) 品種試験

本試験ハ前年ニ繼續ス即チ各地ニ於テ栽培セラル、漬物用大根ニツキ其優劣ヲ比較シ以テ本縣ニ好適ナル良種ヲ選擇セムガ爲メニ六種ニツキ試験セシニ根ノ收量最も多カリシハ長崎澤庵大根ニシテ天滿大根ハ僅小ノ差ヲ以テ之ニ次ギ島大根練馬大根等之ニ次ギ御器所田邊等最も少ナカリキサレドモ之ヲ漬物トナシタルモノ、品質ニ至リテハ田邊最も優良ニシテ長崎之ニ次ギ天滿及島ハ採收期ノ稍々遅レタル爲メニヤ既ニ乾燥當時ニ於テ

肉質ノ充實不良ナルモノ多ク各種ノ特性ヲ比較調査スル上ニ於テ遺憾ノ点少ナカラザリ

(ロ) 肥料試験

本試験ハ前年ニ繼續ス即チ當場ニ於ケル大根ノ普通肥料(堆肥三百貫人糞尿五百貫練粕十貫此合成分窒素五貫百九十匁磷酸一貫七百五十匁加里二貫五百八十匁)以外ニ尙三要素ノ何レカヲ加用スルノ必要アリヤ否ヤヲ檢センガ爲メ窒素一貫加用、二貫加用、磷酸一貫加用、二貫加用、加里一貫加用、二貫加用ノ七區ヲ設ケテ試験セシニ左ノ如キ成績ヲ得タリ

試驗區別	總收量	根重量	見積價格	見積價格ヨリ肥料代ヲ引去リタル殘金
一 普通 肥料	二,〇〇一,六〇〇	一,四九三,一九四	七〇,〇五六	五五,三〇〇
二 窒素一貫加用	二,二七六,六〇〇	一,五九九,四九〇	七九,七二六	六二,三〇九
三 窒素二貫加用	二,三七一,四〇〇	一,五〇六,八〇四	八三,〇三四	六二,七七六
四 磷酸一貫加用	二,三三二,六〇〇	一,四七二,二九〇	七四,二五八	五九,七四四
五 磷酸二貫加用	二,三三二,六〇〇	一,四八九,三六三	七四,二五六	五七,九四八
六 加里一貫加用	二,二七五,六〇〇	一,五〇五,五二五	七六,一四六	六〇,四八八
七 加里二貫加用	一,八五五,八〇〇	一,五〇四,八六四	六六,〇〇三	四九,三〇一

之ヲ前年來ノ成績ト對照スルニ窒素加用區並ニ磷酸加用區ノ收量及見積價格ヨリ肥料代ヲ控除シタル殘金ガ普通肥料區ニ勝ルコト加里二貫加用區ノ收量及見積價格ヨリ肥

料價格ヲ控除シタル殘金ガ普通肥料區ニ劣ルコトハ全然一致セリ

(三) 胡瓜

(イ) 品種試驗

本試驗ハ著名ナル胡瓜ノ品種ニツキ其優劣ヲ比較セムガ爲從來三枚目節成、普通節成、青長、廣島大長ノ四種ヲ栽培セシガ本年ニ於テハ更ニ刈羽節成ヲ加ヘタリ而シテ本年收量最モ多カリシハ廣島大長ニシテ青長僅カニ之ニ劣リ普通節成三枚目節成之ニ次キ刈羽節成最モ小ナカリキ而シテ見積價格ニ至リテハ青長第一位ニ居リ三枚目節成廣島大長之ニ次ギ刈羽最モ小ナカリキ

(ロ) 肥料試驗

本試驗ハ本場ニ於ケル胡瓜ノ普通肥料(堆肥二百貫榮種粕十五貫人糞尿五百貫此三要素含量窒素三貫八百五十八匁磷酸二貫匁加里二貫八百五匁)以外ニ尙三要素ノ何レカラ加用スルトキハ胡瓜ノ收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ檢センガ爲七區ヲ設ケテ試驗セシニ左ノ成績ヲ得タリ

試驗區別	收量	見積價格	見積價格ヨリ肥料代金ヲ控除シタル殘金
一 普通肥料	一、一〇五、七二〇	五五、七六六	四三、五五二
二 窒素一貫加用	一、二三元、五二八	四七、二四九	三一、六八一
三 窒素二貫加用	一、四八六、七八〇	七四、五四四	五五、七四四
四 磷酸一貫加用	一、五〇五、二五八	七七、二一九	六四、三三四

五 磷酸二貫加用	一、一五〇、六八〇	五四、四八〇	四〇、八三三
六 加里一貫加用	一、三三四、五二〇	六九、五四六	五六、三〇八
七 加里二貫加用	一、一三七、三五〇	五五、五〇一	四一、二五〇

更ニ前年來ノ成績ト對照スルニ窒素一貫加用及二貫加用、磷酸一貫加用、加里一貫加用區ノ收量普通肥料區ニ勝レルコト並ニ磷酸二貫加用加里二貫加用區ノ收量ガ却ツテ普通肥料區ニ劣レルコト等本年ノ成績ト略一致セリ就中窒素二貫加用區並ニ磷酸一貫加用區ノ收量ハ常ニ最モ良好ナリ更ニ見積價格ヨリ肥料代ヲ控除シタル殘金ニ至リテハ胡瓜ノ市價ノ高下ニヨリ一樣ナラズト雖概シテ磷酸一貫加用區最モ優位ニ居リ磷酸二貫加用區並ニ加里二貫加用區ハ常ニ普通肥料區ニ劣ルコト本年ノ成績ニ同ジク其他ノ各區ハ年ニヨリ成績區々ナルヲ免レズ

(四) 茶樹栽培試驗(委托英田郡巨瀬村字海田)

(イ) 剪枝法試驗

本試驗ハ明治四十二年ヨリ繼續施行セルモノニシテ六區ヲ設ケテ試驗シタルニ

甲、剪枝ニ木鋏ヲ使用セル場合

一 從來法	反當生葉收量	一二六、〇〇〇
二 半球形剪枝法	同	一三三、五〇〇
三 蒲鋒形剪枝法	同	一二七、五〇〇
乙、剪枝ニ鎌ヲ使用セル場合		
一 從來法	反當生葉收量	一四一、〇〇〇
二 半球形剪枝法	同	一二四、八〇〇

(ロ)肥料試験

本試験ハ明治四十二年ヨリ繼續施行セルモノニシテ此地方舊株ノ茶樹ニ對シ如何ナル肥料ガ最モ經濟的ニシテ有効ナルヤヲ驗知シ以テ茶樹栽培上施肥法改良ノ資ニ供セムトスルニアリ現今ニ於ケル成績ヲ擧クレハ左ノ如シ

- 1、柴 草 區 反當生葉收量 五八、二〇〇
- 2、人 糞 尿 區 同 六九、六〇〇
- 3、硫酸あんもにや區 同 八四、六〇〇
- 4、大 豆 粕 區 同 八七、六〇〇

B、廣島縣佐伯郡河内村ニ於ケル燒土肥料

河内村ニテハ往古ヨリ水稻ノ裏作即麥菜種等ノ肥料トシテ燒土ヲ施用セルハ農家一般ノ慣行ニシテ其信ズル所ヲ聞クニ燒土ハ多量ニ加里ヲ含有セルヲ以テ植物ノ幹莖ヲ強健ニシ結實ヲ克クシ且ツ雜草ノ發生ヲ防止スル等多大ノ効果アレバ其製造年々盛トナリ行クノ傾アリト云フ燒土製造ニハ豫メ灰小屋ノ設備ヲナス之レ降雨ニ際シ雨覆ヒヲ爲スノ煩ナキヲ以テナリ其建設方ハ適當ノ簡處ニ與行二間間口一間半位ニテ三面石ヲ以テ六七尺ノ高サニ積ミ上ゲ其上ニ屋根ノ構造ヲナス簡易ナルモノハ田圃ノ一隅ニ四本柱ニテ建設ス又前記ノ設備ヲ爲シ能ハザレバ田圃ノ一隅ニ二三坪ノ空地ヲ存シ置キ此所ニテ野燒ヲナスモ差支ヘナシサレド野燒ハ降雨ニ際シ屋根ノ設備ヲナスノ煩アリ

其製造方法ハ先ツ製造セムトスル燒土ノ約三分ノ一ヲ下土トシテ敷キ擴ゲ上ニ燃料ヲ順序能ク積ミ重ネ又其上ニ約三分ノ二ノ土ヲ掛ケ燻燒ス日數ハ七日乃至十日間ニシテ之ヲ掘り返シ

燒ケ殘リタル木片及木炭等ヲ取除キ之ニ廐肥七八駄乃至十駄及稀釋人糞尿二三駄(此量約一石)ヲ混合シテ積ミ立テ置クコト二三日ニシテ施用ス該村農家ニ於ケル燒土製造ノ度數ハ普通三回ニシテ蒔肥トシテ一回追肥トシテ二回ヲ施行ス十中ノ八九ハ野燒ナリ  
燃料ハ小松小雜木雜草齒菜等ニシテ用土ハ田ノ畦畔土若クハ溝土或ハ原野ノ空地ヨリ掘リ取リ來リ用ユルモノモアリ一反歩ニ施用スル燒土ノ原料ハ普通燃料五駄(一駄ハ約十二三貫)ニ對シ土ハ二十駄乃至三十駄トス

C、滋賀縣水産試驗場ニツキテ

(1)米國種河鱒飼育經過

明治四十五年四月十八日醒ケ井養魚場へ放養シタルモノハ同年九月二十二日ノ大暴風雨ノ爲メ田水流出シテ琵琶湖ニ入りシモ石庭溜池ニ放流ノ分ハ目下引續キ飼育中ナリ  
藤野養魚場ニテ飼育ノモノハ初メ放養池面積五十坪ナリシヲ六月二十七日面積十六坪水深平均三尺ノ池ニ移セリ其成績左ノ如シ

放 流 月 日	尾 數	平均鉢長	平均鉢量
明治四十五年四月十八日	—	七分五厘	四 厘
同 六月二十七日	百五十九尾	二寸四分	一匁五分
大正元年十二月二十二日	—	六寸四分	二十三匁
大正二年三月十三日	百四十一尾	七寸六分	五十四匁二分

備考

明治四十五年六月二十七日ヨリ大正二年三月十二日マデノ總餌量九貫二百八十匁專ラ蠶蛹粉蝦粉小麥粉ノ煉製餌料ヲ用ユ其成育頗ル速ク養殖魚トシテ有望ナリ

(2)米國種虹鯿飼育經過

放流月日	尾數	平均体長	平均体量
明治四十五年六月二十日	—	九分五厘	一分
明治四十五年八月六日	—	一寸五分五厘	四分五厘
大正元年十月二十二日	七百八十三尾	二寸五分	一匁四分
同 十一月二十六日	六百四尾	二寸六分	二匁
大正二年三月二十九日	五百五十二尾	五寸九分	十四匁二分

備考

放養池ハ面積六十二坪水深平均四尺ナリ

八月六日ニハ小松養魚場ヨリ伊香郡余吾湖へ一千尾ヲ別チテ放養セリ

琵琶湖産ノ鱒ニ比シ体力強健成長力優良ナリ

明治四十五年八月五日ヨリ大正二年三月二十九日マデ投餌總量二十貫九百三十匁ニシ

テ専ラ魚粉ヲ用ユ

大正二年十一月二十五日印刷發行

三重縣廳

三重縣公報(第三種郵便物認可)

三重縣津市北町拾番屋敷  
印刷兼販賣所 遵法社 松田武兵衛